

科 目 名		地 域 保 育 基 礎 講 座		単位数	2	担当教員	きたの まさる 北野 大 他	
			授業形態	講義				
授 業 の 内 容		3年間の学びを開始するにあたり、前期は様々な基礎事項について学び、地域保育学科の学生として必要な知識、技能、態度等を養成する。学科の専任教員が専門分野の話を交えながら分担して行う。学外講師による講演や校外授業（地域・社会見学等）も予定している。 後期は公務員試験を視野の入れた基礎学力の向上を図る。これは、保育士採用試験、幼稚園教諭採用試験を受験するための基本となる知識を身に付けるだけでなく、短大生にとって必要な最低限の基礎学力を獲得する。中学校や高校の数学、社会科全般、簡単な生物や科学、専門科目の基礎などを中心に、面接試験や作文試験に備えての土台となる時事的な知識の習得にも取り組む。						
到 達 目 標		1．地域保育学科の学生として必要な知識、技能、態度等を身につけている。 2．ノートの取り方及びレポート記述や発表の方法を身につけている。 3．広い視野で自分を見つめ、これからの大学生活・学習に生かせるようになる。 4．保育を学ぶ学生にとって必要な基礎学力を身につけている。 5．保育士採用試験、幼稚園教諭採用試験で6割程度を取れる学力を身につけている。						
授 業 計 画		第1回	4/18	オリエンテーション：授業の概要、学科専任教員の紹介				
		第2回	4/25	学内施設紹介（図書館を中心に）				
		第3回	5/2	学科長講話				
		第4回	5/9	大学での学び① 授業の受け方・ノートの取り方				
		第5回	5/16	女子教育Ⅰ：社会人としての基礎①（身体・生命・健康など）				
		第6回	5/23	大学での学び② 発表・レジュメ作成についてのガイダンス キーワード選び、本の検索と選定				
		第7回	5/30	大学での学び③ テキストの読み方・本を探す 本を読む（15分程度）				
		第8回	6/6	大学での学び④ 考察・要約の仕方（要約練習） きちんと考えて発表するためのテクニック				
		第9回	6/13	大学での学び⑤ レポートの書き方・レジュメの作り方 レジュメの作成（コンピュータ室利用）				
		第10回	6/20	大学での学び⑥ 発表するための準備 レジュメの作成と提出				
		第11回	6/27	大学での学び⑦ 発表するための準備（聞く気にさせる話し方） 提出したレジュメをもとに発表原稿の作成、読む練習など				
		第12回	7/4	発表（クラス別）				
		第13回	7/11	発表（クラス別）				
		第14回	7/18	発表 まとめ 女子教育Ⅱ：社会人としての基礎②（キャリア形成）				
		第15回	7/25	予備				
			未定	校外学習 多摩六都科学館				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習		予習： 準備や振り返り等、自分と向き合う時間が必要である。マスコミなどの報道に気を付け、日々、社会に目を向けるようにしてほしい。			復習： 基礎学力（公務員試験対策）については十分な復習を心がけ定着を図る。			
成績評価の方法		試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート（30％）、課題（20％）、授業態度（50％）						
教 科 書		『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために』（藤田哲也ほか、北大路書房）						
参 考 文 献		なし						
注 意 事 項		学外講師による講演や学外授業の日時および内容等は暫定的である。確定次第連絡するがそれに伴い授業計画も変更になる。						

科 目 名	日 本 国 憲 法		単位数	2	担当教員	ひらた　　よういち 平田　　陽一
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	私達の国家は市民の良識により公正な社会を作ることを目指している（民主制）。この目的を実現するために政府を作り、そして政府の守るべき規範として制定された法が憲法である。この視点から憲法の基本的な考え方を説明する。					
到 達 目 標	1．憲法が制定された目的を理解している。 2．憲法が前提としている「自律した市民」としての自覚を身に付けている。 3．自己の判断により国の政策を選択することができる。					
授 業 計 画	第 1 回	憲法について（憲法は政府の守るべき法であること）				
	第 2 回	近代立憲主義（憲法が政治権力の濫用を防止するための法であること）				
	第 3 回	近代国家と憲法（政府の役割が国民の人権の保障であること）				
	第 4 回	平和主義（国際紛争を平和的手段で解決すること）				
	第 5 回	国民主権主義（国家の政策は国民が決めるということ）				
	第 6 回	人権尊重主義（政府は国民の人権を侵害してはならないということ）				
	第 7 回	権力分立主義（政治権力の濫用を防止するために政治権力を分割すること）				
	第 8 回	人権（人間が人間として生まれながらに当然有する権利であること）				
	第 9 回	自由権（政府の人権侵害からの国民の自由について）				
	第 10 回	社会権（国民の人権を実現するために政府のなすべきことについて）				
	第 11 回	参政権など（国民の意思の表明などについて）				
	第 12 回	立法機関（国会の役割について）				
	第 13 回	行政機関（内閣の役割について）				
	第 14 回	司法機関（裁判所の役割について）				
	第 15 回	憲法の現代的諸問題				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：予習は困難と思われるので、特に必要としない。			復習：単なる復習ではなく、基本的な問題、現在の具体的な問題を心に留めて考え続けることが望まれる。		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	課題の解説					
成 績 評 価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（60％）、授業態度（40％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、憲法の役割を考えて、よい社会は自分達で作るという積極的な心構えで勉強すること。					

科 目 名	情 報 処 理			単位数	2	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	授業の前半では、Microsoft Office に含まれている文書作成ソフト（Word）および表計算ソフト（Excel）の基礎を習得する。 授業の後半では、Word と Excel との同時利用や、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本的な取り扱いかなど、各ソフトの応用課題に取り組む。						
到 達 目 標	１． 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法を習得している。 ２． パソコン初心者は、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 ３． パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	ガイダンス（序章～2 章の 1、3 章の 1） コンピュータとインターネット、モラルハザード、Windows の基礎知識、日本語入力の練習、Word/Excel の起動終了、その他。					
	第 2 回	Word の学習①（2 章の 1～3） やさしい文書の作成練習、その他。					
	第 3 回	Word の学習②（2 章の 4～5） 表の取り扱い、文書の修飾（前）（フォント、下線、網かけ、レイアウト、etc.）、その他。					
	第 4 回	Word の学習③（2 章の 5～6） 文章の修飾（後）（クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線）、その他。					
	第 5 回	Word の学習④（2 章の 6～7） やや高度な文書加工（ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換）、その他。					
	第 6 回	Excel の学習①（3 章の 1～2） 基本的な表（数表）の作成、その他。					
	第 7 回	Excel の学習②（3 章の 3～5） より見やすい表（数表）の作成（関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、etc.）、印刷時の注意事項、その他。					
	第 8 回	Excel の学習③（3 章の 5～6） より高度なデータ処理（前）（条件判定、セル参照、グラフ）、その他。					
	第 9 回	Excel の学習④（3 章の 7～8） より高度なデータ処理（後）（簡単なデータベース、フィルタリング）、その他。					
	第 10 回	PowerPoint の学習①（4 章の 1～2） スライド作成の基本（文字入力、スライドの挿入・削除・置換）、その他。					
	第 11 回	PowerPoint の学習②（4 章の 3～7） スライド作成の応用（図表・画像の挿入、アニメーション効果）、その他。					
	第 12 回	Word および Excel の応用① 長文レポート（鑑賞文など）の作成、その他。					
	第 13 回	Word および Excel の応用② 両ソフトの同時使用、Excel を利用した数学問題の回答、その他。					
	第 14 回	PowerPoint の応用 Word および Excel を併用した、より高度なスライドの作成、その他。					
	第 15 回	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法について、各自の見解をレポートとしてまとめる。					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習： 上記「授業計画」に示す教科書の章番号・節番号を目安にして、教科書の内容にあらかじめ目を通しておくこと。				復 習： パソコン操作に慣れていない人は、授業の空き時間を利用するなどして、パソコンに触れる機会を増やすよう努力すること。		
	予習に要する学習時間：概ね 2 0 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 2 5 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補されたものの再提出を求める。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（7 0 %）、授業態度（3 0 %）						
教 科 書	『30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2010』（杉本くみ子・吉田栄子、実教出版株式会社） 上記のほか、プリントを随時配布						
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介						
注 意 事 項	１． 教科書を毎回、忘れずに持参すること。 ２． 教科書の記載内容の一部を、より up to date な内容に置き換えて説明することがある。 ３． 無断欠席、無断遅刻等々、「無断～」な言動は厳禁とする。 ４． 課題については、教科書所収の設問以外からも出題される（プリント配布などを行う）。						

科 目 名	英 語		単位数	2	担当教員	すがま ゆきお 須釜 幸男
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	「英語とコンピュータのスキルがあれば食いつぶれない」という台詞が、一昔前に盛んに語られました。グローバル化時代に入って、それはより切実なものとして、私達に迫ってきました。今後は一先ず、英語の「得意・不得意」や「好き・嫌い」は脇に置いておくことにしましょう。この授業を通じて、皆さんが英語というものに関わり、自分なりに親しみながら、英語の４技能（読書聞話）のイロハを体得していきましょう。					
到 達 目 標	１．英語圏と日本の間にある文化やマナーの違いを考え、話題力や会話力を磨くことが出来る。 ２．自分の意見をまとめるだけでなく、周囲に分かりやすい英語の語彙力・発信力を高めることが出来る。 ３．仕事に必要な、TOEIC [®] では 600 点、英検では２級・準１級程度の英語力を身に付けることが出来る。					
授 業 計 画	第 1 回	前期ガイダンス			第 16 回	後期ガイダンス
	第 2 回	TOEIC [®] Part 1 の解説・演習（基礎編） ：写真描写問題			第 17 回	TOEIC [®] Part 1 の解説・演習（応用編） ：写真描写問題
	第 3 回	TOEIC [®] Part 2 の解説・演習（基礎編） ：応答問題			第 18 回	TOEIC [®] Part 2 の解説・演習（応用編） ：応答問題
	第 4 回	TOEIC [®] Part 3 の解説・演習（基礎編） ：会話問題			第 19 回	TOEIC [®] Part 3 の解説・演習（応用編） ：会話問題
	第 5 回	TOEIC [®] Part 4 の解説・演習（基礎編） ：説明文問題			第 20 回	TOEIC [®] Part 4 の解説・演習（応用編） ：説明文問題
	第 6 回	TOEIC [®] Part 5 の解説・演習（基礎編） ：短文穴埋め問題			第 21 回	TOEIC [®] Part 5 の解説・演習（応用編） ：短文穴埋め問題
	第 7 回	TOEIC [®] Part 6 の解説・演習（基礎編） ：長文穴埋め問題			第 22 回	TOEIC [®] Part 6 の解説・演習（応用編） ：長文穴埋め問題
	第 8 回	TOEIC [®] Part 7 の解説・演習（基礎編） ：一つ/複数の文章			第 23 回	TOEIC [®] Part 7 の解説・演習（応用編） ：一つ/複数の文章
	第 9 回	上半期のまとめ			第 24 回	上半期のまとめ
	第 10 回	時事英語 ：政治分野			第 25 回	時事英語 ：芸術分野
	第 11 回	時事英語 ：経済分野			第 26 回	時事英語 ：スポーツ分野
	第 12 回	時事英語 ：社会分野			第 27 回	時事英語 ：エンターテイメント（芸能）分野
	第 13 回	時事英語 ：文化分野			第 28 回	時事英語 ：国際分野
	第 14 回	下半期のまとめ			第 29 回	下半期のまとめ
	第 15 回	前期授業全体のまとめ			第 30 回	後期授業全体のまとめ
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： ・ 前回の授業内容を復習 ・ 既習プリントの整理・ファイリング			復習： ・ 授業内の文法や語彙の確認・理解 ・ 新聞雑誌で講義題材を多読、既習範囲との位置付け		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・ 語彙力や基礎文法など、重要項目の理解・確認 ・ 講義テーマの探求・意見形成の向上・確認					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（５０％）、授業態度（５０％）（注）単元の終了ごとに小テストを実施する。					
教 科 書	なし 毎回、講義時にプリントや資料を配布する。					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	英和辞典や英英辞典などの辞書類（電子辞書でも可）の持参が望ましい。さらに中学や高校で使い古した文法書や参考書、単語帳、熟語帳などもあればより望ましい。意味よりも耳や目を慣らすために、テレビやラジオ、映画、CD などあらゆるメディアに、テーマを問わずに日頃から親しんで欲しい。					

科 目 名	体 育 実 技			単位数	1	担当教員	おか よしろう 岡 芳 郎
ナンバリングコード		0000000	授業形態	実技			
授 業 の 内 容	本講義では、身体活動の体験を通して心身の調和を図り、健康な身体の保持増進に努めることによって、生涯にわたって豊かな生活を営むために必要な運動や技能や知識を習得すること。また、将来の社会生活において運動やスポーツを通じて、様々な身体コミュニケーションを行なうことの意義について理解を深めることを目的に授業を実施する。						
到 達 目 標	1. 運動・スポーツを通じて主体性・協調性・社会性・道徳性などを身につけている。 2. 幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得し、自ら動ける体を作り、体力の健康増強を図ることができる。 3. 幼児教育者として適切に動け、子どもを援助指導できるように運動に関する知識と技術が身に付いている。						
授 業 計 画	第 1 回	授業ガイダンス 受講上の注意事項などについて説明			第 16 回	フットサル① パス・ドリブル・シュート練習 簡易ゲーム	
	第 2 回	体ほぐし運動① 用具を使わずに			第 17 回	フットサル② 3 対 3 でのゲーム	
	第 3 回	体ほぐし運動② なわとび フラフープを使って			第 18 回	フットサル③ 5 対 5 でのゲーム	
	第 4 回	体ほぐし運動③ ボールを使って			第 19 回	卓球① 各種ストロークの練習 簡易ゲーム	
	第 5 回	ドッチボール① ルールを理解する 簡易ゲーム			第 20 回	卓球② ダブルスでのゲーム	
	第 6 回	ドッチボール② グループに分かれて総当たりリーグ戦			第 21 回	なわとび検定① 一重とび・綾とび・交差とび 前後 10 回	
	第 7 回	バドミントン① 各種ストロークの練習 簡易ゲーム			第 22 回	なわとび検定② 二重とび・ハヤブサ 前後 10 回	
	第 8 回	バドミントン② シングルスでのゲーム			第 23 回		
	第 9 回	バドミントン③ ダブルスでのゲーム			第 24 回		
	第 10 回	バスケットボール① パス・ドリブル・シュート練習 簡易ゲーム			第 25 回		
	第 11 回	バスケットボール② 3 対 3 でのゲーム			第 26 回		
	第 12 回	バスケットボール③ 5 対 5 でのゲーム			第 27 回		
	第 13 回	ソフトバレーボール① パス・アタック・サーブ練習 簡易ゲーム			第 28 回		
	第 14 回	ソフトバレーボール② 4 対 4 でのゲーム			第 29 回		
	第 15 回	バレーボール 6 対 6 でのゲーム			第 30 回		
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業で実施する実技について基本技術やルールを把握しておくこと。				復習：授業で実施した内容をノートに記録して復習する。		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	実技のフィードバックは授業内でその都度行う。 レポート・課題は提出後に総評を行う						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（20%）、実技（30%）、授業態度（50%）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	1. 必ず指定された体操着・シューズを着用すること。 2. 授業に関して積極的に取り組む姿勢を評価する。 3. 欠席回数が全授業の 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象外となる。						

科 目 名	体 育 講 義			単位数	1	担当教員	おか よしろう 岡 芳 郎
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	本講義では、「健康」「運動」「スポーツ」の実践の基礎となる理論的な事柄について理解を深めていくことを目的に「健康」「体力」「運動」について正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを目指せるようにする。また、様々な生活習慣病について学び、「運動」「食事」「休養」との関係について考えていく。						
到 達 目 標	1. 健康とは何かについて自分の考えを述べる事ができる。 2. 生活習慣病とその対策について理解している。 3. 自らの健康の保持増進方法を考え、実践することができる。						
授 業 計 画	第1回	授業ガイダンス 現代社会と健康					
	第2回	食事と健康					
	第3回	心の健康					
	第4回	青年期と性					
	第5回	運動と健康					
	第6回	体力について					
	第7回	トレーニングに基礎理論					
	第8回	スポーツ障害と応急処置 講義のまとめ					
	第9回						
	第10回						
	第11回						
	第12回						
	第13回						
	第14回						
	第15回						
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業テキストを事前に読んでおくこと。				復習：講義内容や配布資料などをまとめて、内容を理解しておくこと		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	定期試験の実施後に解答を示して解説をする。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（50％）、レポート・課題（20％）、授業態度（30％）						
教 科 書	『大学生のための体育講義—今日つくる未来・今日を生きる課題—』（茗井香保里他、推敲舎） 必要に応じて参考資料を配布する。						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	1. 授業の開始は11月頃より実施する。 2. 授業中は飲食禁止・携帯電話使用禁止である。 3. 欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合には評価の対象外となる。						

科 目 名	心 理 学 入 門		単位数	2	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	心理学は人の心という誰にとっても身近なものを扱う学問であるが、領域は多岐に渡り、様々な分野の「～心理学」がある。本講義では、心理学における主要な考え方を紹介するとともに、学生が授業の中で、心理学的な体験をしてもらう。					
到 達 目 標	1．心理学という学問領域を理解している。 2．心理学の諸領域を理解している。 3．自身の体験と心理学の理論を関連付けられる。					
授 業 計 画	第 1 回	心理学とは				
	第 2 回	心理学の歴史				
	第 3 回	認知と心理学				
	第 4 回	行動と心理学				
	第 5 回	発達と心理学				
	第 6 回	知能と心理学				
	第 7 回	性格と心理学				
	第 8 回	心理テストと心理学				
	第 9 回	精神医学と心理学				
	第 10 回	悩みと心理学				
	第 11 回	対人援助と心理学				
	第 12 回	その他の心理学				
	第 13 回	心理学と研究				
	第 14 回	心理学と実験				
	第 15 回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：教科書や資料を読む			復習：授業内容を振り返る		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	テストによる評価基準を伝える					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（90%）、レポート・課題（ %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度（10%）					
教 科 書	『新体系 看護学全書 基礎分野 心理学』（田中一彦、長田久雄、メヂカルフレンド社）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	授業における私語は慎むこと。					

科 目 名	マンガ・イラスト表現		単位数	2	担当教員	いいだ 飯田 こういちろう 耕一郎
ナンバリングコード		00000000	授業形態	演習		
授業の内容	マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。イラストもまた物語性を理解することによって創作の幅が広がるものと考えて大きな区別はありません。					
到達目標	1. 人物の顔と表情が描き分けられるようになり、いろんなキャラを描けるようになる。 2. 人物の全身は難しいが、ちびキャラで構造を理解し描けるようになる。 3. 人物に合わせて背景も描けるためのパースの基礎を理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	【○と□を描こう】円と四角をちゃんと描けることが基本の基本。				
	第 2 回	【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ。				
	第 3 回	【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する。				
	第 4 回	【二頭身キャラを描こう】シンプルなマスコットキャラを描く。				
	第 5 回	【二頭身キャラのアクション】マスコットキャラにアクションを持たせる。				
	第 6 回	【三頭身キャラを描こう】ちびキャラを描く。				
	第 7 回	【三頭身キャラのアクション】ちびキャラにアクションを持たせる。				
	第 8 回	【一点透視図法を学ぼう】パースを理解する。				
	第 9 回	【二点透視図法と三点透視図法を学ぼう】パースを理解するの二回目。				
	第 10 回	【顔の角度を変えて描いてみよう】いろんな角度で顔を描けるようになる。				
	第 11 回	【倒れた瓶を模写してみよう】模写の仕方を学ぶ。				
	第 12 回	【シワの描き方を学ぼう】服などのシワの理屈を学ぶ。				
	第 13 回	【六頭身キャラを描いてみよう】シリアスサイズのキャラを学ぶ。				
	第 14 回	【全身で感情表現してみよう】感情とアクションを全身で描く。				
	第 15 回	【色を塗ってみよう】カラー表現を学ぶ。				
授業に 対する 予習・復習	予習：マンガ・イラスト関係は多くのマニュアル書も出ているので積極的に参考にして実践してみましよう。				復習：シンプルな課題は自宅で反復練習することによってより上達していきます。	
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	
課題へのフィードバック	課題作品にたいしてのアドバイスによる修正点、上達ポイントを指摘することでより向上を目指します。					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）					
教 科 書	なし。					
参考文献	なし。					
注 意 事 項						

科 目 名	日 本 語 表 現		単位数	2	担当教員	あさぎ なおみ 浅木 尚実
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	文章作成の基本を知り、美しい日本語、読みやすい文章とは何かを学ぶ。また、日本語の基礎を身につけ、常識としての日本語表現を習得する。人前で発表することで、わかりやすい説明の仕方を身につけると同時に、読書する喜びを味わう。					
到 達 目 標	１．社会生活に必要な漢字、熟語等の語彙を習得している。 ２．わかりやすく読みやすい文章の基本を学び、文章表現技術を習得している。 ３．人前で発表する力を身につけている。 ４．日常的に読書をする習慣を身につけている。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション				
	第 2 回	名文を読む				
	第 3 回	詩を鑑賞する				
	第 4 回	保育士に必要な日本語トレーニング① ことわざ、四字熟語を学ぶ。				
	第 5 回	保育士に必要な日本語トレーニング② 正しい表記の仕方 間違えやすい熟語・漢字を学ぶ。				
	第 6 回	保育士に必要な日本語トレーニング③ 敬語の基本を学ぶ。				
	第 7 回	保育士に必要な日本語トレーニング④ 敬語を使う。				
	第 8 回	保育士に必要な日本語トレーニング⑤ 文章トレーニング				
	第 9 回	保育士に必要な日本語トレーニング⑥ 自由文を書く。				
	第 10 回	保育士に必要な日本語トレーニング⑦ テーマに沿って書く。				
	第 11 回	保育士に必要な日本語トレーニング⑧ 手紙、はがきを書く。				
	第 12 回	発表の仕方を学ぶ。				
	第 13 回	発表① 発表し、その後の振り返りをする。				
	第 14 回	発表② 発表し、その後の振り返りをする。				
	第 15 回	発表③ 発表し、その後の振り返りをする。				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：教科書を読む 小テストの準備			復習：配布したプリントの復習 作文を推敲する 小テストの復習		
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	授業内にて小テストを行い、次回の内容と予習すべき事項を示す。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 20 %）、レポート・課題（ 40%）、作品・発表（30 %）、授業態度（ 10 %）					
教 科 書	『保育者になるための国語表現』（田上貞一郎、萌文書林）					
参 考 文 献	その都度紹介する。					
注 意 事 項	小テストを行う。					

科 目 名	生 命 と 科 学		単位数	2	担当教員	きたの まさる ほしの おさむ 北野 大 ・ 星野 治
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	授業の前半（～第8回）では、私たちの生命維持に関係する、水、食物及び食品添加物、残留農薬の安全性確保対策について講義する。 授業の後半（第9回～）では、授業の前半での学習内容を念頭に置きながら、生命や防災をテーマとする科学ドキュメンタリー等の鑑賞を行い、生命を守り育てることの意義に関して各自なりに考察を深める。					
到 達 目 標	1．飲料水の質的及び量的な面を理解している。 2．食と健康、保存料などの食品添加物、農薬の役割を理解している。 3．第一級の科学者や技術者によって書かれた文章（論文など）を読み慣れている。					
授 業 計 画	第1回	水とは① 化学物質としての水				
	第2回	水とは② 生命維持における水の役割				
	第3回	食と健康① 食と疾病との関係				
	第4回	食と健康② 食の役割				
	第5回	食品添加物の種類及び役割				
	第6回	農薬の種類及び役割				
	第7回	食品添加物及び農薬の安全性評価方法				
	第8回	保育者の視点からみた授業前半の内容のまとめ				
	第9回	生命を守るための科学技術				
	第10回	保育者の視点からみた過去の被災例① 文芸作品（絵本など）の鑑賞				
	第11回	保育者の視点からみた過去の被災例② 科学ドキュメンタリーの閲読				
	第12回	保育者の視点からみた防災① 文芸作品（絵本など）の鑑賞				
	第13回	保育者の視点からみた防災② 机上シミュレーションの実施				
	第14回	防災情報の最前線を探る ネットサーフィンの実施				
	第15回	総括 授業内容全体のまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 事前に資料を配布するので、内容を確認しておくこと。			復習： 授業内容について理解不十分なところがあれば、教員に質問するなどして自分自身なりに納得しておくこと。		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	各授業の終了前に、簡単なリアクションペーパーを作成する。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（70％）、授業態度（30％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	『食と健康』（小城勝相・清水誠、放送大学教育振興会） その他、必要に応じて随時紹介する。					
注 意 事 項	1．予習、復習をしっかりと行い、理解できない点、不明な点を質問により無くす努力をすること。できるだけ易しく講義を行うが、質問は遠慮せずにしてほしい。 2．災害に関する話題は、その多くが深刻な内容のものであり、精神的な負担もかなり大きい。そのことを十分に考慮したうえで、履修してほしい。					

科 目 名	教 育 原 理		単位数	2	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	子どもは生まれた直後から家族をはじめとする様々な他者との出会いを経験する。本講義では、教育の思想・歴史・制度の基礎的な理解と、受講生がこれまで経験をしてきた「教育」という営みをとらえ直すことを目的とする。講義の後半では、今日的な教育の課題へと視野を広げ、子どもをとりまく現状について理解を深める。					
到 達 目 標	1. 教育に関わる基礎的な思想・歴史・制度を理解している。 2. 自分自身の教育観や子ども観を捉えなおすことができる。 3. 教育の今日的な課題に目を向け、自分なりの見解を述べることができる。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション—講義の受け方・進め方について—				
	第 2 回	教育の原理①—人間の成長の特徴—				
	第 3 回	教育の原理②—社会化—				
	第 4 回	教育の原理③—「教育」とは何か—				
	第 5 回	教育の思想①—「子ども」の誕生—				
	第 6 回	教育の思想②—学校教育とは何か—				
	第 7 回	教育の歴史①—近代学校教育制度の成立と展開—				
	第 8 回	小テスト①				
	第 9 回	教育の歴史②—日本における幼児教育の変遷—				
	第 10 回	教育の制度①—教育法のしくみ—				
	第 11 回	教育の制度②—義務教育制度—				
	第 12 回	教育の今日的な課題①—学校的社会化と幼小接続—				
	第 13 回	教育の今日的な課題②—保育者の仕事—				
	第 14 回	小テスト②				
	第 15 回	補論				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：日ごろから、子どもや子育て、教育に関する報道に目を向けておくこと。 事前に配布した講義資料を通読し、疑問点をまとめておくこと。 予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。			復習：講義で配布したプリントを再読し、疑問点をまとめておくこと。 講義で紹介した資料や参考文献を手にとり、自分の目で再読すること。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・授業内課題はコメントを付して返却する。 ・小テストを返却後、解説を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 小テスト（60％）、課題（20％）、授業態度（20％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	『教育学をつかむ』（木村元・児玉重夫・船橋一男）有斐閣 『教育思想史』（今井康雄編）有斐閣					
注 意 事 項	・授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。 ・講義内容は適宜、板書する。受講生が各自で講義内容のノートを作成すること。 ・授業毎に講義内容に即したリアクション・ペーパーの作成・提出を求める。					

科 目 名	保 育 原 理 I		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	本講義では、主に次のような内容を学ぶ。 1. 保育の制度や現状、保育の思想や歴史について学び、保育の意義を学ぶ。 2. 『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を踏まえて、生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や保育の計画といった保育の基本的な考え方を学ぶ。 3. 保育・子育てに関する現状や課題を理解し、今日的な課題について考える。					
到 達 目 標	1. 保育の制度や現状、保育の思想や歴史について学び、保育の意義を理解している。 2. 生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や保育の計画といった保育の基本的な考え方を理解している。 3. 子どもの育ちにかかわる保護者・保育者にとっての保育の意義を理解している。 4. 保育・子育てに関する現状や課題を理解し、今日的な課題について考えることができる。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション				
	第 2 回	保育の意義 子ども・保護者・保育者、それぞれが育つ場所				
	第 3 回	保育の制度と現状				
	第 4 回	保育の思想と歴史（西洋を中心とした諸外国の保育の歴史）				
	第 5 回	保育の思想と歴史（日本における保育の歴史）				
	第 6 回	保育の基本的な考え方①子どもの主体性を尊重する				
	第 7 回	保育の基本的な考え方②遊びを中心とする保育				
	第 8 回	保育の基本的な考え方③環境を通しての育ち				
	第 9 回	保育の基本的な考え方④子ども一人ひとりの発達過程を捉える				
	第 10 回	保育の基本的な考え方⑤個と集団				
	第 11 回	保育の基本的な考え方⑥保育課程・教育課程と指導計画				
	第 12 回	子どもと自然				
	第 13 回	子どもと文化				
	第 14 回	保育における子ども理解				
	第 15 回	保育者に求められるもの、まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。専門用語を調べ、ノートにまとめること。			復習：授業で扱った内容について、ノートに情報を整理すること。また、配布された参考資料に目を通すこと。		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	定期試験の内容について、解説を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（70%）、レポート（20%）、課題（10%）					
教 科 書	『よくわかる保育原理』森上史朗・大豆生田啓友、ミネルヴァ書房					
参 考 文 献	『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）					
注 意 事 項						

科 目 名	教 育 心 理 学		単位数	2	担当教員	こみなと まい 小湊 真衣
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	本講義では子どもの心身の発達や認知課程、記憶のメカニズム、やる気や動機づけ、学習、知能、パーソナリティについて学ぶとともに、保育士のあり方が子どもに及ぼす影響について考えていく。また様々な不適応行動や問題行動のほか、発達障害や特別な配慮を要する場合の援助のあり方とその理解の仕方についても議論する。					
到 達 目 標	１．学習および保育に関する心理学的諸理論について理解し、それを説明できる。 ２．子どもの心身の発達に関する理論や特徴を理解し、それを説明できる。 ３．子どもの学習や認知の特徴およびその発達を理解し、それを説明できる。 ４．子どもを取り巻く諸問題について理解し、適切な支援のあり方について考える事ができる。					
授 業 計 画	第 1 回	「ガイダンス／学習と教育」 学習とは何か、教育とは何かについて講義する				
	第 2 回	「発達に関する心理学的諸理論」 発達に関する諸理論の紹介と、発達に関わる遺伝および環境要因について講義する				
	第 3 回	「誕生～幼児期における発達と学習」 新生児期から幼児期における心身の発達と学習の特徴について講義する				
	第 4 回	「児童期～青年期における発達と学習」 児童期から青年期における心身の発達と学習の特徴について講義する				
	第 5 回	「認知過程と記憶」 認知の過程と記憶および忘却のメカニズムについて講義する				
	第 6 回	「知能と知能検査」 知能の構造と、知能を測定するための各種検査について講義する				
	第 7 回	「動機づけ」 動機づけ理論と、やる気のメカニズムについて講義する				
	第 8 回	「期待と評価」 期待と評価の過程およびその際の認知的特徴とその留意点について講義する				
	第 9 回	「子どもの認知」 子どもの認知的特徴と、集団や仲間作りにおける保育士の役割について講義する				
	第 10 回	「学習」 学習に関する心理学的諸理論と、保育における活用方法について講義する				
	第 11 回	「パーソナリティ」 パーソナリティに関する諸理論と、性格検査について講義する				
	第 12 回	「不適応行動の理解」 保育の中で見受けられる様々な不適応行動と、その対処方法について講義する				
	第 13 回	「問題行動の理解」 保育の中で見受けられる様々な問題行動と、その対処方法について講義する				
	第 14 回	「発達障害の理解」 保育場面で遭遇しうる様々な発達障害の特徴と、支援における留意点について講義する				
	第 15 回	まとめと振り返り 教育心理学とは何かについて、今までの学習内容を振り返る				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 教育心理に関する新聞記事を読み、自分なりの感想をまとめておく			復習： 授業内容を振り返り、保育現場での生かし方について各自考えをまとめておく		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	毎回提出を求めるショートレポートは 4 点満点で採点を行い、翌週得点とコメントをつけたものを返却する					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 1 5 回分のショートレポート（6 0％）、最終課題（4 0％）					
教 科 書	『書 名』（著者名、出版社名） 特になし					
参 考 文 献	『書 名』（著者名、出版社名） 必要に応じて授業内で紹介する					
注 意 事 項	初回を除き 3 分の 2 以上の出席が確認できない場合、単位認定しない。 授業中の私語、課題の代筆や代返を発見した場合は最終評価から大幅に減点する。					

科 目 名	発 達 心 理 学		単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	保育者が子ども（保護者）の問題や課題に向き合う時、ひとの心身の発達の基本的、標準的な様相やその概要等、発達心理学を学んでおくことは有益である。本講義では、発達心理学の必要な基礎的知識の習得と将来現場で活かせる基本的な実践能力の育成を図ることを目的とする。					
到 達 目 標	１．発達心理学の基礎的知識を正確に習得すること。 ２．学んだ知識を活用して、子どもの心の発達理解にどのように活かせるのかを考えられるようになること。 ３．学んだ知識を子育て支援に活用できるようになること。					
授 業 計 画	第 1 回	イントロダクション [発達心理学とは何か等]				
	第 2 回	発達を理解するための基礎① [発達の機能連関性]				
	第 3 回	発達を理解するための基礎② [発達心理学と保育・教育]				
	第 4 回	乳幼児期の発達① [運動機能と認知・思考の発達]				
	第 5 回	乳幼児期の発達② [感情と自己の発達]				
	第 6 回	乳幼児期の発達③ [ことばの発達]				
	第 7 回	乳幼児期の発達④ [社会性の発達]				
	第 8 回	児童期の発達① [学校への適応・知的機能の発達]				
	第 9 回	児童期の発達② [自尊感情・友だち関係]				
	第 10 回	青年期の発達① [青年期の悩み]				
	第 11 回	青年期の発達② [アイデンティティ・友人関係]				
	第 12 回	成人期 [夫婦関係と子育て・働くこととキャリア]				
	第 13 回	老年期の発達 [老年期の QOL]				
	第 14 回	発達障害 [障害児の発達と支援]				
	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習:授業で扱う教科書の該当箇所を予め精読しておくこと。			復習：学んだ知識の定着を図り、それらが保育現場でどのように活用できるか考えることを試みること。		
	予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	受講学生に対して、主に個別に成績のフィードバックをおこなう。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（60％）、レポート（20％）、発表（20％）					
教 科 書	越智幸一(編)(2015). 発達心理学 大学図書出版					
参 考 文 献	講義の際に随時紹介する。					
注 意 事 項						

科 目 名	子　ど　も　の　保　健　Ⅰ			単位数	4	担当教員	み　た　の　り　こ 味田　徳子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義			
授　業　の 内　　　　容	子どもの健康と保健の意義について学ぶ。 前期では、「健康や保健の概念」「発育・発達の特徴」「心の健康」「子どもの食生活と栄養」「生命の仕組み」など、からだや心の基本的知識について習得する。 後期では、「子どものかかりやすい病気」「感染症の予防」「子どもの事故」「保育環境」など、保育現場における具体的な事柄について学ぶ。						
到　達　目　標	1. 乳幼児の発育・発達についての基礎知識を習得し、一人ひとりに応じた客観的な評価ができる。 2.子どもの病気について理解し、適切な対応ができる。 3.発達段階に応じた事故が予防でき、また発生時の対応ができる。 4.望ましい保育環境を整え、子どもおよび保育者の健康を守ることができる。						
授　業　計　画	第 1 回	授業オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義① 保育における子どもの保健			第 16 回	子どもの健康状態の把握	
	第 2 回	子どもの健康と保健の意義② 健康の概念と小児保健統計			第 17 回	体調の良くない子どもの対応	
	第 3 回	子どもの発育・発達			第 18 回	子どものかかりやすい病気① ウイルス性、細菌性感染症	
	第 4 回	発育の評価			第 19 回	子どものかかりやすい病気② 呼吸器、耳、鼻、喉の病気	
	第 5 回	運動機能の発達			第 20 回	子どものかかりやすい病気③ 消化器の病気	
	第 6 回	精神機能の発達①			第 21 回	子どものかかりやすい病気④ 循環器の病気	
	第 7 回	精神機能の発達②			第 22 回	子どものかかりやすい病気⑤ 泌尿器、血液の病気	
	第 8 回	生理機能の発達			第 23 回	子どものかかりやすい病気⑥ 免疫、アレルギー	
	第 9 回	感覚機能の発達			第 24 回	子どものかかりやすい病気⑦ 皮膚、眼、脳・神経の病気	
	第 10 回	子どもの心の健康			第 25 回	子どものかかりやすい病気⑧ その他の病気（SIDS、SBS、MCLS など）	
	第 11 回	特別な配慮が必要な子どもたち①　慢性疾患			第 26 回	感染症の予防、予防接種	
	第 12 回	特別な配慮が必要な子どもたち②　児童虐待			第 27 回	学校感染症、健康診断	
	第 13 回	特別な配慮が必要な子どもたち③　発達障害			第 28 回	子どもの事故 子どもに多い事故・園で起こりやすい事故 子どもに多いケガ、症状の対処	
	第 14 回	子どもの食と栄養①　乳汁・離乳食			第 29 回	保育環境	
	第 15 回	子どもの食と栄養②　幼児食　食中毒 前期まとめ			第 30 回	健やかな育ち、保育者の健康管理 後期まとめ	
授　業　に 対　す　る 予　習・復　習	予習：次回の内容について、教科書・当日使用するプリント（前回配布済）に目を通しておく。				復習：講義内容の「振り返り」を行い、定着を図る。 また各人で再度プリントを見直す。		
	予習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	定期試験実施後、解説・解答を行う。						
成　績　評　価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　80%）、レポート・課題（　10%）、授業態度（　10%）						
教　科　書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』（鈴木美枝子編著、創成社）						
参 考 文 献	『よくわかる子どもの保健Ⅰ　第 3 版』（竹内義博他、ミネルヴァ書房） 『図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ』（加藤忠明他、建帛社）						
注　意　事　項	・遅刻者はクラス、番号、氏名、理由を述べて着席して下さい。 ・前回欠席者は前回配布プリントの有無を確認し、 <u>授業開始前</u> に申し出て受領して下さい。						

科 目 名	社 会 福 祉		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	本講義では、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の構成要素やその課題などについて学ぶことを目的としている。					
到 達 目 標	1．福祉政策を理解している。 2．現代における福祉課題を理解している。 3．社会の変化について理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	社会福祉の新たな展開				
	第 2 回	福祉政策理解の枠組み				
	第 3 回	社会の変化と福祉				
	第 4 回	福祉と福祉政策				
	第 5 回	福祉の思想と哲学				
	第 6 回	社会政策と福祉政策				
	第 7 回	福祉政策の発展過程				
	第 8 回	少子高齢化時代の福祉政策				
	第 9 回	福祉政策における必要と資源				
	第 10 回	福祉政策の理念・主体・手法				
	第 11 回	福祉政策の関連領域				
	第 12 回	社会福祉制度の体系				
	第 13 回	福祉サービスの提供				
	第 14 回	福祉政策の国際比較				
	第 15 回	これまでのまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業前に前回の授業の振り返りを各自で行い、シラバスを元に次回の授業の部分のテキストを読み、理解を深めること。			復習：配布した資料を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（60%）、レポート・課題（10%）、授業態度（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。					
教 科 書	『社会福祉の基本体系 第5版』（井村圭壮編著、勁草書房）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。					

科 目 名	児 童 家 庭 福 祉		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	現代社会における児童の成長・発達、生活実態や児童福祉の背景、児童福祉の理念や意義について学ぶ。					
到 達 目 標	1．専門職のあり方や児童福祉と環境との関わりの問題を理解している。 2．相談援助活動や家族支援のための施策等について理解している。 3．児童福祉関係法とサービス体系の供給を理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	現代社会と子ども家庭				
	第 2 回	子どもの育ち、子育てのニーズ				
	第 3 回	子ども家庭福祉とは何か				
	第 4 回	子どもと家庭の権利保障				
	第 5 回	子ども家庭福祉にかかわる法制度				
	第 6 回	子ども家庭福祉の実施体制				
	第 7 回	子ども家庭福祉の専門職				
	第 8 回	子ども家庭にかかわる福祉・保健				
	第 9 回	児童健全育成				
	第 10 回	ひとり親家庭の福祉)				
	第 11 回	児童虐待対策				
	第 12 回	非行児童・情緒障害児への支援				
	第 13 回	子どもと家庭にかかわる女性福祉				
	第 14 回	子ども家庭への援助活動				
	第 15 回	これまでのまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業前に前回の授業の振り返りを各自で行い、シラバスを元に次回授業部分のテキストを読み、理解を深めること。			復習：配布した資料を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（60%）、レポート・課題（10%）、授業態度（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。					
教 科 書	『保育者養成シリーズ 新版・児童家庭福祉論』（山崎順子・高玉和子・和田上貴昭編著、一芸社） 『子育てとケアの原理』（高橋貴志監修、望月雅和編著、北樹出版）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。					

科 目 名	音 楽 I (基 礎 音 楽)		単位数	2	担当教員	おおわ こういち 大輪 公彦
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を学ぶと共に、ソルフェージュ（音感教育）をベースに、学生諸氏が下記の訓練を通して唱歌・童謡における基本的な音楽要素を身につけ、ピアノ演奏及び歌唱等を教育現場で実践できることを目的とする。					
到 達 目 標	1. リズム唱、リズム叩き、リズム書き取りができる。 2. 旋律歌唱、旋律書き取りができる。 3. 和音書き取りができる。					
授 業 計 画	第 1 回	楽典 (譜表)		第 16 回	主要 3 和音と調音	
	第 2 回	(音名・階名)		第 17 回	全音符・休符、2 分音符・休符を含む書き取り	
	第 3 回	(楽語・音程・調について)		第 18 回	4 分音符・休符、8 分音符・休符を含む書き取り	
	第 4 回	(音・休符の種類と和音について)		第 19 回	16 分音符・休符、付点音符を含む書き取り	
	第 5 回	リズムの基本(全音符・休符、2 分音符・休符)		第 20 回	3 連符及び他の連符を含む書き取り	
	第 6 回	リズムの基本(4 分音符・休符、8 分音符・休符)		第 21 回	タイを含むリズムの書き取り	
	第 7 回	リズムの基本(16 分音符・休符、付点音符を含む)		第 22 回	タイを含む旋律の書き取り	
	第 8 回	リズムの基本(3 連符及び他の連符)		第 23 回	異なった複数のリズムをもつ旋律の書き取り	
	第 9 回	タイを含むリズム		第 24 回	主要 3 和音の書き取り	
	第 10 回	異なった複数のリズム		第 25 回	主要 3 和音(転回形)書き取り	
	第 11 回	リズムカノン唱		第 26 回	唱歌・童謡中の基本旋律(第 5 回、第 6 回)の書き取り	
	第 12 回	リズムカノン叩き		第 27 回	唱歌・童謡中の基本旋律(第 7 回、第 8 回)の書き取り	
	第 13 回	リズム諸楽器の解説		第 28 回	唱歌・童謡中の基本旋律(第 9 回、第 10 回)の書き取り	
	第 14 回	リズム諸楽器の実践		第 29 回	唱歌・童謡中の基本旋律(第 5 回～第 10 回)の書き取り	
	第 15 回	まとめ		第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習:リズムの名称とその意味及び音名(ラテン・伊・仏によるドレミ読み、日本語読み、英米語読み)を確実に覚える。			復習:学習したリズムを一定の拍子に基づいて叩く練習を行う。 ピアノ練習曲テキストの両手の旋律のリズムのみを叩く練習を行う。		
	予習に要する学習時間:概ね 60 分を目安とする。			復習に要する学習時間:概ね 60 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	随時レポート提出や実技(リズム楽器付き歌唱)を行い、各個人へ解説・アドバイスをを行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験: 実施 () する／(○) しない 成績評価の方法: レポート・課題 (50%)、実技 (30%)、授業態度 (20%)					
教 科 書	『新・幼児の音楽教育』(井口太、朝日出版社)					
参 考 文 献	『実用 こどものうた』(田口雅夫・高崎和子、カワイ出版)					
注 意 事 項	講義内容を理解出来ないまま終わらせたくないので質問を歓迎する。(授業時間外でも可) 尚、授業中の私語・飲食は厳しく注意する。机の上に飲食物を置かないこと。 これらの注意に従わない者は学生証を提示の上、退室を命ずることがある。 授業内でレポート・実技演奏等を実施する予定。各自五線紙付きノートを用意すること。					

科目名	総合演習Ⅰ			単位数	2		担当教員	はしもとようこ あさぎなおみ ほしのおさむ 橋本洋子・浅木尚実・星野 治		
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習						
授業の内容	少子社会が進む中様々な対策がなされているが、子どもが安心して育つ環境が十分に整えられているとはいえない。そこで、本演習では、３グループに分かれて子どもを取り巻く実状を様々な視点から捉え、理解し、視野を広げるとともに、保育者として適切な対応ができる保育力を養う。また、次年度に開講される総合演習Ⅱ（卒業研究）のテーマや作業方針を決めるためのヒントを習得する。									
到達目標	１．文献検索及び発表を通して保育者として必要な知識・情報を得るための適切な手段を身につけている。 ２．子どもと読書についての知識を取得し、適切な方法を身につけている。 ３．弱者を守ることの意味を考えながら、防災に対する心構えを習得している。									
授業計画	第１回	合同授業 本演習のねらい・進め方などに関する説明			第１６回	(浅木)	(星野)	(橋本)		
	第２回	(橋本) 子どもの健康 食生活の現状	(浅木) 子どもと 読書とは	(星野) 防災の 基礎知識	第１７回					
	第３回	健康を考える	子どもと 読書環境	文芸作品と防 災(1)	第１８回					
	第４回	論文の検索と 読み方	子どもの 発達と読書	文芸作品と防 災(2)	第１９回	合同授業				
	第５回	文献調査	読書研究(1) 絵本等	保育と防災	第２０回	(星野) 第２週 ～第９週 と同じ	(橋本) 第２週 ～第９週 と同じ	(浅木) 第２週 ～第９週 と同じ		
	第６回	文献調査	読書研究(2) ブックトーク等	文芸作品と防 災(3)	第２１回					
	第７回	研究発表(1)	グループによ るまとめ	文芸作品と防 災(4)	第２２回					
	第８回	研究発表(2)	個人による まとめ	防災関連の 最新情報	第２３回					
	第９回	研究発表(3) 演習まとめ	演習まとめ	演習まとめ	第２４回					
	第１０回	合同授業			第２５回					
	第１１回	(浅木) 第２週 ～第９週 と同じ	(星野) 第２週 ～第９週 と同じ	(橋本) 第２週 ～第９週 と同じ	第２６回					
	第１２回				第２７回					
	第１３回				合同授業：総合演習Ⅱ(卒業研究)への準備、その他					
	第１４回				合同授業					
	第１５回				第３０回	合同授業 全体のまとめ				
	授業に 対する 予習・復習	予習および復習：ラウンド毎に研究発表を行う。授業時間内で準備できない場合、教員の指示にしたがい期日までに課題を済ませておくこと。								
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。						
課題へのフィードバック										
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（４０％）、発表（４０％）、授業態度（２０％）									
教科書	必要に応じて随時紹介する									
参考文献	必要に応じて随時紹介する									
注意事項	グループ毎の演習８回を１ラウンドとするオムニバス形式が中心となる。各ラウンドの担当教員の指導にしたがうこと。各ラウンド毎に２／３以上の出席が必要となる。									

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。 研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。						
到 達 目 標	1. 各自の興味に沿った研究テーマを見出せる。 2. 保育に関する自分なりの視点を持っている。 3. 自分自身の考えを言語化できる。						
授 業 計 画	第 1 回	講義の方針と年間計画			第 16 回	論文の執筆①	
	第 2 回	各学生によるテーマの選定①			第 17 回	論文の執筆②	
	第 3 回	各学生によるテーマの選定②			第 18 回	論文の執筆③	
	第 4 回	各学生によるテーマの選定③			第 19 回	論文の執筆④	
	第 5 回	文献の収集①			第 20 回	論文の執筆⑤	
	第 6 回	文献の収集②			第 21 回	論文の執筆⑥	
	第 7 回	文献の収集③			第 22 回	論文の執筆⑦	
	第 8 回	先行研究の発表①			第 23 回	論文の執筆⑧	
	第 9 回	先行研究の発表②			第 24 回	論文の執筆⑨	
	第 10 回	先行研究の発表③			第 25 回	論文の執筆⑩	
	第 11 回	先行研究の発表④			第 26 回	論文の修正①	
	第 12 回	先行研究の発表⑤			第 27 回	論文の修正②	
	第 13 回	論文執筆の説明			第 28 回	論文発表会	
	第 14 回	論文内容の検討①			第 29 回	論文発表会	
	第 15 回	論文内容の検討②			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：自分の研究に必要なことを進める。				復習：指導を受けた後、研究を修正する。		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	論文発表会の際にコメントする。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（70％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度（30％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	授業中の作業は卒業研究を行うための補助的なものであり、授業以外の時間帯に研究を行うこと。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	おおわ こういち 大輪 公彦
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。						
到達目標	1. 論文口調で文章を書くことができる。 2. 要約・縮約の技術を身につけ、それらができるようになる。 3. 論文の書式（文献表等の書き方）を身につけ、それができるようになる。						
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション			第16回	中間報告 洋書文献・その他の書式	
	第2回	音楽領域研究の方法 ①洋楽			第17回	論文の推敲 ①論文口調は整っているか	
	第3回	〃 ②日本音楽			第18回	〃 ②各題における全体の配分	
	第4回	〃 ③その他の音楽			第19回	〃 ③要旨を的確に記述しているかどうか	
	第5回	テーマの設定とグループ分け			第20回	最終報告 ①注釈・引用文・引用法	
	第6回	テーマの決定			第21回	〃 ②参考文献の本文中の示し方	
	第7回	テーマに関する図書研究 ①図書館の機能と検索法			第22回	〃 ③従来型の示し方	
	第8回	〃 ②秋草学園図書館			第23回	〃 ④近年型の示し方	
	第9回	〃 ③外部図書館			第24回	卒業論文指導 ①インターネット資料の表記	
	第10回	資料検索と論文書式 ①資料検索法			第25回	〃 ②新聞記事の表記	
	第11回	〃 ②検索資料の確認			第26回	〃 ③書名をどのように表記するか	
	第12回	〃 ③参考引用資料の書式法			第27回	〃 ④引用文献一覧の作成	
	第13回	間報告	概要		第28回	〃 ⑤参考文献一覧の作成	
	第14回	〃	文献について		第29回	卒業論文報告	
	第15回	〃	文献の書式		第30回	レジュメ発表	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：新聞の特に社説欄を熟読すること。				復習：社説の読後、その内容を要約・縮約する。		
	予習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。						
課題へのフィードバック	随時レポート（要約・縮約）の提出をし、各個人へ解説・アドバイスをを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（100%）						
教科書	毎時プリントを配布。						
参考文献	『日本語練習帳』（大野晋、岩波新書）						
注意事項	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。 論文完成までのマクロ的な計画を立てて進めること。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	はしもと　ようこ 橋本　洋子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。研究テーマは食や健康など日常生活全般にわたる。					
到 達 目 標	１．子どもを取り巻く生活環境を理解している。 ２．研究テーマをみつけ、様々な角度から情報を収集し検証する力を身につけている。 ３．調査結果等から疑問を解決し、まとめる力を身につけている。					
授 業 計 画	第 1 回	講義の方針と進め方について			第 16 回	論文の執筆・フィールドワーク
	第 2 回	各学生により研究テーマの選定・計画①			第 17 回	論文の執筆・フィールドワーク
	第 3 回	各学生により研究テーマの選定・計画②			第 18 回	論文の執筆・フィールドワーク
	第 4 回	各学生により研究テーマの選定・計画③			第 19 回	論文の執筆・フィールドワーク
	第 5 回	文献・資料収集、観察①			第 20 回	論文の執筆・データ解析
	第 6 回	文献・資料収集、観察②			第 21 回	論文の執筆・データ解析
	第 7 回	文献・資料収集、観察③			第 22 回	論文の執筆・データ解析
	第 8 回	先行研究の発表①			第 23 回	論文の執筆・データ解析
	第 9 回	先行研究の発表②			第 24 回	論文の執筆・データ解析
	第 10 回	先行研究の発表③			第 25 回	論文の修正①
	第 11 回	研究内容の方向づけ①			第 26 回	論文の修正②
	第 12 回	研究内容の方向づけ②			第 27 回	論文の修正③
	第 13 回	論文執筆の説明			第 28 回	論文発表
	第 14 回	論文内容の検討①			第 29 回	論文発表
	第 15 回	論文内容の検討②			第 30 回	まとめ
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習:配布資料および収集した論文等は次回の授業までに予め目を通しておく。				復習:研究内容をまとめ研究計画を見直しておくこと。	
	予習に要する学習時間：概ね 60　分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。	
課題へのフィードバック	卒業研究の提出および発表に対し講評を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　論文（70％）、課題（10％）、発表（10％）、授業態度（10％）					
教 科 書	※必要に応じて資料を配布する					
参 考 文 献	※必要に応じて紹介する					
注 意 事 項	保育者としての視点から、「食」や「健康」をはじめとした自然科学の分野においてテーマをみつけ、文献研究や観察研究をすすめ、論文としてまとめていく。演習生それぞれが自分の研究テーマに向かって積極的に取り組むことを期待する。先行論文や白書などを参考に情報を収集し、綿密な計画を立て、取り組んでほしい。					

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。 主な研究テーマとしては、「保育内容」「子どもの生活・遊びや文化に関すること」「育児・家族に関すること」などである。保育所・幼稚園・家庭をフィールドとする質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめる。						
到達目標	１．保育・幼児教育について、興味あるテーマを設定し、その課題について理解している。 ２．自らの選んだテーマに関連する文献を読み、問題の所在を明らかにすることができる。 ３．インタビューや質問紙調査、文献調査など、必要な資料収集の方法を理解している。 ４．必要な資料収集及び考察を進め、卒業研究としてまとめることができる。						
授 業 計 画	第 1 回	講義の方針と年間計画				第 16 回	調査の実施に向けた準備①
	第 2 回	フィールドワークの方法①				第 17 回	調査の実施①
	第 3 回	フィールドワークの方法②				第 18 回	調査の実施②
	第 4 回	フィールドワークの方法③				第 19 回	結果の整理①
	第 5 回	研究テーマの選定①				第 20 回	結果の整理②
	第 6 回	研究テーマについて必要な文献を集める①				第 21 回	考察を進める①
	第 7 回	研究テーマについて必要な文献を集める②				第 22 回	考察を進める②
	第 8 回	先行研究の検討①				第 23 回	考察を進める③
	第 9 回	先行研究の検討②				第 24 回	結論および今後の課題の検討①
	第 10 回	問題の所在を明らかにする①				第 25 回	結論および今後の課題の検討②
	第 11 回	問題の所在を明らかにする②				第 26 回	研究のまとめ①
	第 12 回	中間報告①				第 27 回	研究のまとめ②
	第 13 回	中間報告②				第 28 回	論文発表①
	第 14 回	子ども関連施設の見学				第 29 回	論文発表②
	第 15 回	子ども関連施設の見学				第 30 回	まとめ
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：研究テーマ設定のための下調べをすること、文献や資料に目を通すこと、課題をこなすことが必要である。					復習：課題についての修正や論文の執筆作業を進めること。	
	予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。					復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。	
課題へのフィードバック	卒業論文の発表会を行い、コメントを伝える。						
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）						
教科書	『大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康、講談社新書） 『論文の教室』（戸田山和久、NHKブックス）						
参考文献	研究テーマを明確にすること、必要な文献をしっかりと読みこなすことを期待したい。						
注意事項							

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じて保育者として必要な専門的知識をさらに深める。 研究テーマ：１．発達心理学など、子どもや保育・教育に関わる心理学全般、２．「子育て支援」に関する分野 ３．「教育・保育相談」、「カウンセリング」などの分野						
到達目標	１．卒業研究(卒業論文)の作成を通して、研究の方法を修得する。 ２．学生個々が選んだテーマに関する見識を深めること。 ３．保育・教育現場での問題、課題の発見、理解と対応について考える際に、学んだ見識や研究方法を活用できるようになること。						
授 業 計 画	第 1 回	本ゼミの方針と年間計画			第 16 回	論文執筆①	
	第 2 回	論文作成についての概説			第 17 回	論文執筆②	
	第 3 回	各学生による研究テーマの選定①			第 18 回	論文執筆③	
	第 4 回	各学生による研究テーマの選定②			第 19 回	論文執筆④	
	第 5 回	各学生による研究テーマの選定③			第 20 回	論文執筆⑤	
	第 6 回	各学生による研究テーマの選定④			第 21 回	論文執筆⑥	
	第 7 回	文献・資料収集①			第 22 回	論文執筆⑦	
	第 8 回	文献・資料収集②			第 23 回	論文執筆⑧	
	第 9 回	文献・資料収集③			第 24 回	論文の修正①	
	第 10 回	卒論計画の発表①			第 25 回	論文の修正②	
	第 11 回	卒論計画の発表②			第 26 回	論文の修正③	
	第 12 回	卒論計画の発表③			第 27 回	論文の修正④	
	第 13 回	論文執筆の説明			第 28 回	論文発表会①	
	第 14 回	論文内容の検討①			第 29 回	論文発表会②	
	第 15 回	論文内容の検討②			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：研究テーマを決定し、卒業研究作成スケジュール等を理解する。				復習：卒業研究の作成と提出締切日までの提出。		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	テーマの選定と卒論制作過程および卒論提出後の口述試験を通して必要なフィードバックをおこなう。						
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：課題（7 0 %）、発表（3 0 %）						
教科書	特に指定しない。						
参考文献	随時書籍等を紹介し、資料等を配布する。						
注意事項	論文提出の締め切りは 12 月中旬(予定)、論文提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。						
到 達 目 標	１．文献講読により各自のテーマに応じた基礎的知識を主体的に学び整理することができる。 ２．資料収集やフィールドワークを取り入れながら論文執筆に取り組むことができる。 ３．「子どもをめぐる教育問題」「子どもの問題行動」「子ども観の変容」を中心としたテーマについて、自分なりの見解を説得的に論じることができるようになる。						
授 業 計 画	第 1 回	卒業論文のテーマ設定の仕方について			第 16 回	論文の執筆	
	第 2 回	参考文献の探し方・資料収集の方法			第 17 回	論文の執筆	
	第 3 回	引用・注記の仕方・ネット情報の扱い方			第 18 回	論文の執筆	
	第 4 回	文献による基礎研究①			第 19 回	論文の執筆	
	第 5 回	文献による基礎研究②			第 20 回	論文の執筆	
	第 6 回	文献による基礎研究③			第 21 回	論文の執筆	
	第 7 回	研究テーマの選定および問題関心の検討①			第 22 回	論文の執筆	
	第 8 回	研究テーマの選定および問題関心の検討②			第 23 回	論文の執筆	
	第 9 回	研究テーマの選定および問題関心の検討②			第 24 回	論文の修正	
	第 10 回	先行研究の検討①			第 25 回	論文の修正	
	第 11 回	先行研究の検討②			第 26 回	論文の修正	
	第 12 回	先行研究の検討②			第 27 回	論文発表①	
	第 13 回	中間発表			第 28 回	論文発表②	
	第 14 回	中間発表			第 29 回	論文発表③	
	第 15 回	中間発表			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：参考文献を通読し、疑問点や質問点を事前にまとめておくこと。 参考文献に関連する書籍・論文を調べ、ゼミで紹介できるよう準備する。				復習：受講生内での意見交換をもとに、各自のテーマに関連する意見や文献情報を記録していくこと。		
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・執筆過程で提出された論文にコメントを付して返却する。論文提出までこの作業を繰り返し行う。 ・論文発表にて提出された卒業論文の評価すべき点と改善点を伝える。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 論文（70％）、発表（20％）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	必要に応じて適宜、紹介する。						
注 意 事 項	・研究テーマに関する資料は、学生が築いたネットワークの中にも存在する。学生がこれまでに得てきた他者との繋がりから研究テーマを見つけることを重視する。 ・日常生活で疑問に思ったことや悩んだ経験について、日ごろから記録をとっておくことを期待する。受講生が経験から得た感覚は、卒業研究の問題関心を見つけるうえで、貴重なヒントになるはずである。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	あさぎ　なおみ 浅木　尚実
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行う。論文提出後には発表会が行い、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。主な研究テーマとしては、児童文化、児童文学、保育内容、遊び、育児・家族支援等を中心とする。						
到達目標	1．学生が自らの興味・関心に基づき、研究テーマを見出すことができる。 2．テーマに沿った文、インタビュー、文献調査、フィールドワーク等により、調査、研究した内容をまとめることができる。						
授 業 計 画	第1回	講義の方針と年間計画			第16回	論文作成の準備①	
	第2回	研究テーマについての講義①			第17回	論文作成の準備②	
	第3回	研究テーマについての講義②			第18回	論文作成の準備③	
	第4回	研究テーマについての講義③			第19回	論文作成①	
	第5回	学生によるテーマの選定①			第20回	論文作成②	
	第6回	学生によるテーマの選定②			第21回	論文作成③	
	第7回	学生によるテーマの選定③			第22回	論文作成④	
	第8回	文献調査①			第23回	論文作成⑤	
	第9回	文献調査②			第24回	論文作成⑥	
	第10回	質問紙調査の準備①			第25回	論文作成⑦	
	第11回	関連施設の見学①			第26回	論文修正①	
	第12回	関連施設の見学②			第27回	論文修正②	
	第13回	中間発表①			第28回	論文修正③	
	第14回	中間発表①			第29回	論文発表会①	
	第15回	中間発表②			第30回	論文発表会②	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：自分の興味のある研究テーマについて模索すること。文献資料を収集し、まとめる。				復習：課題について、教員から受けた指導に従って、研究、修正等を適宜行うこと。		
	予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。		
課題へのフィードバック	中間発表や論文修正時にゼミメンバーや指導教官より受けたアドバイスにより、振り返りを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（　80　％）、作品・発表（　10　％）、授業態度（　10　％）						
教科書	特になし。						
参考文献	その都度紹介する。						
注意事項	授業時間を有効に使うことはもとより、授業以外の時間の研究も行う必要がある。 指導教官の指導は、決められた時間内に受けること。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習				
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業研究（論文もしくは作品の作成）を行う。 講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。 卒業研究成果物の提出後には、各ゼミナール単位での発表会が行われる。						
到達目標	１．“保育・幼児教育の専門家”としての将来の自分自身を想定した「災害サバイバルシミュレーション」の実行を通して、いつ現実化するかわからない災害に遭遇した際の心構えを身に付けている。 ２．上記シミュレーションの結果を卒業研究の成果物として整理することにより、特に防災の観点からみて保育者に必要とされる知識を身に付けている。						
授 業 計 画	第 1 回	前期ガイダンス 演習の目的や授業の進めかた等々についての説明			第 16 回	後期ガイダンス 演習目的の確認、シミュレーションについての説明、他	
	第 2 回	研究の前準備① 「地域保育基礎講座」の復習（第 0 講～第 2 講）			第 17 回	研究の前準備⑬ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解	
	第 3 回	研究の前準備② 「地域保育基礎講座」の復習（第 3 講・第 4 講）			第 18 回	研究の前準備⑭ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解	
	第 4 回	研究の前準備③ 「地域保育基礎講座」の復習（第 5 講・第 6 講）			第 19 回	研究の前準備⑮ 到達目標を意識した選定資料（教員が準備する）の通解	
	第 5 回	研究の前準備④ 「地域保育基礎講座」の復習（第 7 講・第 8 講）			第 20 回	研究の前準備⑯ シミュレーションの練習	
	第 6 回	研究の前準備⑤ 「地域保育基礎講座」の復習（第 9 講・第 10 講）			第 21 回	研究の前準備⑰ シミュレーションの練習（前回の続き）	
	第 7 回	過去の卒業研究例の閲覧 本学科卒業生の作成した論文・作品の鑑賞			第 22 回	卒業研究① 本番のシミュレーションのための準備	
	第 8 回	研究の前準備⑥ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解			第 23 回	卒業研究② 本番のシミュレーションの開始	
	第 9 回	研究の前準備⑦ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解			第 24 回	卒業研究③ シミュレーションの継続（内容の増補改訂）	
	第 10 回	研究の前準備⑧ 既存の学術資料（教員が準備する）の通解			第 25 回	卒業研究③ 各自のシミュレーション結果の中間発表	
	第 11 回	研究の前準備⑨ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解			第 26 回	卒業研究④ シミュレーションの仕上げ、および説明文の準備	
	第 12 回	研究の前準備⑩ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解			第 27 回	卒業研究⑤ シミュレーション(+説明文)の完成、および成果物の提出	
	第 13 回	研究の前準備⑪ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解			第 28 回	卒業研究⑥ 各自の研究成果の発表および質疑応答	
	第 14 回	研究の前準備⑫ 既存の学術資料（履修者が各自で準備する）の通解			第 29 回	卒業研究⑦ 各自の研究成果の発表および質疑応答（前回の続き）	
	第 15 回	授業前半（第 1 回～第 14 回）のまとめ これまでの演習内容の総括および整理			第 30 回	全体のまとめ 通年の演習内容の総括および整理	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 予習が必要とされる事項については、担当教員が随時指示する。			復習： 復習が必要とされる事項については、担当教員が随時指示する。			
	予習に要する学習時間：概ね 3 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 1 5 分を目安とする。			
課題へのフィードバック	資料類の通解を行う際、必要な確認テストおよび解説を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（70％）、作品・発表（20％）、授業態度（10％）						
教科書	『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために』（藤田哲也ほか、北大路書房） 上記は、本学入学年度に開講した地域保育学科必修授業「地域保育基礎講座」において、使用したテキストである（紛失もしくは廃棄した場合を除き、再度購入する必要はない）。						
参考文献	必要に応じて随時紹介する。						
注意事項	１．他の授業と同じく、無断欠席や無断遅刻、無断早退などの「無断～」な言動は厳禁とする。 ２．架空イベントの詳細を頭の中で想起し整理するには、豊かな想像力および強い精神力が求められる。 ３．卒業研究の成果物（シミュレーション結果）は、「作品」として扱われる。 ４．提出締め切り後に成果物の修正を求められた場合、その修正作業に対する評価は「発表」に含まれる。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。研究テーマとしては、「地域における健全育成」、「現代における子どもの居場所」等のキーワードを中心とする。						
到達目標	1．論文の作成方法を習得している。 2．少人数のゼミナール形式で協調性を身につけている。 3．論文作成を通して、保育者として必要な専門的知識を習得している。						
授 業 計 画	第1回	授業の進め方			第16週	調査票の作り方	
	第2回	文献による基礎研究			第17週	調査票の作成	
	第3回	視聴覚教材による基礎研究			第18週	研究論文の執筆 ① 研究動機	
	第4回	テーマの設定			第19週	研究論文の執筆 ② 用語整理・定義・動向	
	第5回	テーマの確定			第20週	研究論文の執筆 ③ 研究調査等	
	第6回	文献・資料の収集方法			第21週	研究論文の執筆 ④ 情報整理	
	第7回	文献の収集			第22週	研究論文の執筆 ⑤ 研究内容整理	
	第8回	資料の収集			第23週	研究論文の執筆 ⑥ 提出前確認	
	第9回	研究論文の読み方			第24週	中間発表	
	第10回	調査、研究の方法			第25週	論文の修正 ① 形式の整理	
	第11回	論文の執筆について			第26週	論文の修正 ② 文献の整理	
	第12回	中間発表 前半グループ			第27週	論文の修正 ③ 内容修正	
	第13回	中間発表 後半グループ			第28週	論文発表 準備	
	第14回	論文の組み立て			第29週	論文発表	
	第15回	研究方法の検討			第30週	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：毎授業ごとに提示される課題に沿って、研究を各自で進めてくること。				復習：自分の研究や他者の研究について学んだことを記録にとり、その記録をまとめて、自身の研究に活かして各自進める。		
	予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。		
課題へのフィードバック	作成した論文、及び論文を元にした発表の講評を伝える。						
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）						
教科書	なし						
参考文献	なし						
注意事項	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。						

科 目 名	総合演習Ⅱ（卒業研究）			単位数	2	担当教員	しんと のぶゆき 新戸 信之
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。研究テーマとしては、「レクリエーション」「運動」「遊び」「幼児体育」「野外活動」「アウトドア」「行動分析」がキーワードとなる。						
到 達 目 標	1．論文を完成させる。 2．論文作成に必要なスキルを身につける。						
授 業 計 画	第 1 回	講義の方針と年間計画、研究テーマの選定について			第 16 回	中間発表①	
	第 2 回	各学生による研究テーマの選定①			第 17 回	中間発表②	
	第 3 回	研究テーマの決定、発表			第 18 回	論文の執筆①	
	第 4 回	文献の収集①			第 19 回	論文の執筆②	
	第 5 回	文献の収集②			第 20 回	論文の執筆③	
	第 6 回	文献の収集③			第 21 回	論文の執筆④	
	第 7 回	研究デザインの検討・決定①			第 22 回	論文の執筆⑤	
	第 8 回	研究デザインの検討・決定②			第 23 回	論文の執筆⑥	
	第 9 回	論文の書き方について			第 24 回	論文の執筆⑦	
	第 10 回	先行研究の発表①			第 25 回	論文の執筆⑧	
	第 11 回	先行研究の発表②			第 26 回	論文の修正①	
	第 12 回	先行研究の発表③			第 27 回	論文の修正②	
	第 13 回	調査方法について			第 28 回	論文発表①	
	第 14 回	データ処理の方法について			第 29 回	論文発表②	
	第 15 回	分析方法について			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：各段階で提示された課題を着実に進める。			復習：各段階で提示された課題を着実に進める。			
	予習に要する学習時間：概ね 1 2 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 1 2 0 分を目安とする。			
成績のフィードバック	随時検証し、解説をする。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（30％）、発表（20％）、授業態度（50％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	好奇心と遊び心を持ちつつも、真面目でストイックな取り組みを求めます。 授業内で論文を完成させることは不可能です。						

科 目 名	地 域 活 動 I		単位数	2	担当教員	いとうあきよし ほしの おさむ 伊藤明芳・星野 治
ナンバリングコード		0000000	授業形態	実習		
授 業 の 内 容	保育の専門家を目指して入学した1年次生が、本学科の理念の一つである「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、本学の所在地である所沢市を中心とする地域活動に参加することで、様々な人々と接し、保育者としての役割や地域の社会資源の重要性を理解する。活動後には随時、省察（振り返り）を行う。学年末に、次年度履修予定の「地域活動Ⅱ」を見据えた総まとめを行う。					
到 達 目 標	「地域にニーズにあった支援をする」保育者を目指すことが地域活動Ⅰ・Ⅱの共通のねらいである。 １． 児童館、障害者関係施設、教育関係機関、行政等が実施する活動に年間を通じて参加することで、各種施設の特徴や地域とのつながりを理解している。 ２． 子どもや障害児者、および彼らを取り巻く地域の社会資源への理解を深めている。 ３． 子どもや障害児者、保護者への接し方を身に付けている。					
授 業 計 画	第1回	イントロダクション（導入）			第16回	後期授業の進め方について
	第2回	地域活動の進め方（1/4）			第17回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（1/11）
	第3回	地域活動の進め方（2/4）			第18回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（2/11）
	第4回	地域活動の進め方（3/4）			第19回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（3/11）
	第5回	地域活動の進め方（4/4）			第20回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（4/11）
	第6回	活動参加者からの報告（1/6）			第21回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（5/11）
	第7回	活動参加者からの報告（2/6）			第22回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（6/11）
	第8回	活動参加者からの報告（3/6）			第23回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（7/11）
	第9回	活動参加者からの報告（4/6）			第24回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（8/11）
	第10回	活動参加者からの報告（5/6）			第25回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（9/11）
	第11回	活動参加者からの報告（6/6）			第26回	冬休み中の地域活動の進め方
	第12回	夏休み中の地域活動の進め方（1/3）			第27回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（10/11）
	第13回	夏休み中の地域活動の進め方（2/3）			第28回	地域活動に関する諸連絡と注意事項（11/11）、その他
	第14回	夏休み中の地域活動の進め方（3/3）			第29回	報告書の作成、その他
	第15回	前期のまとめと後期の学びへの助言			第30回	通年の総合的まとめと今後の学びへの助言
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 活動先の沿革や特色をホームページ等で確認しておくこと。 活動先までの交通アクセスを調べ、自宅からの経路を把握しておくこと。			復習： 具体的な活動内容や活動で得たことをレポートにまとめること。 他の履修生の活動報告を聞き、自身とは異なる着眼点や実践例を共有すること。		
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	活動内容を随時、レポートとして整理する。 口頭による活動体験報告を実施し、情報の共有を図る。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート・課題（60％）、授業態度（40％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	授業の際に随時紹介					
注 意 事 項	１． 本科目（実習）は卒業要件である。 ２． 活動は、主として土・日・祝日と長期休暇中（夏休み、冬休み）に行う。 ３． 指定回数の活動への参加と、活動の振り返りのためのレポート提出が求められる。 ４． 「駅ボランティア体験会」（後期に本学で実施予定。詳細は追って通知する）への参加を必修とする。					

科 目 名	地 域 活 動 Ⅱ			単位数	2	担当教員	いとうあきよし ほしのおさむ 伊藤明芳・星野 治
ナンバリングコード		0000000	授業形態	実習			
授 業 の 内 容	「地域活動Ⅱ」は「地域活動Ⅰ」での学びと実践を基礎にして第２年次に行う。具体的には、受講生自らが居住地域に活動場所を選定し、活動の依頼を行い、定まった場所(一か所)にて継続して活動を行うことを中心とする。そして、活動で得た記録、反省、気づき等をレポートに丁寧にまとめ、さらに、報告とディスカッションを通じて受講生同士で共有を図り、活動で得たものをより豊かにして全員の糧となるようにする。						
到 達 目 標	１．「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、地域の子育ての実態を理解する。 ２． 地域の子育てのニーズを学ぶ。 ３． 活動を通して、課題を発見し考察を行える力の養成。						
授 業 計 画	第 1 回	イントロダクション(導入)			第 16 回	事前指導⑤(基本マナーや課題の見直し等)	
	第 2 回	事前指導①(活動場所の選定等)			第 17 回	事前指導⑥(基本マナーや課題の見直し等)	
	第 3 回	事前指導②(活動場所の選定等)			第 18 回	地域活動⑥(受講生の居住地域にて)	
	第 4 回	事前指導③(マナーや課題の設定等)			第 19 回	地域活動⑦(受講生の居住地域にて)	
	第 5 回	事前指導④(マナーや課題の設定等)			第 20 回	地域活動⑧(受講生の居住地域にて)	
	第 6 回	地域活動①(受講生の居住地域にて)			第 21 回	地域活動⑨(受講生の居住地域にて)	
	第 7 回	地域活動②(受講生の居住地域にて)			第 22 回	地域活動⑩(受講生の居住地域にて)	
	第 8 回	地域活動③(受講生の居住地域にて)			第 23 回	事後指導⑤(注意事項等)	
	第 9 回	地域活動④(受講生の居住地域にて)			第 24 回	事後指導⑥(注意事項等)	
	第 10 回	地域活動⑤(受講生の居住地域にて)			第 25 回	事後指導⑦(振り返りとディスカッション等)	
	第 11 回	事後指導①(注意事項等)			第 26 回	事後指導⑧(振り返りとディスカッション等)	
	第 12 回	事後指導②(振り返りとディスカッション等)			第 27 回	事後指導⑨(振り返りとディスカッション等)	
	第 13 回	事後指導③(振り返りとディスカッション等)			第 28 回	事後指導⑩(一年生との合同検討会等)	
	第 14 回	事後指導④(振り返りとディスカッション等)			第 29 回	事後指導⑪(一年生との合同検討会等)	
	第 15 回	前期のまとめと後期の学びへの助言			第 30 回	一年間の総合的まとめと今後の学びへの助言	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習:活動場所を選定と依頼等を丁寧におこない活動に臨む				復習:活動で得た学び等をまとめる。		
	予習に要する学習時間:概ね90分を目安とする。				復習に要する学習時間:概ね90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	活動中、およびその前後を通して必要なフィードバックをおこなう。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験: 実施 () する／(○) しない 成績評価の方法:課題(60%)、レポート(40%) 課						
教 科 書	特に指定しない。						
参 考 文 献	講義の際に随時紹介する。						
注 意 事 項	・ 本科目(実習)は卒業要件である。 ・ 活動場所は主に受講生それぞれの居住地域の施設、学校、行政等が実施する活動を受講生自ら選定し、依頼を行い、活動に参加する。 ・ 活動は、土日祝日と長期休暇中に行う。できるだけ一か所の場所で継続して複数回の活動を行う。						

科 目 名	保 育 原 理 II		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	保育原理Ⅰでの学びを踏まえ、以下の内容を中心に学ぶ。 1. 保育の思想と歴史 2. 乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応 3. 保育所や幼稚園、認定こども園、地域保育型施設、認可外保育施設の現状や課題 4. 現在の子どもや保護者を取り巻く課題					
到 達 目 標	1. 保育の思想と歴史について基礎的な知識を理解している。 2. 乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応を理解している。 3. 保育所や幼稚園、認定こども園、地域保育型施設、認可外保育施設の現状や課題を理解している。 4. 保育の様々な課題について主体的に学ぶ姿勢を身につけている。					
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション 「保育」とは、「子ども」とは				
	第2回	保育の思想と歴史（諸学国の流れを中心に）				
	第3回	保育の思想と歴史（日本における流れを中心に）				
	第4回	保育方法から学ぶ モンテッソーリ教育、レッジョ・エミリアアプローチ				
	第5回	保育の現状と課題①保育所保育指針の改訂のポイント				
	第6回	保育の現状と課題②地域型保育、認可外保育など多様な保育の場				
	第7回	保育の現状と課題③保育の環境・設備に関する課題				
	第8回	保育の現状と課題④保育研究の動向、保育の効果についての縦断的な研究				
	第9回	特別な配慮を必要とする子どもの保育①早朝・延長保育、夜間保育におよぶ子どもの保育				
	第10回	特別な配慮を必要とする子どもの保育②障がいを持つ子どもとその保護者への対応				
	第11回	子どもを取り巻く現状と課題①子どもにふさわしい生活とは				
	第12回	子どもを取り巻く現状と課題②父親にとっての子育ての意義				
	第13回	子どもを取り巻く現状と課題③熊本慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、緊急的な状況にある女性への支援と子どもの権利				
	第14回	子どもを取り巻く現状と課題④1人親家庭や外国籍の保護者など多様な家庭への支援				
	第15回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習:次回の授業の範囲について、教科書に目を通し、専門用語を調べてノートにまとめること。			復習：授業で扱った内容についてノートに整理する。また、配布された参考文献のプリントに目を通すこと。		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	レポートを返却し、解説する。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（80%）、授業態度（20%）					
教 科 書	『保育原理〔第3版〕（最新保育講座）』（森上史郎・若月芳浩、ミネルヴァ書房）					
参 考 文 献	授業において紹介する。					
注 意 事 項						

科 目 名	保 育 の 心 理 学		単位数	1	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	本講義では、講義「発達心理学」の内容を踏まえて、発達心理学と教育心理学等の基礎的知識の拡充と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。					
到 達 目 標	１．発達心理学、教育心理学等の基本および発展的知識を正確に習得すること。 ２．学んだ知識を活用して、実際の保育現場の子どもの心の発達等について考えられる力を身につけること。 ３．学んだ知識を子育て支援に活かせること。					
授 業 計 画	第 1 回	イントロダクション				
	第 2 回	保育の心理学の基礎① [発達理論の復習]				
	第 3 回	保育の心理学の基礎② [発達理論の応用]				
	第 4 回	保育の心理学の基礎③ [教育心理学理論等の復習]				
	第 5 回	保育の心理学の基礎④ [教育心理学理論等の応用]				
	第 6 回	知的機能				
	第 7 回	情緒				
	第 8 回	社会性				
	第 9 回	発達障害 [発達障害とは何か] ①				
	第 10 回	発達障害 [発達障害の種類] ②				
	第 11 回	発達障害 [発達障害への対応] ③				
	第 12 回	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫				
	第 13 回	家庭、保護者、他機関等との連携				
	第 14 回	保育者自身の心の健康				
	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習:授業で扱う教科書の該当箇所を予め精読しておくこと。			復習：毎回、学んだ知識を正確に習得できるようにすること。		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	受講学生に対して、主に個別に成績のフィードバックをおこなう。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施 (○) する／ () しない 成績評価の方法： 筆記試験 (6 0 %)、レポート (4 0 %)					
教 科 書	特に指定しない					
参 考 文 献	越智幸一(編)(2015). 発達心理学 大学図書出版 他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。					
注 意 事 項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、さまざまな知見等を保育の実践に活かすことを考える。受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。					

科 目 名	子　ど　も　の　保　健　Ⅱ		単位数	1	担当教員	み　た　の　り　こ 味田　徳子
ナンバリングコード			授業形態	演習		
授　業　の 内　　　　容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健Ⅰ」で得た知識を実践できるように演習を重ね、習得することを目的とする。 保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について演習を通して理解を深める。					
到　達　目　標	１．子どもの健康状態の評価ができる。 ２．演習を通して、保育の現場で活かせる技術を身につけている。 ３．病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。 ４．集団保育における環境と安全対策が理解できる。					
授　業　計　画	第１回	オリエンテーション。グループ分け。 演習に臨む姿勢、課題説明。				
	第２回	子どもの発育・発達の観察と評価① 発育・発達				
	第３回	子どもの発育・発達の観察と評価② 計測・評価				
	第４回	子どもの健康観察と健康管理①				
	第５回	子どもの健康観察と健康管理② バイタルサイン測定				
	第６回	子どもの養護と教育① 抱っこ、おんぶ、オムツ交換				
	第７回	子どもの養護と教育② 沐浴、衣類の着脱、鼻・耳のケア				
	第８回	子どもの養護と教育③ 清潔（手洗い、歯磨き、爪切り）				
	第９回	＝実技試験＝				
	第１０回	子どもの生活習慣 睡眠、排泄、栄養				
	第１１回	体調不良（発熱、嘔吐、下痢、咳）時の対応 薬法、汚物処理、洗浄、体位				
	第１２回	感染症の予防と対策 ＝保健だより作成＝				
	第１３回	子どもと薬 剤形における管理、与薬法　　エビベン練習				
	第１４回	保育における応急手当① 三角巾、包帯法、創処置				
	第１５回	保育における応急手当② 乳幼児の AED、窒息対応				
授　業　に 対　す　る 予　習・復　習	予習：授業計画を参考に教科書で内容を確認する。				復習：授業で得た知識を確認する。	
	予習に要する学習時間：概ね　15分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね　30分を目安とする。	
課題へのフィードバック	レポート・課題は採点后、返却する。 実技試験前に試験チェックポイントについて確認し、実施後振り返る。					
成　績　評　価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　実技試験（30%）、レポート・課題（40%）、授業態度（20%）、身だしなみ（10%）					
教　科　書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子編著、創成社）					
参　考　文　献						
注　意　事　項	１、演習時は、動きやすい服装、エプロンを着用し、爪・髪などの身だしなみを整えて下さい。 ２、演習、準備、後片付けなど主体的に取り組むことで、授業態度における積極性と評価します。					

科 目 名	子　ど　も　の　食　と　栄　養		単位数	2	担当教員	はしもと　ようこ 橋　本　　洋子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授　業　の 内　　　　容	私たちは「食べる」ことでからだに必要な栄養を摂取し、また適切な食生活によって健康を維持している。乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身についた食生活はその子どもの一生の食習慣を左右する大切なものとなる。食事は単に栄養素を摂取するだけではなく、心身の順調な発育、発達を促し健康な生活を営むための基礎となることを理解し、保育者として必要な食・栄養の知識を身につける。この授業を通して自身の適切な食生活も考えて欲しい。					
到　達　目　標	１．健康な生活を営むために必要な栄養の知識と体の仕組みを理解し、適切な食生活をおくことができる。 ２．子どもの心身の発達段階にふさわしい栄養と食生活を理解し、子どもがよく噛んで美味しく味わうための環境づくりに取り組むことができる。 ３．子どもを取り巻く食の様々な問題点から食教育の重要性を理解し実践力を身につけている。					
授　業　計　画	第１回	子どもの健康と食生活 健康・栄養とは			第１6回	児童福祉施設における食事と栄養
	第２回	子どもを取り巻く食環境① 子どもの心身の健康と食生活			第１7回	配慮が必要な子どもの食と栄養① 疾病・体調不良など
	第３回	子どもを取り巻く食環境② 子どもの食生活の現状と課題、食品の安全性			第１8回	配慮が必要な子どもの食と栄養② アレルギー、エビイベントレーナー
	第４回	からだと栄養① からだのはたらきと栄養、栄養素の基礎知識			第１9回	配慮が必要な子どもの食と栄養③ 障がいのある子どもへの対応
	第５回	からだと栄養② 食べ物のゆくえ～消化・吸収のいとなみ～（ビデオ）			第２0回	こどもを取り巻く食環境③ いま子どもに必要な食環境を考える
	第６回	からだと栄養③ からだのはたらきと栄養　まとめ・小テスト			第２1回	献立作成：食品の選び方、栄養バランス
	第７回	からだと栄養④ 食事摂取基準と献立作成・調理の基本			第２2回	食育① 食育の基本と内容：食育基本法、食育計画
	第８回	子どもの発育・発達と食生活① 妊娠、胎児期の栄養			第２3回	食育② 保育者としての食育を考える：実践例から学ぶ
	第９回	子どもの発育・発達と食生活② 乳児期：乳汁栄養（母乳、人工栄養）、排泄			第２4回	食育③ 食育計画の立案
	第１0回	子どもの発育・発達と食生活③ 乳児期：哺乳動作の発達（ビデオ）			第２5回	子どもの栄養と食生活 まとめ・小テスト
	第１1回	子どもの発育・発達と食生活④ 離乳の意義と進め方			第２6回	食育演習① 食育媒体とは：食育計画と媒体制作
	第１2回	子どもの発育・発達と食生活⑤ 摂食機能の発達　まとめ			第２7回	食育演習② 媒体製作
	第１3回	子どもの発育・発達と食生活⑥ 幼児期の特徴と食生活			第２8回	食育演習③ 媒体制作
	第１4回	子どもの発育・発達と食生活⑦ 学童期の特徴と食生活			第２9回	食育媒体発表①
	第１5回	子どもの発育・発達と食生活⑧ まとめ・小テスト			第３0回	食育媒体発表②
	授　業　に 対　す　る 予　習・復　習	予習：シラバスおよび授業内での指示にしたがい、事前にテキストに目を通しておく。				復習：配布資料およびノートをまとめ授業内容を確認しておく。欠席した場合は必ず次の授業前に資料を振り返ること。
予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。		
課題へのフィードバック	授業内で実施する小テストおよび試験に対して解説し講評を行う。					
成　績　評　価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（７０％）、レポート・課題（１０％）、作品・発表（１０％）、授業態度（１０％）					
教　科　書	『子どもの食と栄養　－演習－』（岡崎光子編、同文書院）					
参　考　文　献	『子どもの食と栄養演習書』（小川雄二編、医歯薬出版株式会社）他、授業内で随時紹介する					
注　意　事　項	テキストを中心にビデオ・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが、献立作成、食育媒体制作等も含む演習科目である。授業の指示にそった事前学習が必要となる。自身の食生活・健康も振り返り、いま保育者に期待されている食指導の大切さを考え、課題作成・発表に積極的に取り組んでほしい。試験は授業内にて前・後期に実施する。					

科 目 名	子どものための食育実習		単位数	1	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	実習		
授 業 の 内 容	子どもは、乳・幼児期の短期間にめざましい摂食機能の発達を遂げる。この食育実習では、1年次の「子どもの食と栄養」で学んだ知識をもとに、子どもの発達過程に応じた食事を実際に調理し試食することにより咀嚼機能の発達を理解し、乳幼児に関わる専門職としての適切な食指導・食支援の方法を学ぶ。基本的な調理の知識・技術を習得する。					
到 達 目 標	1. 準備（計る・洗うなど）から片付けにいたる調理に必要な知識、技術を身につけている。 2. たんに「空腹を満たす食事」ではない、子どもの月齢と咀嚼機能に合った食品の選択、調理方法（適切な量・調理形態）を理解し実践できる。 3. 「美味しく」「楽しい」かつ「安全な」食事を提供するための環境整備ができる。					
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション：調理室の使い方、調理の基本、おやつ				
	第2回	調乳・赤ちゃん人形				
	第3回	離乳食（準備食・5～6か月）				
	第4回	離乳食（7～8か月）、間食				
	第5回	離乳食（9～11か月）				
	第6回	離乳食（12～18か月）				
	第7回	幼児の食事（1～2才、3～5才）				
	第8回	幼児のおべんとう				
	第9回	妊産婦の食事				
	第10回	幼児の間食：食物アレルギーを考える				
	第11回	行事食				
	第12回	食育を考える				
	第13回	まとめ、レポート提出（第13週で終了）				
	第14回					
	第15回					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：毎実習前にオリエンテーション時の配布資料、前実習内容に目を通し確認しておくこと。次週の实習内容を確認しておくこと。				復習：レポート作成により実習内容の理解を深める。	
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。	
課題へのフィードバック	レポート毎に実習内容の確認、講評を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（60%）、実技（20%）、授業態度（20%）					
教 科 書	毎実習時に資料を配布する					
参 考 文 献	授業内にて紹介する					
注 意 事 項	毎回2時限連続で行う。デモンストレーション・説明の後、4～5人のグループに分かれて実習を行う。必要に応じてビデオ等の教材も使用する。実習毎に各自でレポートを作成、レポートは最後にまとめて提出する。グループ毎の実習となり欠席は他の学生に迷惑をかける。授業中の私語は円滑な実習のために禁止する。エプロン、三角巾を着用すること。調理、試食後にまとめるレポートは、子どもの発達をふまえて考察すること。					

科 目 名	社 会 的 養 護		単位数	2	担当教員	まんどう あきお 萬 燈 章 雄
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。課題を抱えながら生活する子どもたちに、本来もつ権利を守りながら保育士としてどのように関わり、支援していくのかを学習する。					
到 達 目 標	1. 社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解している。 2. 「子どもの最善の利益」とは何かを知り、支援者がどのようなスタンスで望めばよいのかを習得している。 3. 社会的養護に携わる保育士の職務と倫理について身につけている。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション～「社会的養護」とは社会的養護に携わる保育士としての基本的スタンスについて学ぶ				
	第 2 回	子ども観と社会的養護の歴史 子どもが歴史的にどのように扱われてきたか				
	第 3 回	社会的養護問題の本質 育てられない家庭環境と社会構造の問題について学ぶ				
	第 4 回	社会的養護の仕組み 児童相談所を中心とした「措置」制度について学ぶ。「措置」と「契約」について。				
	第 5 回	児童福祉施設について 児童福祉法で定める施設について学ぶ				
	第 6 回	里親制度・親権と養子縁組について なぜ今里親委託推進なのか。				
	第 7 回	社会的養護実践の技術について（ソーシャルワーク・ケースワーク・グループワークなど） 個別対応から施設や地域での流れや取り組みについて学ぶ。				
	第 8 回	社会的養護の概念及び仕組みについて 中間まとめ 理解度チェックとレポート				
	第 9 回	アタッチメントについて 「子どもの安全基地」について学ぶ。				
	第 10 回	児童虐待と社会的養護 虐待を受けてきた子供たちについて理解する。				
	第 11 回	「施設の小規模化」について 地域小規模施設・ファミリーホームなどについて学ぶ				
	第 12 回	児童福祉施設での基本技術 アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）と記録の書き方について。				
	第 13 回	演 習 「情報の共有」について学習する。資料に基づいて事例を整理する（養護施設）。				
	第 14 回	子どもの最善の利益と権利擁護について 最終まとめ 理解度チェックとレポート				
	第 15 回	今後の社会的養護の方向性について 児童福祉法の総則改正と子どもの権利条約、「新しい社会的養育ビジョン」について学ぶ。				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。			復習：配付したプリント資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降でも構わないので質問してください。		
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	提出物やレポートは、原則コメントと評価をつけて返却します。グループ作業などはその時点で評価・コメントします。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、授業態度（50%）					
教 科 書	な し					
参 考 文 献	社会的養護[第4版] 小池由佳 山縣文治 編著 ミネルヴァ書房 その他適宜紹介します。					
注 意 事 項	評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を2回ほど実施します。 主に講義形式ですが、後半には事例研究など、なるべく授業に参加していただくことも予定しています。受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本、プリント資料配布で授業をすすめます。					

科 目 名	相 談 援 助		単位数	1	担当教員	こむろ たいじ 小室 泰治
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	相談援助において必要な方法や知識・及び技術を学び、相談者として自己理解を深め、保育現場において相談援助の理論や方法を活用できる技術を身につけることをねらいとし、具体的展開について事例など演習を交えながら解説する。					
到 達 目 標	１． 相談援助の意義、機能、対象を説明することができる。 ２． 相談援助の方法、技術を説明することができる。 ３． 地域にある社会資源の活用方法を説明することができる。					
授 業 計 画	第 1 回	相談援助とは何かについて学ぶ 保育実践の中でなぜ相談援助が必要になったのかを理解する				
	第 2 回	相談援助の理論と歴史的変遷について学ぶ 相談援助の定義と理論を理解する				
	第 3 回	相談援助の基本的枠組みを学ぶ 相談援助には、直接援助技術、間接援助技術があることを理解する				
	第 4 回	援助技術の理念と価値について学ぶ バイステックの援助関係を成立させるための 7 つの原則を学ぶ				
	第 5 回	相談援助の展開過程 面接の開始から問題解決の終結までの過程を学ぶ				
	第 6 回	相談援助を行う上での倫理を学ぶ 専門職として守るべき倫理綱領を学ぶ				
	第 7 回	保育現場における直接援助技術の実際 保育現場で保護者の面接やグループワークの方法について事例を通して修得する				
	第 8 回	保育所におけるコミュニティーワーク 地域に根ざした保育所のあり方探究する				
	第 9 回	地域にある社会資源の活用 相談援助に係る関係機関や地域にある社会資源を探索する				
	第 10 回	事例研究 育児不安とストレスに関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ				
	第 11 回	事例研究 母子関係と母親の自立に関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ				
	第 12 回	事例研究 母子分離不安に関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ				
	第 13 回	自己覚知とスーパービジョン 援助者の自己覚知を育てるための方法としてのスーパービジョンを学ぶ				
	第 14 回	保育の場面とソーシャルワーク活用の可能性 日々の保育実践の“意識”的な積み重ねであることを学ぶ				
	第 15 回	相談援助における課題 まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予 習：			復 習：		
	日ごろからニュースや新聞報道に目を通し、子育ての悩みや地域の課題について考えておくこと。			内容・ポイントを整理する		
	予習に要する学習時間：概ね 3 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 3 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	定期試験後に解答を示し解説する					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（5 0 %）、発表（4 0 %）、授業態度（1 0 %）					
教 科 書	『子どもたちの生活を支える相談援助』（小野澤昇・田中利則・大塚良一編著、ミネルヴァ書房、2015）					
参 考 文 献	『ケースワークの原則』（F・P バイステック著、誠信書房）					
注 意 事 項	１． 授業中スマートホンなどはカバンの中に入れておくこと。 ２． グループワークやロールプレイなども行うので、積極的に参加すること。					

科 目 名		家 庭 支 援 論		単位数	2	担当教員	うちだ ともひろ 内田 知宏	
		授業形態		講義				
授 業 の 内 容	家族、家庭のあり方が変化し、多様化した現在、保育者は家庭や地域と連携しながら子育てを支援していくことが求められている。本科目では、現代社会における家庭の状況を理解した上で、子育てを行う家庭に対する保育者の支援について考え、個々の家庭のニーズに応じた援助ができるようになるために必要な基礎的知識を身につけていく。							
到 達 目 標	１． 家族の意義とその機能について理解し、説明することができる。 ２． 現代の家族が置かれている状況を理解し、その課題を具体的に説明することができる。 ３． 子育て家庭に対する施策や社会資源に関する知識を身につけている。 ４． 子育て家庭に対する支援の実践について理解し、ニーズに応じた支援の展開を考えることができる。							
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション ―本科目の概要、授業の進め方、予習・復習の方法、評価基準、参考文献等の説明等―						
	第 2 回	家庭と保育 ―保育者による家庭支援の必要性、保育所保育指針と家庭支援等―						
	第 3 回	家庭を取り巻く社会的環境とその変容 ―社会的状況の中で揺れる家族、ワーク・ライフ・バランス等―						
	第 4 回	家庭支援の視点 ―家庭を支援することとは、施策から実践への枠組み、家族関係と家庭支援の方法―						
	第 5 回	家庭支援のための法制度と社会資源 ―法制度と社会資源を学ぶ意味、各法制度と社会資源―						
	第 6 回	子育て支援サービスの意義と実際 ―子育て支援サービスの意義、子育て支援サービスプランについて―						
	第 7 回	保育の場における日常的な家庭支援 ―保育施設での日常生活における支援、放課後児童クラブにおける支援―						
	第 8 回	地域子育て支援活動における家庭支援 ―地域子育て支援事業と保育者の役割について―						
	第 9 回	対象別にみた家庭支援① ―障がいのある子どもに対する支援―						
	第 10 回	対象別にみた家庭支援② ―要保護児童に対する支援―						
	第 11 回	対象別にみた家庭支援③ ―ひとり親家庭への支援―						
	第 12 回	対象別にみた家庭支援④ ―多文化化への対応―						
	第 13 回	家庭支援のためのソーシャルワーク ―家庭支援におけるソーシャルワークの実践方法、保育現場で活用できる基礎的な相談援助技術等―						
	第 14 回	事例分析 ―支援事例を通じた保育者による家庭支援の実践的理解―						
	第 15 回	まとめ ―子ども家庭支援の展望と課題―						
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：教科書の該当箇所の精読（疑問点を明らかにしておくこと）、新聞やインターネットを活用した授業テーマに関するトピックの収集と理解				復習：教科書及び配布されたプリントの見直し（理解できていないところはないかしっかりと確認する）、授業時に指示された内容の自己学習			
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。			
課題へのフィードバック	定期試験については、終了後に解答を示し解説を行う。その際に併せて「成績評価の方法」を踏まえた成績のフィードバックを行う。							
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（8 0 %）、レポート・課題（1 0 %）、授業態度（1 0 %）							
教 科 書	『保育者が学ぶ家庭支援論（第 2 版）』（植木信一編著、建帛社）							
参 考 文 献	授業時に適宜紹介する。							
注 意 事 項	私語厳禁。受講態度の悪い者には退室を命じることがある。その場合は欠席扱いとなる。 毎時間配布するレジュメはファイリングし、毎回授業に持参するようにすること。							

科 目 名	保 育 内 容 総 論		単位数	1	担当教員	いしかわ のぶまさ 石河 信雅
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる實際を理解し、保育実践にいかにか臨むかを事例に基づきながら学んでいく。					
到達目標	１．保育所・幼稚園（幼保連携型認定こども園）に関する基本的事項を理解している。 ２．子どもの発達と保育内容との関連について理解している。 ３．各領域と保育内容について理解し、実際の保育場面での在り方を理解している。 ４．保育の實際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を再度見直すことができる。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義を理解する。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自意欲化を図る。幼稚園・保育園の概要を知る。				
	第 2 回	幼稚園教育要領・保育園保育指針（幼保連携型認定こども園保育要領）に基づく基本的な内容「５領域や養護」などについて概観し、「論」と「実践」の在り方を考察する。				
	第 3 回	保育の実際・遊びを中心とした生活。実際の保育場面を想定し、環境構成の重要性と遊びを通して子どもは成長し様々な学びをすることを学ぶ。				
	第 4 回	発達と保育内容。子どもの発達と保育内容との関連性を実践例を通して学ぶ。そのことにより、子どもの発達を認識し実践の場面でどのように活用するかを理解し、認識しておくことの重要性を理解する。				
	第 5 回	年齢相当の保育 2・3 歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する。				
	第 6 回	年齢相当の保育 4・5 歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する				
	第 7 回	環境と保育について学ぶ。保育は環境をとおして行うことが基本となることを理解し、環境構成の重要性を実際の例を通して学び、理解する。				
	第 8 回	絵本と保育。保育場面での紙芝居や絵本の読み聞かせ・素話の方法などを実体験することにより、その在り方を学び保育場面での活かし方を考察する。				
	第 9 回	望ましい保育者像。保育や保育者の質について考察し、どのような保育者を目指すかを考えていく。その際、共同的な学びを行い学生同士が他のものの考え方などを知り、お互いの学びを深める。				
	第 10 回	保育をめぐる最近の動向。特に少子化や地域社会の在り方の変容など子どもが育つ環境は大きく変貌し、今後も社会環境の変化は続いていく。そのような変化の動向を知る方法や変化への対応について考察する。				
	第 11 回	多様な保育ニーズ・特に、気になる子の保育について学ぶ。近年幼児の社会も様々な外的要因から幼児の育ちに大きな影響が見受けられる。気になる子への保育の在り方を実践例をとおして学ぶ。				
	第 12 回	保幼小の連携について学ぶ。近年、小１プロブレムなどの課題が見受けられる。子どもたちは育ちの環境の変化に大きな戸惑いを見せている。子どもの育ちの環境や育ちの連続性について再考し、保幼小の連携について考察を深めていく。				
	第 13 回	保護者支援・地域との連携について学ぶ。核家族化などにより保護者の子育てへの支援が非常に重要になっている。支援の方法について事例をとおして学ぶ。また、地域社会との連携の在り方について事例をとおして学ぶ。				
	第 14 回	これからの保育に求められるもの。未来を生きる子どもたちを想像し、いまだどのような保育を行うことが必要なのかをこれまでの学びから考察し、保育の在り方を探求する。				
	第 15 回	まとめ・学び続ける保育者へ・保育環境は常に流動している。保育者はその流動性を感知し、常に学び、その学びを保育に活かしていかなければならない。今何をなすべきかを考え、行動できる保育者となれるよう自分自身を見直す。				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：講義内で次回の講義内容について知らせる。それとシラバスに則り事前に、著作物等により講義内容について学び問題意識をもって参加すること。			復習：講義内容について再度見直し自身で身に付けるようにする。また、関連内容について著作物等を参考に、様々な方法で学びを深めるようにすること。		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	日々の講義の中で、レポート等を作成しそのレポートについて朱書きを入れたり、内容について講義中に説明を加えたりする。また、定期試験を実施するが解答を提示し、内容について説明し、最終評価についてなども適切な方法で説明をする。					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（50％）、レポート・課題（20％）、授業態度（30％）					
教科書	「平成 29 年 3 月 31 日告示 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領」 全国保育士会編、社会福祉法人全国社会福祉協議会					
参考文献	講義の中で適宜提示する。					
注意事項						

科 目 名	保 育 内 容 (健 康)		単位数	1	担当教員	しんどのぶゆき 新戸 信之
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	心身の発達や、それにもなう運動能力や生活習慣など、子どもが自らを取り巻く外界との関わりをもつとき基本となる能力をどのように獲得していくのかを学ぶ。また、発達特性を理解し、保育者としての考え方や実際の援助の方法・配慮について学習する。					
到 達 目 標	1. 子どもの健康に関する領域について学習し、発達特性に応じた援助の方法・配慮について習得している。 2. 3. 4.					
授 業 計 画	第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、位置づけ、評価方法について）、保育現場の現状について				
	第 2 回	健康の概念 ・健康の定義 ・健康観の変遷				
	第 3 回	領域「健康」と保育指針について ・幼稚園教育要領の改訂 ・要領の「ねらい」「内容」 ・領域「健康」について ・保育所保育指針				
	第 4 回	運動能力の発達				
	第 5 回	基本的生活習慣の獲得				
	第 6 回	子どもの「健康」をめぐる現状と課題 ・子どもの運動の力の傾向 ・運動能力を低下させた原因				
	第 7 回	安全教育の考えかた、保育者としての留意事項				
	第 8 回	子どもと遊び、「あそび」とは				
	第 9 回	遊びの発達について				
	第 10 回	子どもの運動あそびの実践（1） ルールのある遊び、集団遊び				
	第 11 回	子どもの運動あそびの実践（2） 道具を使った運動遊び				
	第 12 回	子どもの発達と食生活				
	第 13 回	「健康」の現代社会における今日的課題、「健康」と保育者の役割				
	第 14 回	「健康」と幼稚園・保育所・小学校の連携				
	第 15 回	まとめ 「健康」に関する理解度の確認				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 各回の内容をキーワードに、書籍やネットサイトを検索し、予備知識を得る。			復習： 授業内容を振り返り、疑問点や理解しきれていない点を洗い出す。		
	予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。		
課題へのフィードバック	授業中の筆記試験に対して解説をする。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（60%）、授業態度（40%）					
教 科 書	なし ※必要に応じて資料を配布					
参 考 文 献	『子どものからだと心白書 2017』（子どものからだと心・連絡会議、子どものからだと心白書 2017・編集委員会、ブックハウス・エイチディ）					
注 意 事 項	授業時間内のガムとスマートフォンについては特に厳しく対処します。					

科 目 名	保 育 内 容 (人 間 関 係)		単位数	1	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	保育内容の領域の一つに、人とかかわりに関する領域「人間関係」が設けられている。本講義では、領域「人間関係」に関連する社会学や発達心理学などの理論をベースとした基礎知識を押さえるとともに、乳児期、幼児期のそれぞれの発達過程において、どのように人とかかわりが育つのかを学ぶ。また、保育者の保護者への対応や保育者同士の連携も含めた保育者の果たす役割を学ぶ。					
到 達 目 標	1. 領域「人間関係」を理解するのに必要な基礎知識を身につけている。 2. 一人一人が十分に生かされる集団であることの大切さといった「人間関係」を捉える視点を身につけている。 3. 保育者の保護者への対応や保育者同士の連携といった保育者の役割を理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション				
	第 2 回	自己理解と自己概念 「自分を知る」ところからはじめよう				
	第 3 回	社会・文化に生きる子ども				
	第 4 回	領域「人間関係」がめざすもの				
	第 5 回	領域「人間関係」の基礎知識				
	第 6 回	0・1・2歳児 乳児の保育における人とかかわり				
	第 7 回	3歳児 保育者が居場所 ものを「欲張る」ことにも意味がある				
	第 8 回	4歳児 自己主張と自己抑制 幼児期のなかよしとは？				
	第 9 回	5歳児 園生活の充実感を支えるもの				
	第 10 回	かけがえのない一人一人の存在				
	第 11 回	保護者とかかわり				
	第 12 回	保育者同士のかかわり				
	第 13 回	かかわりの育ちを「みる」				
	第 14 回	親しい人との体験が原動力になる				
	第 15 回	授業のまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。				復習：授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。	
	予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。	
課題へのフィードバック	レポート及び小テストを返却し、コメントを伝える。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（50%）、小テスト（30%）授業態度（20%）					
教 科 書	『コンパス 保育内容 人間関係』（岸井慶子・酒井真由子編著、建帛社）					
参 考 文 献	授業において紹介する。					
注 意 事 項	他の受講生の意見や考えを聞くこと、また自分自身の体験とつなげて考えることで、学びを深めてほしい。					

科 目 名	保 育 内 容 (環 境)		単位数	1	担当教員	まつなが しずこ 松 永 静子
		授業形態	演習			
授 業 の 内 容	本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育内容「環境」の意義、ねらい、内容について理解を深め、幼児期の教育・保育にかかわる基本的な知識・技能の習得を目指す。またこの講義では、保育内容「環境」を中心にその目的から内容・指導計画の考え方を具体的に学ぶ。学生自らが「環境」に興味関心を持ち、関わり、考え、「環境」を構成することを実践的に学ぶ。					
到 達 目 標	授業の到達目標及びテーマ １．「環境を通しての保育・教育」を様々な環境作りから学び、理解する。 ２．教育として、子ども自らが関わる「環境」とは何か、模擬保育や実践事例を通して学ぶ。 ３．保育の中の環境における指導法を理解する。					
授 業 計 画	第 1 回	保育内容「環境」について 基本的な知識の理解 授業のオリエンテーション				
	第 2 回	子どもの興味・関心・探究心と「遊び」について (乳児期の発達と遊びから発達に応じた環境を学ぶ)				
	第 3 回	子どもの興味・関心・探究心と「遊び」について (幼児期の発達と遊びから発達に応じた環境を学ぶ)				
	第 4 回	保育における環境構成の具体例から学ぶその 1 (保育室の空間と環境構成について学ぶ) ※映像教材				
	第 5 回	保育における環境構成の具体例から学ぶその 2 (保育室の玩具・素材の環境構成について学ぶ)				
	第 6 回	保育における教材 及び モノとの関わりについて (レジヨ・エミリア・アプローチを事例に)				
	第 7 回	園庭遊び・園外 (散歩など) 遊びと環境について				
	第 8 回	自然と子どもの関わりについてその 1 (身の回りの自然と保育における飼育と栽培を通して学ぶ)				
	第 9 回	自然と子どもの関わりについてその 2 (森のようちえんと乳幼児期の子どもの自然との関わりを学ぶ)				
	第 10 回	子どもを取り巻く地域環境・地球環境について (新聞、インターネットなどを調べたことで話し合う)				
	第 11 回	保育環境を実際にデザインする (個人・グループワーク・発表)				
	第 12 回	保育環境を実際にデザインする (ポスター発表し、学び合う)				
	第 13 回	保育における「環境」と遊びの展開について 指導計画を検討する				
	第 14 回	保育における「環境」と生活について 指導計画を検討する				
	第 15 回	まとめ 復習テスト				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：調べ学習やポスター発表などがあるので事前に準備をしておきましょう。			復習：学んだことを整理する。		
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	リアクションペーパーを毎回記入すること					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施 () する / (○) しない 成績評価の方法： 筆記試験 (50 %)、レポート・課題 (20 %)、作品・発表 (20 %)、実技 (%)、授業態度 (10 %)					
教 科 書	『書 名』(著者名、出版社名)					
参 考 文 献	『書 名』(著者名、出版社名) センス・オブ・ワンダー					
注 意 事 項						

科 目 名	保 育 内 容 (言 葉)		単位数	1	担当教員	あさぎ なおみ 浅木 尚実
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	乳幼児の言語発達が、周囲の大人とのコミュニケーションから多大な影響を受けることを理解する。乳幼児の言語発達の過程を生活や遊びの事例を通して学び、発達を促す方法を学ぶ。乳幼児が楽しく言葉を習得するための児童文化財についての知識や技術を学ぶ。					
到 達 目 標	１．乳幼児の言葉の発達過程を理解している。 ２．各月齢での発達と保育士の役割についての知識を習得している。 ３．言葉の発達を促す児童文化財について理解している。 ４．児童文化財の制作及び発表することができる。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション				
	第 2 回	言葉の発達と環境①：赤ちゃんとのコミュニケーション能力				
	第 3 回	言葉の発達と環境②：いないいないばあ論				
	第 4 回	言葉の発達と環境③：わらべうたとマザリーズ				
	第 5 回	言葉の発達と環境④：1、2 歳児の言葉の発達と保育士の役割				
	第 6 回	言葉の発達と環境⑤：3、4 歳児の言葉の発達と保育士の役割				
	第 7 回	言葉の発達と環境⑥：5、6 歳児の言葉の発達と保育士の役割				
	第 8 回	児童文化財と言葉 手袋人形制作①：デザインを考える。				
	第 9 回	手袋人形制作②：制作する。				
	第 10 回	聞く・話す：ストーリーテリングとは？				
	第 11 回	おはなしを語る。 演習①：おはなしを聞く。				
	第 12 回	おはなしを語る。 演習②：おはなしを選ぶ。				
	第 13 回	おはなしを語る。 演習③：おはなしを語る。				
	第 14 回	おはなしを語る。 演習④：おはなしの振り返りをする。				
	第 15 回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：毎回次回の内容の教科書をよく読んでくる。 前回の授業の課題の準備をする。 おはなしを覚え、語れるように準備する。			復習：講義のノートをまとめる。 おはなしの発表後、振り返りシートにまとめる。		
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	授業内にて小テストを行い、試験後、解答の解説と重要事項を説明する。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 20 %）、レポート・課題（ 40 %）、作品・発表（ 30 %）、授業態度（ 10 %）					
教 科 書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）					
参 考 文 献	その都度紹介する。					
注 意 事 項	手袋人形の材料を準備すること。（はさみ、針、糸、軍手、フェルト等）					

科 目 名	保育内容（音楽表現Ⅰ）		単位数	1	担当教員	にと う ひろみ 二 藤 宏美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	保育や幼児教育の現場ですぐに使える、年齢別の歌と身体表現、合奏表現を学習します。同時に自らのリズム感や音感、歌唱力、楽典の知識を磨きます。美しい音楽表現の規範、子どもとともに柔軟に音楽活動ができる態度と感受性について学びます。まとめとして、ものがたりの表現劇を制作し、発表します。					
到 達 目 標	１．授業で扱う全ての歌と遊戯（身体反応）、合奏を覚え正しく表現できる。 ２．楽譜の読みかきができ、基本的な楽典を理解している。 ３．曲に施された身体表現や合奏アレンジの、特徴や意図を理解している。 ４．グループでの表現活動と人前で発表することができる。					
授 業 計 画	第１回	発声、視唱、リズム反応、読譜の基本練習（以降、適宜扱う）				
	第２回	３歳児の合奏 発達段階の特徴と活動目標について				
	第３回	３歳児の合奏 楽曲の分析と実践（身体反応）				
	第４回	３歳児の合奏 楽曲の分析と実践（器楽合奏）				
	第５回	４歳児の合奏 発達段階の特徴と活動目標について				
	第６回	４歳児の合奏 楽曲の分析と実践（身体反応）				
	第７回	４歳児の合奏 楽曲の分析と実践（器楽合奏）				
	第８回	５歳児の合奏 発達段階の特徴と活動目標について				
	第９回	５歳児の合奏 楽曲の分析と実践				
	第１０回	５歳児の合奏 楽曲の分析と実践（器楽合奏）				
	第１１回	３拍子の楽曲、歌を伴わない身体表現				
	第１２回	実技個別確認 絵本をもとに表現 歌作り				
	第１３回	絵本をもとに表現 合奏アレンジ				
	第１４回	絵本をもとに表現 身体表現とグループ演出				
	第１５回	グループ発表と講評				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 授業で扱う曲の楽譜を確認しておく。			復習： 授業で扱った内容をその日のうちに完全に覚える。		
	予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 25分を目安とする。		
課題へのフィードバック	実施後に成績をつける観点を説明する。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（４０％）、作品・発表（３０％）、実技（２０％）、授業態度（１０％）					
教 科 書	『リトミックであそぼう 器楽合奏編』（定成淡紅子、全音楽譜出版社）					
参 考 文 献	『きょうはみんなでクマがりだ』（マイケル ローゼン再話、評論社） 『はじめての楽典ブック』（長沼由美、二藤宏美、ヤマハミュージックメディア）					
注 意 事 項	グループ作業や話し合いを数多くおこないます。協力し合い、学び合う態度をもちましょう。 笑顔で積極的に自分を表現できるよう心がけ、この領域における自分の特技を何か一つ体得しましょう。					

科 目 名	保育内容（造形表現Ⅰ）		単位数	1	担当教員	たけだ まりえ 武田 真理恵
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	幼児の造形表現を意欲的に展開させるために必要な基礎知識や技能の取得、及び、幼児の成長に合わせた造形表現活動やあそびを通して、豊かな感性を育む筋道を学びます。					
到 達 目 標	1.制作過程を大切にしながら、固定概念にとらわれない自分らしい造形表現活動ができる。 2.基礎的知識や技能をもとに、多様に応用できる力と自信を身につけている。					
授 業 計 画	第1回	造形表現活動の取り組み方について				
	第2回	描く-1 直線・曲線であそぶ（はじめてのクレヨン）				
	第3回	描く-2 点であそぶ（はじめての絵の具）				
	第4回	描く-3 技法を楽しむ（クレヨン、絵の具）				
	第5回	描く-4 技法を楽しむ（まとめ、混色）				
	第6回	立体-1 生活素材で手づくりおもちゃ（紙皿、紙コップ）				
	第7回	立体-2 生活素材で手づくりおもちゃ（牛乳パック）				
	第8回	自然とふれあう-1 自然物を使った製作				
	第9回	自然とふれあう-2 光とあそぶ・万華鏡				
	第10回	自然とふれあう-3 光とあそぶ・ステンドグラス				
	第11回	立体-3 アナログゲーム体験会（ゲームについて学ぶ）				
	第12回	立体-4 生活素材で手づくりアナログゲーム製作				
	第13回	編む・織る-1 リリアンあそび				
	第14回	贈る-1 行事に合わせた贈り物をつくる				
	第15回	造形表現活動1のまとめ 提出物確認				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 1.次回の授業の製作内容（製作案）を考えながら準備物を整える			復習： 1.授業を振り返り、製作が終わらなかったものを完成させる 2.課題 折り紙の本の製作		
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。		
課題へのフィードバック	課題提出状況のフィードバック 授業での製作作品の評価フィードバック					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（20％）課題（20％）、作品・発表（40％）授業態度（20％）					
教 科 書	『楽しい造形表現』（子どもの造形表現研究会 編著、圭文社）					
参 考 文 献	『クレヨンからはじめる幼児の絵画指導』（松浦龍子、黎明書房） 『絵の具からはじめる幼児の絵画指導』（松浦龍子、黎明書房） 他 授業内で随時紹介					
注 意 事 項	①作品などの提出期限を守ること ②授業に必要な道具や材料は各自責任をもって準備すること ③製作に要する材料費は本人負担					

科 目 名	音 楽 I (ピ ア ノ)		単位数	2	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一範 他	
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識（楽典）、伴奏法を学ぶ。各ピアノ担当につき6名前後のグループに分かれ、その半数が個別の実技指導を受ける。それ以外の半数は楽典やソルフェージュを学ぶ。45分で交代する。						
到 達 目 標	・基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を取得することができる。 ・実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 ・保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕			第 16 回	臨時記号と半音階 季節のうた（春）弾き歌い①	教本 No.68～69
	第 2 回	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8			第 17 回	16 分音符を用いたリズム 季節のうた（春）弾き歌い②	教本 No.70～72
	第 3 回	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16			第 18 回	イ短調の主要三和音 季節のうた（春）弾き歌い③	教本 No.73～76
	第 4 回	分散和音の伴奏形④ 4 分音符と 8 分音符 教本 No.17～24			第 19 回	6 度・3 度の重音 季節のうた（夏）弾き歌い①	教本 No.77～78
	第 5 回	ハ長調の下属和音 教本 No.25～26			第 20 回	3 連符 季節のうた（夏）弾き歌い②	教本 No.79～80
	第 6 回	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.27～32			第 21 回	ヘ長調よりハ長調への転調 季節のうた（夏）弾き歌い③	教本 No.81
	第 7 回	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.33～38			第 22 回	3 度の重音と 8 度の跳躍 季節のうた（秋）弾き歌い①	教本 No.82
	第 8 回	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本 No.39～42			第 23 回	弱起の曲 季節のうた（秋）弾き歌い②	教本 No.83～84
	第 9 回	高い音の練習 教本 No.43～46			第 24 回	ニ長調とニ短調の主要三和音 季節のうた（秋）弾き歌い③	教本 No.85～86
	第 10 回	3/8 拍子と 6/8 拍子 生活のうたの弾き歌い① 教本 No.47～48			第 25 回	装飾音 季節のうた（冬）弾き歌い①	教本 No.87～90
	第 11 回	付点 4 分音符を用いたリズム 生活のうたの弾き歌い② 教本 No.49～54			第 26 回	複付点音符 季節のうた（冬）弾き歌い②	教本 No.91
	第 12 回	ハ長調の音階 生活のうたの弾き歌い③ 教本 No.55～58			第 27 回	季節のうた（冬）弾き歌い③	教本 No.～92～94
	第 13 回	ヘ長調の音階 生活のうたの弾き歌い④ 教本 No.59～61			第 28 回	マーチ、その他①	教本 No.～95～98
	第 14 回	ト長調の音階 生活のうたの弾き歌い⑤ 教本 No.62～67			第 29 回	マーチ、その他②	教本 No.～99～102
	第 15 回	これまでの授業のまとめと発表			第 30 回	マーチ、その他③	教本 No.～103～107
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 限られた個人レッスンの時間を有効に活用できるよう、与えられた課題曲を中心に十分に練習をしたうえで受講する。				復習： 授業内で指摘された点を中心に、各自練習方法を工夫し曲を仕上げる。		
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	実技試験終了後、個別に講評を行う。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（10％）、実技（60％）、授業態度（30％）						
教 科 書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『簡易伴奏による 実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）						
参 考 文 献	必要に応じてプリントを配布する。						
注 意 事 項							

科 目 名	音 楽Ⅱ（ピ ア ノ）		単位数	2	担当教員	しか と かずのり 鹿 戸 一 範 他
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	音楽（１）で身につけたピアノ演奏の技術と表現力をさらに発展させ、子どものうたの弾き歌いを中心に学ぶ。登園から降園までの一日の流れの中にある生活のうた、春・夏・秋・冬の季節のうた、行事のうたなど様々な子どものうたをはじめ、幼稚園・保育所実習や就職試験での課題曲など、それぞれの状況に応じて進める。各クラスを担当する約４名の教員より指導を受ける。					
到 達 目 標	１．音楽（１）で身につけた知識、演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができる。 ２．コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション			第 16 回	季節のうた ９月① 「とんぼのめがね」「つき」他
	第 2 回	園生活のうた 弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他			第 17 回	季節のうた ９月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他
	第 3 回	園生活のうた 弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他			第 18 回	季節のうた １０月① 「やきいもグーチャーパー」「きのこ」他
	第 4 回	園生活のうた 弾き歌い③ 「さよならのうた」他			第 19 回	季節のうた １０月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他
	第 5 回	季節のうた ４月① 他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」			第 20 回	季節のうた １１月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他
	第 6 回	季節のうた ４月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他			第 21 回	季節のうた １１月② 「夕やけこやけ」「たきび」他
	第 7 回	季節のうた ５月① 「手をたたきましょう」「こいのぼり」他			第 22 回	季節のうた １２月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他
	第 8 回	季節のうた ５月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他			第 23 回	季節のうた １２月② 「ジングルベル」他
	第 9 回	季節のうた ６月① 「あめふりくまのこ」「あまだればったん」他			第 24 回	季節のうた １月① 「お正月」「雪」他
	第 10 回	季節のうた ６月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他			第 25 回	季節のうた １月② 「雪のこぼろず」「雪のぺんきやさん」他
	第 11 回	季節のうた ７・８月① 「たなばたさま」「うみ」他			第 26 回	季節のうた ２月① 「まめまき」「」他
	第 12 回	季節のうた ７・８月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他			第 27 回	季節のうた ２月② 「春がきた」「どこかで春が」他
	第 13 回	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他			第 28 回	季節のうた ３月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他
	第 14 回	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他			第 29 回	季節のうた ３月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」
	第 15 回	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他			第 30 回	コードネームを用いた伴奏づけ
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習:毎日の練習を積み重ねることが上達の重要なポイントとなるため、授業に向けて各自２～３曲を選択し練習しておく。			復習：授業内で指摘された点を中心として各自練習方法を工夫し曲を仕上げる。		
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	実技試験終了後、個別に講評を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：作品・発表（３０％）、実技（４０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	『簡易伴奏による 実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）					
参 考 文 献	必要に応じてプリントを配布する。					
注 意 事 項						

科 目 名	図 画 工 作			単位数	2	担当教員	いちのせ たかこ 市瀬 恭子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	幼児の造形表現の特質を理解し、豊かな感性の育ちを支援するために、保育者として必要な基礎的技術や専門的知識を実技演習を通して学びます。作品重視ではなく、美術が好きになるようにわかりやすく、身近なものの美しさや面白さに気づく授業を行います。						
到 達 目 標	1.造形表現の基礎的な知識と技能を習得している。 2.演習を通して造形表現の楽しさを学び、子どもの発達にあった援助、指導が展開できる。 3.子ども一人ひとりの表現をしっかりと受け止められる保育者になるための豊かな感性を身につけている。 4.自分の感性に自信を持ち、造形活動に主体的に取り組むことができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション 授業の主旨説明、自己カードの作成			第 16 回	紙工作① 身近な紙の切り絵	
	第 2 回	文字とデザイン① レタリングの基礎演習			第 17 回	紙工作② 段ボール紙の積み木	
	第 3 回	文字とデザイン② レタリングの活用			第 18 回	紙工作しりとり絵本① 文字と絵の構成	
	第 4 回	表現の基礎 描く① 鉛筆デッサン			第 19 回	紙工作しりとり絵本② 制作	
	第 5 回	表現の基礎 描く② クレヨン画			第 20 回	紙工作しりとり絵本③ 製本	
	第 6 回	いろいろな技法① クレヨン			第 21 回	季節の素材をつかって① 自然物のコラージュ	
	第 7 回	いろいろな技法② 絵具			第 22 回	季節の素材をつかって② 木のモビール	
	第 8 回	いろいろな技法③ コラージュ			第 23 回	季節の素材をつかって③ 枝、葉っぱの立体構成	
	第 9 回	モダンテクニックの知識と活用方法のまとめ			第 24 回	ポップアップカード① 基礎を学ぶ	
	第 10 回	色彩について（色相環 色の混色）			第 25 回	ポップアップカード② 制作	
	第 11 回	描画材 絵具の使い方① パウル・クレー模写			第 26 回	ポップアップカード③ 完成 評価	
	第 12 回	描画材 絵具の使い方② 静物画			第 27 回	グループ制作 壁面構成① 企画	
	第 13 回	光を利用した表現① グラシン紙工作			第 28 回	グループ制作 壁面構成② 制作	
	第 14 回	光を利用した表現② トランスペーパー工作			第 29 回	グループ制作 壁面構成③ 完成 評価	
	第 15 回	前期まとめと講評			第 30 回	まとめと講評	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：次回の制作のための材料、資料、道具の準備			復習：毎回授業終了時に「授業記録」を日誌形式で作成する			
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。			
課題へのフィードバック	学生は、課題ごと「プログラムの活動記録」を作成し、レポートと作品を提出する。 返却時に個別の直接講評、またはコメントを書いて返却する。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（％）、レポート・課題（２０％）、作品・発表（２０％）、実技（％）、授業態度（６０％）						
教 科 書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）						
参 考 文 献	『幼稚園教育要領、保育指針』（チャイルド社）						
注 意 事 項	自発的に誠実に取り組む態度を望みます。 ※制作に関する用具や材料費は個人負担です。 材料費 年間５００円 制作用具（スケッチブック、アクリル絵の具、筆、パレット。学校で一括購入する場合は２７００円）						

科 目 名	体育（幼児体育を含む）			単位数	2	担当教員	しんどのぶゆき 新戸 信之
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	幼児期にたくさん身体を動かし運動好きになることは、その後の運動習慣に繋がる。子ども達に運動の楽しさを伝えるためには、保育者が様々な遊びを理解し、楽しむ必要がある。 本講義では、幼児教育の現場で、①実際に子ども達が親しんでいる運動遊びを体験すること、②運動経験が少ない学生も、親しみやすい種目を通して遊びやスポーツを楽しむこと、③様々な状況に即した運動遊びを選択し提供することを目的とする。						
到達目標	1. 保育者として、運動やスポーツの楽しさを伝えることができる。 2. 年齢・人数・場所など、様々な状況に即した運動遊びを選択し提供することができる。 3. 遊びやスポーツに内在するリスクを理解し、事故を未然に防ぐ知識を持っている 4. 自身の体力や運動能力に適した身体活動を楽しむことができる。						
授 業 計 画	第 1 回	授業計画の説明、幼児体育の必要性の説明 コミュニケーションゲーム			第 16 回	リズム体操・レクダンスの創り方	
	第 2 回	運動量の多いグループゲーム			第 17 回	リズム体操を創る	
	第 3 回	鬼ごっこ			第 18 回	指導案の作成方法 指導案の作成	
	第 4 回	縄を使った遊び			第 19 回	模擬指導のリハーサル	
	第 5 回	ボールを使った遊び			第 20 回	ロールプレイングによる模擬指導：A グループ 評価	
	第 6 回	チャレンジザゲーム			第 21 回	ロールプレイングによる模擬指導：B グループ	
	第 7 回	伝承遊び			第 22 回	ロールプレイングによる模擬指導：C グループ	
	第 8 回	マット、跳び箱、平均台を使った遊び			第 23 回	ロールプレイングによる模擬指導：D グループ	
	第 9 回	ソフトバレーボール、ビーチボール、 インディアカ			第 24 回	ロールプレイングによる模擬指導：E グループ	
	第 10 回	ラリー系の遊び			第 25 回	ロールプレイングによる模擬指導：F グループ	
	第 11 回	ナンバーコール			第 26 回	ロールプレイングによる模擬指導：G グループ	
	第 12 回	チーム宝探し			第 27 回	ロールプレイングによる模擬指導：H グループ	
	第 13 回	新聞紙チャンバラ			第 28 回	ロールプレイングによる模擬指導：I グループ	
	第 14 回	タッチラグビー			第 29 回	ロールプレイングによる模擬指導：J グループ	
	第 15 回	ドッジビー			第 30 回	ふりかえり まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： ・ 幼少期にした運動あそびを思い出しておく。 ・ 幼児を観察しておく。				復習： 授業をふりかえり、自分なりのやりかたをイメージし、記録する。		
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	ロールプレイングによる発表後に解説。 第30回「まとめ」の授業でふりかえりのあと解説。						
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：作品・発表（20％）、実技（10％）、授業態度（70％）						
教科書	特になし						
参考文献	『たのしい運動あそび』（黒井信隆・山本秀人、いかだ社）						
注意事項	1. 出席重視。 2. 体操着、体育館シューズを着用すること。事故やケガにつながるので、裸足、スリッパ、フード付上着、ジーンズパンツは避ける。肩にかかる髪は結ぶ。アクセサリ等、固い物は外すこと。 3. 意欲、関心、遊び心を持って取り組む姿勢はプラス評価します。						

科 目 名	乳 児 保 育			単位数	2	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	乳幼児期における、発達の姿を心・体・生活等といった細かい項目に分けて明確に捉えることを目標とする。 特に保育現場における援助方法の概要を提供することにより、乳幼児期の大切さと保育の重要性の実感を高め、理論と実践を結びつけることを本講義のねらいとする。そのため、乳幼児期の心・体の発達と、その発達を支える保育援助の実践との理解を以下の授業計画に沿って深めていきたい。 また、保育士の専門性が求められている昨今、保育士資質向上へ向けて、学生個人個人が目標に照らし合わせて次の学びの第一歩として活用できるよう、講義内容を個別の添削指導により支援していく。						
到達目標	１．乳幼児の発達を支える理論と、乳幼児期を支える保育現場の実践とを結びつけることができる。 ２．学生には毎回の講義におけるレポートを義務付けるため、毎回の講義において定めた各内容を理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	生涯発達という捉え方			第 16 回	発達のながれ	
	第 2 回	乳幼児期① 発達の法則・考え方			第 17 回	人との関わりの発達と保育援助	
	第 3 回	乳幼児期② 新生児期と反射			第 18 回	保育所保育指針と保育援助	
	第 4 回	乳幼児期③ 新生児・乳児期の発達			第 19 回	「養護」と保育援助① 保育所保育指針より	
	第 5 回	乳幼児期④ 離乳食・食事の大切さ			第 20 回	「養護」と保育援助② 安全管理の視点より	
	第 6 回	発達の姿			第 21 回	「教育」と保育援助	
	第 7 回	睡眠の発達と保育援助			第 22 回	乳児期の母子相互作用	
	第 8 回	視覚の発達の保育援助			第 23 回	乳児期の重要性① 乳幼児期の保育	
	第 9 回	聴覚の発達と保育援助			第 24 回	乳児期の重要性② 乳幼児期の脳	
	第 10 回	知覚の発達と保育援助			第 25 回	乳児期の保育援助① 「人間」的発達の契機	
	第 11 回	情緒の発達と保育援助			第 26 回	乳児期の保育援助② あそびの視点	
	第 12 回	言葉の発達と保育援助① 言葉・語彙の発達			第 27 回	保護者支援	
	第 13 回	言葉の発達と保育援助② 絵本の力			第 28 回	保育者としての資質① 現場で求められる資質	
	第 14 回	認知の発達と保育援助			第 29 回	保育者としての資質② ビジネス・ライティング	
	第 15 回	まとめ①			第 30 回	まとめ②	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：毎回の講義の際に、次回の講義における予習課題を明示し、次回の講義の際提出する。				復習：講義終了後、講義の理解を深め、理解の度合いを学生個人個人が確認でき、習得に役立てるための復習課題をおこなう。		
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	課題に対するフィードバックは毎時間行い、レポートに対するフィードバックは翌週行う。						
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（５０％）、課題（５０％）						
教科書	なし						
参考文献	『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会）、『実習育児学』（吉岡毅著、日本小児医事出版） 『保育と保健』（日本保育保健協議会）、『幼児教育と脳』（澤口俊之著、文芸春秋）、 『子どもの脳の発達臨界期・敏感期』（榎原洋一著、講談社）						
注意事項							

科 目 名		障 害 児 保 育		単位数	2	担当教員	さいとう かずよし 齊 藤 和 良
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容		この講義では、障害児保育の基本理念と意義を紹介し、視覚障害、聴覚障害、知的障害や発達障害などの各障害の原因や特性及び保育上の留意点について講義する。さらに障害児の援助方法や家庭支援、医療や福祉などの関係機関との連携のあり方について述べる。					
到 達 目 標		1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解できる。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について工夫できる。 3. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解できる。 4. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解できる。					
授 業 計 画	第 1 回	ガイダンス 障害児保育とは			第 16 回	発達障害児の理解と援助 ① 広汎性発達障害の分類・定義・心理的特徴	
	第 2 回	障害とは 障害の概念、各障害の定義と分類			第 17 回	発達障害児の理解と援助 ② 自閉症スペクトラム障害について	
	第 3 回	障害者処遇の歴史的変遷 障害児・者の歴史の変遷と障害児の保育・教育			第 18 回	発達障害児の理解と援助 ③ 学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)の定義と特徴	
	第 4 回	障害児保育を支える理念 統合保育、ノーマライゼーション、インクルージョン			第 19 回	病弱・身体虚弱児の理解と援助 病弱・身体虚弱の定義、病弱児の心理的特徴と支援	
	第 5 回	障害児保育の意義と基本 障害児と健常児 共に育つことの意味			第 20 回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ① 障害児の親の受容と受容過程、養育態度	
	第 6 回	特別支援教育・障害児保育の対象 特別支援教育の対象と目的、教育の場			第 21 回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ② 家庭保育と家族に対する支援	
	第 7 回	視覚障害児の理解と援助 視覚障害の定義と分類、視覚障害児の心理的特徴			第 22 回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ③ 地域の専門機関等との連携	
	第 8 回	聴覚障害児の理解と援助 聴覚障害の定義と分類、聴覚障害児の心理的援助			第 23 回	障害児保育の実際 ① 障害児保育の目標とその形態	
	第 9 回	肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由児の分類と原因、脳性まひ児の分類			第 24 回	障害児保育の実際 ② 保育所・幼稚園での支援体制とは	
	第 10 回	知的障害児の理解と援助 ① 知能指数とは、知的障害の定義・分類・原因			第 25 回	障害児保育の実際 ③ ケースカンファレンスと保育の評価	
	第 11 回	知的障害児の理解と援助 ② 知的障害児に対する支援			第 26 回	障害児保育の実際 ④ 行動観察による子どもの理解	
	第 12 回	言語障害児の理解と援助 言語障害の定義と分類、言語指導			第 27 回	障害児保育の実際 ⑤ 客観的評価による子どもの理解（スクリーニング検査）	
	第 13 回	情緒障害児の理解と援助 ① 情緒障害の分類、選択性緘黙症やチックの心理的特徴			第 28 回	障害児保育の実際 ⑥ 心理検査による子どもの理解（発達検査・言語検査など）	
	第 14 回	情緒障害児の理解と援助 ② 外傷性ストレス障害(PTSD)の心理的特徴			第 29 回	障害児保育にかかわる現状と課題 保健・医療・福祉・教育における現状と課題	
	第 15 回	前期の総括 及び小テスト			第 30 回	障害児保育の今後のあり方 総括と小テスト	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：シラバスに沿って、授業内容を教科書やインターネット等で調べ、あらかじめ把握しておくこと。				復習：授業で指摘した問題点や要点をまとめる。		
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	後期の授業の始めに、前期に行った小テストを返却し、前期の授業内容を復習し、後期の授業につなげる。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 40%）、レポート・課題（ 30%）、授業態度（ 3 0%）						
教 科 書	『障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して＜第 2 版＞』（藤永保 監修 阿部五月・大熊光穂・小泉左江子・田中規子・村田カズ著 萌文書林）						
参 考 文 献	『よくわかる障害児保育』（尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編、ミネルヴァ書房）						
注 意 事 項	授業中の私語・携帯電話等の使用・飲食は厳禁。 授業への積極的な参加を期待する。						

科 目 名	社 会 的 養 護 内 容		単位数	1	担当教員	まんどう あきお 萬 燈 章 雄
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。					
到 達 目 標	１． アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを理解している。 ２． 様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 ３． より困難な場面においても、社会的養護に携わる保育士の職務と倫理に従い行動できることを身につけている。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション～ 事例研究について 演習Ⅰ 実習生が乳児院で体験したこと（事例）				
	第 2 回	演習Ⅱ 障害児入所施設の事例（ショートステイ・医療型障害児施設）。 「障害受容」と母親の気持ちを理解する。初めて娘を施設に預ける事例。				
	第 3 回	演習Ⅲ 障害児入所施設（医療型障害児施設）の事例 「失敗する権利」について学ぶ。嚥下が不自由になってきても普通食が食べたいという希望があった事例。				
	第 4 回	演習Ⅳ 発達障害児への対応事例（学童保育所・保育所） 暑い日のお散歩で、飲み物ではなくどうしてもパンが欲しいと言う子への対応について。				
	第 5 回	演習Ⅴ 乳児院から養護施設へ 措置変更に関する事例。「愛着の移行」について学ぶ。懐いているのでそのまま乳児院でと主張する担当の保育士。				
	第 6 回	演習Ⅵ 被虐待児への支援について（保育所・幼稚園） 愛着に問題がある子への処遇について学ぶ。担当の先生を独占したがる子への対応。もし、虐待かな？と思ったら・・・など。				
	第 7 回	演習Ⅶ 日常生活支援（児童養護施設） 入所支援。アドミッションケアについて学ぶ。緊急に児童相談所から移送されてきた子への対応。				
	第 8 回	演習Ⅷ 日常生活支援（児童養護施設） インケアについて学ぶ。厳しい清掃指導をしている児童指導員。部活で遅く帰ってきた子への対応について。				
	第 9 回	演習Ⅸ 乳児院から里親へ（児童養護施設・里親） 委託のプロセスや、施設のスタッフとしての支援のあり方など学ぶ。自分に懐いている子を里親さんへ出すと言うことは・・・。				
	第 10 回	演習Ⅹ① 自分の出生について知る権利（児童養護施設・里親） ルーツを知る権利について学習する。ライフストーリーワークについて。①では事例の情報整理。				
	第 11 回	演習Ⅹ② 自分の出生について知る権利（児童養護施設・里親） ②で子どもへの説明を絵にして行う。グループにして紙芝居形式で実施する。ロールプレイング。				
	第 12 回	DVD学習（児童養護施設） 被虐待児のリービングケアについて学ぶ。 なかなか自分で進路が決められない子への支援。				
	第 13 回	演習Ⅺ 児童の権利擁護 被措置児童虐待 援助者としての倫理と責務について学ぶ。施設内虐待に遭遇した事例、高学齢男児から付き合って欲しいと言われた事例。				
	第 14 回	演習Ⅻ① 子どもの自立支援について（児童養護施設） 情報の共有と自立支援計画について学習する。 資料に基づいて事例を整理する。（落ち着かない健人くん）。				
	第 15 回	演習Ⅻ② 子どもの自立支援について（児童養護施設） 情報の共有と自立支援計画について学習する。 事例に基づき自立支援計画を作成する。（落ち着かない健人くん）。				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。				復習：配布した資料を読み返すとともに、メモなども含め管理を徹底すること。	
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	
課題へのフィードバック	原則、事例ごとに全員課題についての意見や考えなど記載して提出してもらいます。提出していただいた資料は簡単ですがコメントと評価をつけてできるだけ返却していくつもりでいます。事例Ⅹはグループごとに評価しコメントします。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（40%）、作品・発表（20%）、授業態度（40%）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	授業中に必要に応じて紹介します。					
注 意 事 項	基本事例も含めプリント資料配布で授業を進めます。この授業は考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。回答の正誤について問いません。なお、配付した資料について、事例を個人情報と見なし、その管理方法など徹底してください。					

科 目 名	保 育 所 実 習 I		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実習			
授 業 の 内 容	保育所実習Ⅰは、保育所実習のうち前期実習にあたり、実習の段階としては「見学・観察実習」となる。前期実習では、保育所の役割と機能を理解する、子どもの発達や援助への理解を深める、保育内容や環境への理解を深める、保育の計画や記録・省察による保育の実践への理解を深めるといった内容を中心に学ぶ。					
到達目標	1. 子どもの生活や遊び、発達過程を理解している。 2. 保育内容や保育環境を理解している。 3. 記録に基づく省察や自己評価ができている。 4. 実習を通して、保育の意義や保育者の役割を理解している。					
授 業 計 画	前期保育所実習は、原則として第2学年の2月に実施する（2週間）。 見学・観察実習の主な内容 1. 保育所の役割と機能 （1）保育所の生活と一日の流れ （2）保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 （1）子どもの観察とその記録による理解 （2）子どもの発達過程の理解 （3）子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 （1）保育の計画に基づく保育内容 （2）子どもの発達過程に応じた保育内容 （3）子どもの生活や遊びと保育環境 （4）子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 （1）保育課程と指導計画の理解と活用 （2）記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携 （3）保育士の役割と職業倫理					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：実習に向けて必要な準備を行うこと。			復習：実習の内容を振り返り、自己課題を明確にすること。		
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	実習の内容について、評価票に基づいて面談を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：実習施設による実習評価（50％）、実習日誌（30％）、実習課題（20％）					
教科書	『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参考文献	授業において紹介する。					
注意事項	実習に参加する学生は、心身ともに健康であり、学内における教科の履修状況・出席・学習態度が良好であること。常に自分自身を見つめ直し、保育者になるための努力を続けることが求められる。					

科 目 名	施 設 実 習		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実習			
授 業 の 内 容	施設実習は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習である。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがある。原則として、１１日間施設に宿泊又は通勤し、利用者と生活をともにしながら実習を行う。					
到 達 目 標	１．事前準備をしっかりと行い、実習施設について理解している。 ２．利用者一人一人への適切な支援のあり方を習得している。 ３．施設の機能を理解している。					
授 業 計 画	・実習施設の一日の生活の流れを知る。 ・保育者の一日の職務を知る。 ・利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。 ・自由時間の過ごし方やレクリエーションについて学ぶ。 ・衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。 ・日中活動における支援のあり方について学ぶ。 ・福祉施設における保育者の役割について学ぶ。 ・福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。 ・施設の機能について多様な視点から学ぶ。 ・福祉事務所、児童相談所など他機関との連携について学ぶ。 ・利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。 以上１１日間の学外実習をする。					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：事前指導の受講が必須。			復習：事後指導の受講・日誌等提出物の整理		
課題へのフィードバック	実習後の面談を通して実習評価を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 実習園評価（５０％）、実習記録（３０％）、実習課題（２０％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	施設実習派遣には、「施設実習研究」の履修が必要条件である。					

科 目 名	保 育 所 実 習 II		単位数	2	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナンバリングコード		0000000	授業形態	実習		
授 業 の 内 容	保育所実習Ⅱは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、さらには子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶ。実習の段階としては「参加・責任実習」であり、子どもの生活や発達へのかかわりを更に深め、保育者として職務内容や職業倫理についても理解を深めることが必要である。					
到 達 目 標	1. 子どもの生活や発達、保育者の役割を理解している。 2. 子どもの生活や発達に即した指導計画の作成方法を身につけている。 3. 子どもの生活や発達に即し、指導計画に基づいて保育実践を行うことができる。 4. 実習の省察・評価から保育の過程を理解している。					
授 業 計 画	後期保育所実習は、原則として第3学年の9月（2週間）に実施する。 参加・責任実習の主な内容 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 （1）養護と教育が一体となつて行われる保育 （2）保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 （1）子どもの心身の状態や活動の観察 （2）保育者の動きや実践の観察 （3）保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携 （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 （2）入所している子どもの保護者支援と地域の子育て家庭への支援 （3）地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （1）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 （2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 （1）多様な保育の展開と保育士の業務 （2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：実習に向けて、指導何の作成など必要な準備を行うこと。			復習：実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	実習の内容について、評価票に基づいて面談を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：実習施設による実習評価（50％）、実習日誌（30％）、実習課題（20％）					
教 科 書	『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参 考 文 献	授業にて紹介する。					
注 意 事 項	保育に関連する教科書・参考文献を読む、また遊びの具体例などについて情報を集めて習熟しておくなど、実習に向けて積極的に自己学習のプランを立て実行すること。					

科 目 名	児 童 館 実 習		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	実習		
授 業 の 内 容	児童館において、約 10 日間の実習を行う。実習を通して、児童館・放課後児童クラブの現場で実際に業務を体験することで、児童館や放課後児童クラブの活動を理解するとともに、自分自身の適性を改めて見つめなおす。					
到 達 目 標	1. 児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解している。 2. 一日の活動プログラムを理解している。 3. 職員、児童の家族、地域社会の連携を理解している。					
授 業 計 画	児童館実習の内容 ① 児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解 ② 一日の活動プログラムの理解 ・母親クラブの活動について ・館全体のプログラム ・放課後児童クラブのプログラム ③ 活動への参加 ・指導職員の助手の立場に立って、参加実習から、実習後半では部分指導実習、責任担当実習に入る。 ④ 職員、児童の家族、地域社会との関係の学習 ・職員集団等専門家集団のチームワーク ・児童の家庭、地域との関わり方 ・児童館と高齢者・ボランティア等の関わりを学ぶ 以上、約 10 日間の校外実習を行う					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：事前指導の受講が必須。				復習：事後指導の受講・日誌等提出物の整理	
課題へのフィードバック	実習後の面談を通して実習評価を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習先評価（50%）、実習記録（30%）、実習課題（20%）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	児童館実習派遣には、「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」、「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法」、「児童館実習研究」の履修が必要条件である。					

科 目 名	保 育 所 実 習 研 究 I		単位数	1	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	保育所実習研究は、前期保育所実習（２年次２月）の事前事後指導である。事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解する、実習課題を明確にする、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、実習に関する必要な知識と心構えを身につけることを目的とする。事後指導では、実習に対する自己評価・反省を求め、後期保育所実習に向けての課題を明らかにし、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていけるよう必要な準備を行っていく。					
到 達 目 標	１．保育所実習の意義や目標を理解している。 ２．子どもの観察や実習記録の意義や方法を理解している。 ２．実習に関する必要な知識と心構えを身につけ、心身ともに実習に向けての準備ができている。 ３．実習を通じて、自己課題を理解している。					
授 業 計 画	第１回	オリエンテーション				
	第２回	保育所実習の意義・目的の理解				
	第３回	前期実習の内容の理解				
	第４回	保育所についての理解				
	第５回	実習の心構え				
	第６回	実習に必要な書類の作成① 実習生調査書の作成				
	第７回	実習に必要な書類の作成② 個人情報保護に関する誓約書等				
	第８回	実習課題を明らかにする				
	第９回	実習記録の意義の理解				
	第１０回	実習記録の実際と方法① 一日の流れをどう書くか				
	第１１回	実習記録の実際と方法② 考察、エピソード記録				
	第１２回	実習に必要な実技の確認				
	第１３回	オリエンテーションと実習中の心得				
	第１４回	実習内容の振り返りとまとめ				
	第１５回	後期保育所実習への課題を明確にする				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：実習に向けて、必要な準備を行うこと。				復習：実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。	
	予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。	
課題へのフィードバック	評価票に基づき、面談を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題・レポート（６０％）、授業態度（３０％）、手続き（１０％）					
教 科 書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』 『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参 考 文 献	授業において紹介する。					
注 意 事 項	授業では、保育園での子どもの生活や実際の実習内容のイメージがもてるように、視聴覚教材やワーク・シートを活用する。実習に関する知識を身につけ、必要な準備を進めるために、原則として欠席はしないこと。					

科 目 名	施 設 実 習 研 究		単位数	1	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	保育所を除く児童福祉施設を中心とした実習準備のための授業である。実習の目的や意義、実習内容等福祉施設実習に必要な知識や技能を学ぶ。また、福祉施設利用者の権利擁護、施設職員としての倫理観、実習生としての勤務のあり方についても学ぶ。実習に必要な書類の提出のほか実習施設から届けられる様々な情報も授業時に伝える。					
到 達 目 標	１．施設の種別、それぞれの機能について理解している。 ２．施設の種別ごとの利用者について理解している。 ３．施設実習に必要な知識や技能を身につけている。					
授 業 計 画	第 1 回	施設実習の位置づけ、意義について 実習申込書（誓約書）の配布				
	第 2 回	実習の要件、実習の形態、実習中に必要とされる事項 実習申込書の提出				
	第 3 回	養育を必要とする福祉施設における実習				
	第 4 回	障がいをもつ人たちのための福祉施設での実習				
	第 5 回	実習希望調査 配当資料の提出				
	第 6 回	養護系福祉施設における実習内容				
	第 7 回	障がいをもつ方が利用する福祉施設における実習内容				
	第 8 回	実習課題について				
	第 9 回	実習書類の記入と提出				
	第 10 回	実習施設におけるオリエンテーションについて				
	第 11 回	実習施設研究				
	第 12 回	実習日誌の書き方				
	第 13 回	実習書類の確認 細菌検査、実習施設に提出するレポートや誓約書等				
	第 14 回	実習直前指導、各種報告書の準備				
	第 15 回	実習評価、個別面談				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：前回の授業内容をふまえて、施設に関する理解や質問をまとめておく。			復習：福祉系、養護系テキスト等の熟読 児童福祉法や関連法規の復習。		
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	提出物等の評価を実習後の面談により伝える。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（５０％）、課題（２０％）、授業態度（２０％）、実習書類提出（１０％）					
教 科 書	『福祉施設実習ハンドブック』（岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 編、株式会社みらい）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。					

科 目 名	保 育 所 実 習 研 究 Ⅱ		単位数	1	担当教員	つちや ゆう 土屋 由
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	保育所実習研究Ⅱは、後期保育所実習（３年次９月）の事前事後指導である。事前指導では、後期保育所実習の目的や内容を理解すること、実習課題を明確にすること、指導計画の作成や実習に必要な実技を確認することを行っていく。事後指導では、実習の総括と自己評価を求め、実習報告会などの振り返りの場を通して、保育についての課題を明確にしていく。					
到 達 目 標	１．実習に関する必要な知識と心構えを身につけ、心身ともに実習に向けての準備を行うことができる。 ２．子どもの生活や遊びに即した指導案の立案ができる。 ３．実習記録を通じて、省察や評価ができる。 ４．実習を通じて、自己課題を明確にしている。					
授 業 計 画	第１回	後期実習の目的・内容の理解				
	第２回	実習に必要な書類の作成① 実習生調査書の作成				
	第３回	実習に必要な書類の作成② 個人情報保護に関する誓約書等				
	第４回	実習課題を明らかにする				
	第５回	指導案作成上の基本の確認				
	第６回	指導案の立案① 幼児クラス主活動				
	第７回	指導案の立案② 幼児クラス生活場面				
	第８回	指導案の立案③ 未満児クラスの場合				
	第９回	指導案の立案④ 未満児クラスの場合				
	第１０回	実習に必要な実技の確認				
	第１１回	実習記録の実際と方法				
	第１２回	実習内容の振り返りとまとめ				
	第１３回	実習報告会の準備				
	第１４回	実習報告会				
	第１５回	実習の総括				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：実習に向けて、必要な準備を行うこと。				復習：実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。	
	予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。	
課題へのフィードバック	評価票に基づき、面談を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題・レポート（６０％）、授業態度（３０％）、手続き（１０％）					
教 科 書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』 『保育実習（基本保育シリーズ）』（児童育成協会、中央法規出版）					
参 考 文 献	授業において紹介する。					
注 意 事 項	指導案の作成にあたり、様々な授業を通して学んできた遊びや造形表現のアイデアが必要になる。子どもとの活動に際して、役に立ちそうなものをノートにまとめておくなど、学びに対する主体的な態度をもつよう心掛けてほしい。実習について必要な準備を進めるため、原則として欠席はしないこと。					

科 目 名	児 童 館 実 習 研 究		単位数	1	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	児童館実習を履修する学生は必ず履修しなければならない。授業は実習の前後にわたって実施される。実習前の授業では、児童館・放課後児童クラブの実際の活動内容を理解するため、先輩の実習報告を参考に理解を深め、実習への動機付けを図る。その上で実習調査書の作成をはじめ、実習の目的やねらいの理解、オリエンテーション、日誌の記入方法、実習手続き書類の作成等の指導を行う。					
到 達 目 標	1. 児童館実習の意義を理解する。 2. 児童館実習に必要な知識と技能を身に付けている。 3. 児童館、放課後児童クラブの特性と実習における課題を理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	児童厚生員－資格の説明と取得までの手順の説明				
	第 2 回	児童館実習参加申込書の配布と申込書の提出				
	第 3 回	児童館実習の意義、目的の理解				
	第 4 回	児童館実習参加者の体験談を聞き、実習内容を理解する				
	第 5 回	児童館実習参加者の体験談を聞き、その感想文を通して、文章の書き方を学ぶ				
	第 6 回	調査書の作成－下書き準備				
	第 7 回	調査書の作成－下書き				
	第 8 回	調査書の作成－清書				
	第 9 回	実習日誌の記入の意義について				
	第 10 回	実習日誌の記入方法(例示)				
	第 11 回	オリエンテーションについて				
	第 12 回	指導案の概要と作成				
	第 13 回	細菌検査の方法とその方法				
	第 14 回	実習後の対応・礼状等－について				
	第 15 回	実習直前指導（実習への心構え、緊急時への対応の確認等々）				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：前回の授業内容をふまえて、児童館・放課後児童クラブに関する理解や質問をまとめておく。				復習：実習後に、児童館からの評価を土台に、良かった点、反省点や今後の課題を明確にし、次の実習へとつなげていく。	
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。	
課題へのフィードバック	提出物等の評価を実習後の面談により伝える。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（30%）授業態度（70%）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	児童館実習派遣には、本授業の他に「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」と「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法」の履修が必要条件である。					

科 目 名	国 語 教 育		単位数	2	担当教員	あさぎ なおみ 浅木 尚実
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	幼児における国語教育は、「幼稚園教育要領」にある通り、「読む・書く」教育よりも、「聞く・話す」である為、コミュニケーションの基礎を学ぶ。幼児が文学を楽しめるような児童文化財を理解し、知識及び技術を習得する。学生自身の日本語力向上の為に、作文、熟語、漢字等を学ぶ。					
到 達 目 標	1. 幼児の成長を促す文学的なわらべうた、絵本、幼年文学を理解し、知識を身に付けている。 2. ことば遊びを通して、ことばの楽しさを身につけている。 3. 伝統的な言語文化である昔話の特色を学び、小学校への国語への連携を理解している。 4. 昔話のパロディを創作し、国語の楽しさを身につけている。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション 作文を書く。				
	第 2 回	絵本① 絵本の基本を学ぶ。 漢字プリント①				
	第 3 回	絵本② 文章の読み方・絵の読み方を知る。 漢字プリント②				
	第 4 回	絵本③ 名作絵本を鑑賞する。『ぐりとぐら』の魅力を考える。 漢字プリント③				
	第 5 回	早口ことば、なぞなぞ、ことば遊び：早口ことば、なぞなぞ、ことば遊びを鑑賞し、各自創作する。				
	第 6 回	詩、幼年文学：鑑賞する。 漢字プリント④				
	第 7 回	敬語を学ぶ。 手紙を書く				
	第 8 回	伝統的な言語文化①：昔話の特色を学ぶ。				
	第 9 回	伝統的な言語文化②：昔話の分析をする。				
	第 10 回	グループ演習①：アクティブラーニング 昔話の紙芝居を演じ、お互いに批評しあう。				
	第 11 回	グループ演習②：アクティブラーニング 昔話の紙芝居を演じ、お互いに批評しあい、振り返りシートにまとめる。				
	第 12 回	グループ演習③：アクティブラーニング 昔話の紙芝居を発表する。				
	第 13 回	パロディとは何か？を学ぶ。				
	第 14 回	伝統的な言語文化③：昔話のパロディを創作する。				
	第 15 回	伝統的な言語文化④：昔話のパロディを発表する。				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業の最後に次回の課題を発表し、それについて準備を行う。			復習：授業で紹介された絵本、幼年文学を多読する。 授業で紹介された参考文献を読む。 プリントの復習をする。		
	予習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	授業内にて小テストを行い、各自解答を確認する。 発表後、振り返りシートに記入し、課題を確認する。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ 10 %）、レポート・課題（40 %）、作品・発表（ 40 %）、授業態度（10 %）					
教 科 書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）					
参 考 文 献	その都度紹介する。					
注 意 事 項	グループによる学習に積極的に参加する。					

科 目 名	数 量 教 育		単位数	2	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	この授業では、いわゆる算数・数学の授業（与えられた問題に対する解答の作成）とは異なり、算数・数学の教育方法のありかたを考える。 身の回りのあらゆる事象を「数」・「量」・「形」の観点から見つめ直すことを通して、「数」・「量」・「形」の意味するものや、「数」・「量」・「形」の取り扱われかたを考察する。					
到達目標	１．私たちの社会が「数」・「量」・「形」を抜きにしては成り立たないことを確認している。 ２．幼少時から慣れ親しんできた「数」・「量」・「形」が、私たち自身の社会感覚の形成過程に際して重要な鍵の一つであることを理解している。 ３．幼稚園児の将来の学校活動（例：算数授業への参加など）や社会活動（例：買い物など）に無理なく結び付けられるような、数量教育指導のありかたを理解している。					
授 業 計 画	第1回	数の面白さ・不思議さ “数”のもつ魅力を概観する。				
	第2回	言葉としての数 “数”が言葉の一種であることを確認する。				
	第3回	数の種類 実際に使われている、いろいろな“数”を概観する。				
	第4回	数量と図形との関係 “かず”と“かたち”との対応を概観する。				
	第5回	生活の中の数・量・形 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観する。				
	第6回	遊びの中の数・量・形① いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観する。				
	第7回	数・量に関する先人の知恵① 実用されている様々な“単位”の意味を概観する。				
	第8回	数・量に関する先人の知恵② これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観する。				
	第9回	文芸作品の中の数・量・形① “数”の観点から、往年の名作（主に文章作品）を鑑賞し直す。				
	第10回	文芸作品の中の数・量・形② “数”の観点から、往年の名作（主に映画作品）を鑑賞し直す。				
	第11回	小・中学校の算数・数学① 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観する。				
	第12回	小・中学校の算数・数学② 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観する。				
	第13回	遊びの中の数・量・形② 数遊びそのものを通して、“数”の面白さを概観する。				
	第14回	幼児教育における数・量・形 未就学児にとって必要な“数”とは何かを見直す。				
	第15回	全体のまとめ 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理する。				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 予習が必要とされる事項については、担当教員が随時指示する。			復習： 復習が必要とされる事項については、担当教員が随時指示する。その他、授業内容について理解不十分なところがあれば、教員に質問するなどして自分自身なりに納得しておくこと。		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	授業期間中に随時、簡単な確認テスト（レポート作成）を実施し、必要な解説を行う。					
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（70％）、授業態度（30％）					
教科書	必要に応じて随時紹介する。					
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(原本)』、(内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社)、『幼稚園教育要領解説』(文部科学省、フレーベル館)、『小学校学習指導要領』(文部科学省、東京書籍)、その他、必要に応じて随時紹介する。					
注意事項	１．他の授業で指定された教科書や参考文献を、この授業でも利用することがある。 ２．保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。					

科 目 名	保 育 者 論			単位数	2	担当教員	いしかわ のぶまさ 石河 信雅
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義				
授 業 の 内 容	少子化、高齢化、情報化社会、知識基盤社会などと現代は表現されている。この様な、社会の変化に伴い保育や保育者の役割が変化しつつある。しかし、保育者はいつでも子どもと共に「過去」「現在」「未来」を生きていかなければならない。子どもと共に、保護者と共に、同僚や地域社会と共に生きることが重要である。そのためには専門家としての職務、資質、専門性、現代社会における保育者の在り方等について、理解を深める。						
到 達 目 標	1 保育の「質」について自分自身の考えが確立している。 2 保育者を目指す身として「今」自分は何をしなければならないかをしっかり見据え、分析し、学びに取り組む姿勢を身に付けている。 3 保育者とは常に学び続けなければならない存在である、そのためには学びの手法を身に付けている。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション 本講義の到達目標をしっかりと確認し、これからの学びについての心構えを持つようにする。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自の意欲化を図る。					
	第 2 回	保育の質について。 保育の質について、各種の「論」を考察し、これから目指すべき幼稚園や保育園等での保育の質について様々な考えがあることを理解する。					
	第 3 回	保育者の質について。保育の質について理解し、その保育を実践する保育者とはどの様であるべきか、その質とはどのようなものかを理解し、これからの学びを自分自身の成長に資するよう意欲化を図る。					
	第 4 回	先人の教えに学ぶ。先人の教えなどにより保育のあるべき姿について考察し、保育者としてあるべき姿を描き、実践者としての質を高めるための方法を理解する。					
	第 5 回	保育の基礎。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」を参考に、保育の実際や保育の基本について理解する。					
	第 6 回	保育者として行うべき仕事について。保育者として、実際に行うべき仕事について実践事例から学ぶ。特に、幼稚園前期実習前でもあるので実習において何を学ぶべきかを理解する。					
	第 7 回	保育者として身に付けておきたい資質について。保育者として身に付けておきたい資質の一つとして、コミュニケーション能力がある。コミュニケーション能力とは何かを実践をとおして学び理解する。					
	第 8 回	保育者として、育てたい幼児像を描く。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」を参考にしながら、育てたい幼児像に迫り考察する。					
	第 9 回	保育実践の実際。子どもたちの実態さらに保護者の願い、社会の様々な要求に応える保育とはどの様であるべきかを分析し、考察する。理想とすべき保育実践を各自のなかで明らかにする。					
	第 10 回	保育者として「理想」の保育を行うために「今」何を学び、何を身に付ければよいのか。理想とする保育実践を行うために「今」何を学び、どのような資質を身に付けておくべきかを理解する。					
	第 11 回	子どもの発達と保育内容。子どもの発達について専門領域で学んだ内容を保育の実践に活かす方法について、事例をもとに学び理解する					
	第 12 回	子育て支援、地域との連携について。子育て支援の実際や地域との連携の実際について事例を通して学び理解する。特に、子育て支援は核家族化における現代社会において重要な事柄であることを理解する。					
	第 13 回	保幼小連携について。保育園、幼稚園、認定こども園と小学校との連携は「今」非常に重要な課題である。特に、小学校での小1プロブレムなどの課題解決のためにもその重要性を理解しておかなければならない。					
	第 14 回	現代社会の情勢について。保育は、社会情勢の在り方に大きく左右される側面を持つ。社会情勢を様々な視点から観られるようになることは保育者として身に付けておきたい資質である。中庸な目での情報収集の在り方について理解する。					
	第 15 回	保育者の成長と同僚性、そしてまとめ。保育者は常に学び続けなければならない。そのためには、学び方を身に付け同僚との学びの重要性について実践事例から学び理解する。いつまでも自分を磨き成長させる保育者となることの重要性を理解する。					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：予習：講義内で次の講義内容について知らせる。それとシラバスに則り事前に、著作物等により講義内容について学び問題意識をもって参加すること。				復習：講義内容について再度見直し自身で身に付けるようにする。また、関連内容について著作物等を参考に、様々な方法で学びを深めるようにすること。		
	予習に要する学習時間：概ね180分を目安とする。						
課題へのフィードバック	日々の講義の中で、レポート等を作成しそのレポートについて朱書きを入れたり、内容について講義中に説明を加えたりする。また、定期試験を実施するが解答を提示し、内容について説明し、最終評価についてなども適切な方法で説明をする。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（50％）、レポート・課題（20％）、授業態度（30％）						
教 科 書	平成 29 年 3 月 31 日告示 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領 全国保育士会編、社会福祉法人全国社会福祉協議会						
参 考 文 献	講義の中で適宜提示する。						
注 意 事 項							

科 目 名	教 育 社 会 学			単位数	2	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	教育という身近な営みを、社会学という学問的立場からアプローチすることで、受講生がこれまで自明視してきた教育観や子ども観を捉えなおし、保育実践に応用可能なものの見方や考え方の獲得を目指す。授業では、テーマにそったドラマや漫画、絵本などを素材に現象を読み解いていく。						
到 達 目 標	１．自己と社会との関わりを日常生活の身近な現象からつかむことができている。 ２．保育者として実践場面に応用可能な社会学的なものの見方を身に付けている。 ３．今日の教育問題を理解している。 ４．受講生同士の意見交換を通して、教育現象をみる視野を広げている。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーションー教育社会学とは何かー					
	第 2 回	社会を見る①ー概念を使ってものを見るー					
	第 3 回	社会を見る②ージェンダーの視点で日常を見るー					
	第 4 回	社会を見る③ー日常に潜む権力関係をつかむー					
	第 5 回	個人と社会①ー役割取得と自我形成ー					
	第 6 回	個人と社会②ー性別役割分業と近代家族ー					
	第 7 回	討論①ードラマ『Woman』にみる家族のかたちー					
	第 8 回	個人と社会③ー子どもの問題行動の捉え方ー					
	第 9 回	社会と制度①ー逸脱と医療化ー					
	第 10 回	社会と制度②ー社会問題としての教育問題ー					
	第 11 回	社会と制度③ーいじめ問題との向き合い方ー					
	第 12 回	討論②ー子どもの多様性を認め合う人間関係とはー					
	第 13 回	現代の教育問題①ー学校に行かない子どもー					
	第 14 回	現代の教育問題②ー教育における排除の問題ー					
	第 15 回	補論					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：次回の講義に関連する資料を配布する。必ず通読したうえで、講義に臨むこと。講義は通読したことを前提で進める。				復習：講義で配布したプリントを再読し、疑問点をまとめておくこと。 講義で紹介した資料や参考文献を手にとり、自分の目で再読すること。		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・授業内課題についてはコメントを付して返却する。 ・レポートは作成過程での提出を求め、修正を指示する。この過程を経て最終レポートの完成を目指す。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（60％）、課題（20％）、授業態度（20％）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	必要に応じて適宜、紹介する。						
注 意 事 項	・授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。 ・授業毎に課題を出す。課題は授業時間内に作成・提出すること。 ・最終授業日にレポートの提出を求める。レポートの課題は事前に提示する。未提出者は欠格とする。						

科 目 名	保 育 課 程 論			単位数	2	担当教員	おおしま おりえ 大 嶋 織江
			授業形態	講義			
授 業 の 内 容	関係法令や幼稚園教育要領に基づき、教育課程や長期・短期の指導計画の作成・立案について理解する。教育課程からどのように指導計画（長期指導計画）が具体化されていくのかについて、実際の教育課程や指導計画をいくつか事例として取り上げながら、子どもの実態に即した計画の立て方や環境構成のあり方について考え、指導計画を作成できる力を養う。						
到 達 目 標	１．教育課程編成の考え方・手順を知り、PDCA サイクルの考え方を理解している。 ２．指導計画の基本や考え方を理解している。 ３．ねらいや子どもの姿から、経験させたい具体的な活動をすぐに思い浮かべることができる。 ４．教育課程・保育課程（全体的な計画）から長期・短期の指導計画を立案することができる。						
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション ～授業内容の説明と予定について～ ～教育課程・保育課程（全体的な計画）とは何か？～					
	第 2 回	保育における計画と評価の意義について					
	第 3 回	カリキュラムの基礎理論について					
	第 4 回	教育課程・保育課程の変遷について					
	第 5 回	改訂幼稚園教育要領と「育みたい資質・能力」について					
	第 6 回	幼稚園・保育所・認定こども園における関係法令について					
	第 7 回	教育課程および全体的な計画等の編成の方法と手順について					
	第 8 回	指導計画の作成① ～長期の指導計画の編成について～					
	第 9 回	指導計画の作成② ～短期の指導計画の編成について～ ごっこ遊びの体験①（お寿司屋さんごっこ）～グループワークと指導案の作成～					
	第 10 回	食育と食育カリキュラムについて					
	第 11 回	子育て支援としての延長保育 ～長時間保育の実践について～					
	第 12 回	ごっこ遊びの体験②（パン屋さんごっこ）～木かる粘土を使つてのパン作り（形づくり）とごっこ遊びに関するグループワーク～					
	第 13 回	ごっこ遊びの体験②（続き）（パン屋さんごっこ）～木かる粘土を使つてのパン作り（色塗り）とごっこ遊びに関するグループワーク～					
	第 14 回	保育の記録および省察について					
	第 15 回	保育の評価と改善 ～PDCA サイクルの考え方について～					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業の前に予習や準備が必要な場合には、適宜指示します。				復習： 毎回のノート整理 （14回目にまとめてノートを提出）		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		
成績のフィードバック	定期試験実施後に解答を示し、解説を行う。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（40％）、レポート・課題（20％）、作品・発表（20％）、実技（10％）、授業態度（10％）						
教 科 書	『保育の計画と評価』宮川萬寿美 編著 萌文書林 2018 —豊富な例で1からわかる—						
参 考 文 献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
注 意 事 項	私語を慎み、質問があるときには、遠慮せずに聞くようにしてください。						

科 目 名	保育内容（音楽表現Ⅱ）		単位数	1	担当教員	にとう ひろみ 二藤 宏美
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	身体を使った音楽表現ゲームを学習します。実際にリーダー役となってクラスのメンバーにゲームを伝える実践を通し、展開手法を学びます。遊びに関連した簡単な歌やピアノの即興演奏を体験します。適宜、サウンドスケープの理念に基づく身近な音探索課題も紹介します。					
到 達 目 標	１．授業で扱った音楽ゲームの内容と意図を理解している。 ２．指導者として状況に応じて柔軟にプログラム展開することができる。 ３．身近な音環境について問題意識をもっている。 ４．聴覚的な想像や音づくり活動の重要性を理解している。					
授 業 計 画	第１回	身近な環境にある音を聴く				
	第２回	私の音楽履歴　静止した音、動く音				
	第３回	からだの中の音、見えない音をみつける				
	第４回	ビートにのろう　リズムのオスティナート				
	第５回	ビートにのろう　変化するリズムパターン				
	第６回	拍子を感じよう　２拍子、３拍子、４拍子				
	第７回	拍子を感じよう　８分の６拍子				
	第８回	フレーズ・呼吸・空間　ともだちとかかわる				
	第９回	フレーズ・呼吸・空間　アクセントを予感して				
	第１０回	即興演奏　高い音　低い音				
	第１１回	即興演奏　ドとソ				
	第１２回	即興演奏　ソファミ　音の階段				
	第１３回	声だけを使った表現（話し合いと創作）				
	第１４回	声だけを使った表現（グループ演習）				
	第１５回	声だけを使った表現（発表）				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：持ち回りでリーダーになり、教科書で紹介されているゲームを伝えます。担当になったら万全に準備をしましょう。				復習：扱ったゲームの意義、プログラム展開、課題、感想をまとめる。	
	予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね　20 分を目安とする。	
課題へのフィードバック	実施後に成績をつける観点を説明する。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（３０％）、作品・発表（３０％）、実技（３０％）、授業態度（１０％）					
教 科 書	『リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック 77 選』（神原雅之、明治図書）					
参 考 文 献	『サウンド・エデュケーション』（R. マリー・シェーファー、春秋社）					
注 意 事 項	音や音楽を扱う授業です。しっかり声を出し、音を奏でるべき場面もあれば、沈黙必須の場面もあります。心して臨んで下さい。					

科 目 名	保育内容（造形表現Ⅱ）		単位数	1	担当教員	たけだ まりえ 武田 真理恵
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	子どもの発達段階を踏まえた造形表現について理解を深めながら、子どもの表現意欲を引き出す言葉がけや関わり方を学びます。素材の持ち味をいかした造形表現を考え、子どもたちが心を解放しいきいきと表現できる行動計画の構成を学びます。					
到 達 目 標	1.保育者としての豊かな感性、および創造性と表現力を身につけ、子どもの表現活動を多様な方面から受け止め支援できる。 2.乳幼児期に適したコミュニケーションの手段を豊富に持ち、子どもが表現したくなる手立てを状況に応じて提供できる専門性を身につける 3.子どもの発達に応じた表現活動の行動計画を考え、構成できる力を身につけている。					
授 業 計 画	第1回	感性・イメージを豊かにする－1 スタンピング（手形スタンプほか）				
	第2回	感性・イメージを豊かにする－2 スタンピング（生活素材でスタンプあそび）				
	第3回	感性・イメージを豊かにする－3 素材をいかした楽器製作				
	第4回	感性・イメージを豊かにする－4 粘土について				
	第5回	遊びを豊かにする－1 人形あそびについて（ペープサート）				
	第6回	遊びを豊かにする－2 人形あそびについて（人形製作1）				
	第7回	遊びを豊かにする－3 人形あそびについて（人形製作2）				
	第8回	遊びを豊かにする－4 子どもの生活とあそび（ままごとあそび）				
	第9回	編む・織る－2 機織り1				
	第10回	編む・織る－3 機織り2				
	第11回	あそびを豊かにする造形表現活動の指導計画				
	第12回	環境・行事を豊かにする－1 四季を彩る保育室インテリア1（グループワーク）				
	第13回	環境・行事を豊かにする－2 四季を彩る保育室インテリア2（グループワーク）				
	第14回	造形表現活動の発表				
	第15回	造形表現活動のまとめとフィードバック・自己評価・ふりかえり				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 1. 次回の授業の製作内容（製作案）を考えながら準備物を整える			復習： 1. 授業を振り返り、製作が終わらなかったものを完成させる。 2. 課題 折り紙の本の製作		
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。		
課題へのフィードバック	課題提出状況のフィードバック 授業での製作作品の評価フィードバック					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（20％）・課題（20％）、作品・発表（40％）、授業態度（20％）					
教 科 書	『楽しい造形表現』（子どもの造形表現研究会 編著、圭文社）					
参 考 文 献	『表現活動の行動計画表づくり』（芸術教育研究所監修、平井由美子編著、黎明書房）ほか					
注 意 事 項	①作品の提出期限を守ること ②授業に必要な道具や材料は各自責任を持って準備すること。 ③製作に要する材料費は本人負担。 ④グループワークは人任せにせず、積極的に関わること					

科 目 名	保 育 指 導 法			単位数	2	担当教員	とうま ゆうこ 當麻 祐子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	基本的な知識と保育教材研究を通して実践的に学ぶ。 様々な教育・保育場面を想定し、ビデオやグループ討議など交えながら学んでいく。						
到 達 目 標	1. 子どもの姿を映したビデオを見て、子ども理解の課題に答えることが出来る。 2. 提示されたエピソードに対し、学生同士で話し合い、色々な視点があることに気付くことが出来る。 3. 指導要領と実際の保育教育をつなげて理解している。 4. 幼児教育に携わることへの責任とやりがいを感じることが出来る						
授 業 計 画	第 1 回	保育指導法とは何か			第 16 回	基本的生活習慣の指導	
	第 2 回	子ども理解と保育方法			第 17 回	園行事について	
	第 3 回	環境を通しての保育①			第 18 回	保育研究～運動～	
	第 4 回	環境を通しての保育②			第 19 回	さまざまな安全指導	
	第 5 回	遊びを通しての保育①			第 20 回	保育研究～絵本～①	
	第 6 回	遊びを通しての保育②			第 21 回	保育研究～絵本～②	
	第 7 回	個と集団の育ち			第 22 回	指導計画について	
	第 8 回	発達の特徴と保育①			第 23 回	実習エピソードから学ぶ①	
	第 9 回	発達の特徴と保育②			第 24 回	実習エピソードから学ぶ②	
	第 10 回	育みたい資質・能力について①			第 25 回	記録と評価	
	第 11 回	育みたい資質・能力について②			第 26 回	特別支援教育について	
	第 12 回	様々な保育形態			第 27 回	幼小連携について	
	第 13 回	保育研究～自然～			第 28 回	地域との連携・保護者との関わり	
	第 14 回	保育研究～動物～			第 29 回	保育者の専門性	
	第 15 回	まとめ			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：日頃から街中や公園などでの幼児の姿に関心を寄せ、捉えておく				復習：授業で使用したプリント等で各自復習する		
	予習に要する学習時間：概ね 3 0 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 1 5 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	次回授業の際にコメントする						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度（20%）						
教 科 書	オリジナルのパワポスライドを使用（適宜配布）						
参 考 文 献	『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針＜原本＞』 （内閣府／文部科学省／厚生労働省 チャイルド本社）						
注 意 事 項	人格の基礎を培う幼児期の保育教育に携わるための勉強であることを自覚して臨むこと。 授業へ取り組む姿勢を重視していく。						

科 目 名	教 育 方 法 ・ 技 術 論		単位数	1	担当教員	とうま ゆうこ 當麻 祐子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	幼児教育における教育方法と技術に関する基本的な事柄について学ぶ。また、情報機器やそれらを活用した教材の活用、教材作成の技術と方法について学び、実際に教材を作成し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは、各回 10 名前後の学生が個人発表の形で行う（発表は全 4 回を予定）。発表内容については、授業時間内に意見交換を行い、良かった点や改善点を学生同士で共有する。					
到 達 目 標	1．保育者の立場にたつて具体的な教育方法について考察できる 2．子どもや保護者を想定して、保育者の実践のねらいを適切に伝える方法を実践できる 3．具体的な情報機器や情報メディアを通じて、教育目標に即した教材を作成できる 4．学生相互が発表する機会をもち、プレゼンテーション能力や聞く態度を身につけている					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション～教育方法とは何か～				
	第 2 回	教育方法の基本原理～教育の目標と手段の関係について～				
	第 3 回	幼児教育における方法と技術①～子ども理解～				
	第 4 回	幼児教育における方法と技術②～ビデオ記録から学ぶ～				
	第 5 回	幼児教育における方法と技術③～事例から学ぶ～				
	第 6 回	幼児教育における方法と技術④～エピソード記述から学ぶ～				
	第 7 回	幼児教育における方法と技術⑤～色々なおたよりから学ぶ～				
	第 8 回	幼児教育における方法と技術⑥～出来事をどのように伝えるか～				
	第 9 回	プレゼンテーションソフトの活用①～教材作成の目標設定と計画設計～				
	第 10 回	プレゼンテーションソフトの活用②～発表資料の制作～				
	第 11 回	プレゼンテーションソフトの活用③～発表資料の制作～				
	第 12 回	プレゼンテーションの技法①～個人発表および意見交換①～				
	第 13 回	プレゼンテーションの技法②～個人発表および意見交換②～				
	第 14 回	プレゼンテーションの技法③～個人発表および意見交換③～				
	第 15 回	プレゼンテーションの技法④～個人発表および意見交換④～				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 幼保施設や児童館で配布される「おたより」などを日ごろから集めておくこと。幼稚園や保育園のHPで用いられている文章や写真に目を通しておくこと。			復習： 授業時間外を利用して、各自の進捗に応じて課題の制作を進めておくこと。		
	予習に要する学習時間：概ね 1 5 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 3 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	同じ課題をもう一度全体で振り返り、新たな気づきや学びにつなげる。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（5 0 %）、作品・発表（3 0 %）、授業態度（2 0 %）					
教 科 書	『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（チャイルド社）					
参 考 文 献	必要に応じて適宜紹介					
注 意 事 項	1．適宜プリントを配布する。 2．毎時間、課題にきちんと取り組むこと。 3．課題の提出期限は厳守すること。					

科 目 名	教 育 相 談			単位数	2	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	カウンセリングの知識等をもとに、幼稚園における幼稚園教諭としての相談技術を学んでいく。						
到 達 目 標	1. 学校・幼稚園における教育相談の意義と理論を理解している。 2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解している。 3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。						
授 業 計 画	第1回	教育相談の意義と考え方					
	第2回	教育相談と心理学的背景					
	第3回	相談が必要となる子どもたち					
	第4回	カウンセリングマインドとは					
	第5回	カウンセリングマインドの実践					
	第6回	クライアント中心療法					
	第7回	クライアント中心療法における受容と共感的理解					
	第8回	クライアント中心療法の実践					
	第9回	教育相談の進め方					
	第10回	相談のよくある事例（子どもの場合）					
	第11回	相談のよくある事例（保護者の場合）					
	第12回	教育相談の環境づくり					
	第13回	地域社会と教育相談					
	第14回	他職種との協働					
	第15回	心理職と幼稚園教諭					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：教科書の読み込み				復習：授業内容を、幼稚園・保育所でどういかに考える		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	レポートにコメントする						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（70％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度（30％）						
教 科 書	事例で学ぶ保育のための相談援助・支援 その方法と実際 同文書院 須永 進 編						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	常に、自分が現場で働く時のことをイメージすること。						

科 目 名	幼 児 教 育 実 習		単位数	4	担当教員	こしかわ ようこ 越川 葉子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	実習		
授 業 の 内 容	授業を通して学んだ知識や技能が、幼児教育の場でいかに活かされ応用することができるかということを実践を通して学ぶ。また、保育の様子を観察する、子どもの活動に参加する、保育者の助手的立場をとるなどの経験を通し、保育者の職務理解に務める。前期実習を 2 年次 11 月に、後期実習を 3 年次 10 月に実施する。					
到 達 目 標	1. 子どもの発達を体験的に学び、子どもの実態に合った保育の営みについて理解している。 2. 保育者の職務理解に努め、責任実習を通し指導方法、指導技術などを体得している。 3. 幼稚園の地域における役割や社会的な機能について理解している。					
授 業 計 画	前期実習（観察・参加実習）			後期実習（参加・責任実習）		
	実習園の概要を知る			幼稚園の特徴、機能や役割を学ぶ		
	実習園の日課を理解する			配属クラスの特徴をつかみ子どもとかかわる		
	配属クラスの子どもの名前を覚える			個々の子どもの特性を把握し、一人ひとりに合ったかかわりをする		
	子どもの遊びに参加する			保育者の保育の進め方や指導方法を学ぶ		
	保育の進め方を観察する			保育の多様な活動の部分を担当する		
	環境構成のあり方を学ぶ			教材研究をする		
	絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等、保育の営みの一部分を担当する			部分実習、責任実習などの指導案を作成し実践する		
	子どもの興味・関心、思考傾向など子どもの実態を知る			登園時、降園時の保育者と保護者のかかわり方を観察する		
	保育者の職務について学ぶ			幼稚園と他機関との連携、子育て支援などについて学ぶ		
	前期実習を振り返り自己評価をする			実習全般の振り返りを行う		
	自己課題を明確にし、後期実習にむけた準備をする			保育者としての自己課題を明確にする		
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： ・絵本や紙芝居等の教材研究をする。 ・子どもに提供できる遊びを身に付ける。 ・ピアノの練習をする。 ・指導案を作成する。			復習： ・実習概要報告書をまとめる。 ・実習を振り返り自己課題を明確にする。 ・学んだ保育技術を明確にする。 ・実践記録について理解を深める。		
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・実習終了後に個別面談にて実習の振り返りと課題の確認を行う。 ・実習終了後、提出された実習日誌の内容を確認し、評価コメントを付して返却する。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習園の評価（50％）、実習日誌評価（50％）					
教 科 書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）					
参 考 文 献	幼稚園教育要領（文部科学省）					
注 意 事 項	実習日誌の提出期限は厳守すること。					

科 目 名	幼 児 教 育 実 習 研 究	単位数	1	担当教員	こしかわようこ ながい 越川葉子・永井めぐみ
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実習		
授 業 の 内 容	この授業は、教育実習が不安なく効果的に行われるよう、実習に向けて事前に準備をするための教科である。実習に必要な書類を整えることから指導案の作成、自己課題の発見と学ぶ範囲も非常に広い。また、実習園からの情報も、基本的には授業内で伝える。映像教材を使用し、幼稚園や保育者、子どもの実態を具体的に理解する。				
到 達 目 標	１．幼稚園の生活に関する基本的事項を理解している。 ２．子どもの発達の様子や遊びの実態を理解している。 ３．幼稚園における保育活動、保育内容を理解している。 ４．教材研究、指導案を作成することができる。				
授 業 計 画	第 1 回	実習に臨むにあたって基本事項の確認		第 16 回	実習報告—グループ、全体—
	第 2 回	幼稚園教育要領解説		第 17 回	実習自己評価と自己課題
	第 3 回	幼稚園の一日の様子を映像から通し学ぶ		第 18 回	自己課題の取り組み方法
	第 4 回	提出書類の作成①—「学生調査書」下書き—		第 19 回	園評価と個別面談
	第 5 回	提出書類の作成②—「学生調査書」清書—		第 20 回	後期実習に向けて
	第 6 回	実習内容—環境整備、子どもの遊びなど—		第 21 回	実習時期と教材研究
	第 7 回	自己紹介の方法と紹介グッズの作成		第 22 回	部分実習指導案の作成
	第 8 回	実習時期の保育や子どもの様子		第 23 回	主活動の指導案作成
	第 9 回	実習課題を考える		第 24 回	一日保育実習指導案の作成
	第 10 回	オリエンテーションの受け方		第 25 回	オリエンテーション報告書と実習巡回教員への挨拶
	第 11 回	実習日誌の書き方①—保育の記録—		第 26 回	後期実習の心得
	第 12 回	実習日誌の書き方②—一日の振り返りと自己評価—		第 27 回	実習反省会
	第 13 回	記録文としての表現方法		第 28 回	実習報告会準備
	第 14 回	実習中の諸注意		第 29 回	実習報告会資料作成
	第 15 回	オリエンテーション報告書、実習報告書の作成		第 30 回	実習報告会
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：			復習：	
	・絵本や手遊びなどを準備する ・実習資料を収集する			・授業中に完成できなかった課題をまとめる ・授業時に提出した課題を振り返る	
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。	
課題へのフィードバック	・授業時に提出されたレポートや課題に授業担当者がコメントを付して返却する。 ・実習園からの評価を受け、個別面談にて今後の課題について検討する。				
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（２０％）、課題（４０％）、作品（２０％）、授業態度（３０％）				
教科書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）				
参考文献	幼稚園教育要領（文科省）、保育雑誌など				
注意事項	事前に十分な準備を行なうことは、子どもや実習園の状況に応じた柔軟な対応を可能にする。受講生には、授業時だけでなく、授業時間外にも書籍や保育雑誌に目を通し、実践方法を学ぶことが求められる。				

科 目 名	保育・教職実践演習（幼稚園）		単位数	2	担当教員	つちや いとう こしかわ あさぎ 土屋・伊藤・越川・浅木
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	将来の教員像を描けるように、教職の意義を実践的な演習体験を通して学び直し、自己の課題を自覚し、教職生活が円滑にスタートできるようにする。主に①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係 能力に関する事項、③幼児理解や学級経営に関する事項、④教科・保育内容に関する事項といった4つの具体的な テーマを中心に履修する。					
到 達 目 標	1. 演習体験を通して、教職生活についての具体的なイメージができる。 2. 他の学生とのディスカッションなどを通じて、視野を広げて子どもとのかかわりを捉えることができる。 3. ポスター発表などを通じて、今日的課題を理解している。					
授 業 計 画	第1回	オリエンテーション（履修カルテの記入）				
	第2回	保育者の言葉を育むために				
	第3回	わらべうた				
	第4回	子どもの権利に関する条約① 「知る」・「読む」・「使いこなす」				
	第5回	子どもの権利に関する条約② 子どもに伝わる俳句を作る【グループワーク】				
	第6回	子どもの権利に関する条約③ 実習体験に基づき事例を作成する（ポスター）				
	第7回	子どもの権利に関する条約④ 【発表】				
	第8回	幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂（改定）①改定のポイントを理解する				
	第9回	幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂（改定）②新旧対照表を読み込む				
	第10回	講演1（クラス運営の実際）				
	第11回	保育の質を考える① 子ども・保護者の置かれている状況の理解【グループワーク】				
	第12回	保育の質を考える② 保育事故、映像から学ぶ				
	第13回	保育の質を考える③ 子どものけが・事故への対応と安全管理【グループワーク】				
	第14回	講演2（職業生活の実際）				
	第15回	授業全体のまとめと振り返り				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：次回の授業に関して、課題が示された場合にしっかりと取り組むこと。				復習：配布資料を読み直し、ディスカッション等で話し合った内容をノートに整理する。	
	予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。	
課題へのフィードバック	ポスター等の発表に対してコメントを伝える。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（40%）、発表（60%）					
教 科 書	特になし					
参 考 文 献	授業において紹介する。					
注 意 事 項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。					

科 目 名	保育相談支援			単位数	2	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義				
授 業 の 内 容	保育相談支援は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や園における子どもの保育・教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになる。本講義では、保育相談支援の基礎的知識の習得と現場で生きる保育相談支援の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。						
到 達 目 標	１．保育者が保育相談支援を行なう意義を理解し説明できる。 ２．保育相談支援の具体的な方法を理解し実践できる。 ３．保育者として、相談者の心に寄り添う保育相談支援の実践をおこなう心を養っている。						
授 業 計 画	第 1 回	１．イントロダクション 保育相談支援とは何か					
	第 2 回	２．体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [相談を受ける時の基本姿勢]					
	第 3 回	ロールプレイ(2) [意思を通じあうこと]					
	第 4 回	３．保育相談支援実践の基本と応用 相談の基礎(1) [概要]					
	第 5 回	相談の基礎(2) [実践へのヒント]					
	第 6 回	相談のための理論の活用					
	第 7 回	相談のための心理アセスメント					
	第 8 回	相談のプロセス					
	第 9 回	相談の技法					
	第 10 回	４．事例から学ぶ保育相談支援 子どもの心の発達・心の問題(1) [登園渋り等]					
	第 11 回	子どもの心の発達・心の問題(2) [逸脱行動等]					
	第 12 回	子どもの心の発達・心の問題(3) [養育不安等]					
	第 13 回	子どもの心の発達・心の問題(4) [保護者の心]					
	第 14 回	５．保育者の心の健康を育む					
	第 15 回	まとめと今後へのアドバイス					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：毎回の講義で扱うテーマの意味、活用等について事前に調べ、考えてくること。				復習：毎回、学んだ知識を正確に習得できるようにすること。		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	受講学生に対して、主に個別に成績のフィードバックをおこなう。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（6 0 %）、レポート（2 0 %）、発表（2 0 %）						
教 科 書	特に指定しない。						
参 考 文 献	須永進(編)(2013)．事例で学ぶ保育のための相談援助・支援～その方法と実際 同文書院 その他講義の際に随時紹介する。						
注 意 事 項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ等も取り入れ、相談等の体験的な学習もおこないたい。 相談を受けて人に関わるとき、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。						

科 目 名	臨 床 心 理 学			単位数	2	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習			
授 業 の 内 容	現代社会では、不登校やいじめ・摂食障害など、こころの問題が原因と思われる現象が様々な場面で見られている。臨床心理学とは、このような問題を、どのように理解し、どのように援助していくかを考える学問である。このような視点を紹介した上で、我々が生活の中で、臨床心理学的な考えをどう活かしていくか考えていきたい。また、臨床心理学では幼少時の母子関係や発達課題などが数多く論じられている。それらを紹介し、幼少時の子どもとのつき合い方を考えていきたい。						
到 達 目 標	1. 臨床心理学という学問分野を理解している。 2. 保育と臨床心理学の接点を考えることができる。 3. 人の心の動きを理解している。						
授 業 計 画	第 1 回	臨床心理学の定義			第 16 回	心理カウンセリングの定義	
	第 2 回	臨床心理学の実践			第 17 回	クライアント中心療法	
	第 3 回	臨床心理学の歴史（古代～メソメル）			第 18 回	クライアント中心療法の実践	
	第 4 回	臨床心理学の歴史（精神分析の始まり）			第 19 回	心理アセスメントの定義	
	第 5 回	臨床心理学の歴史（精神分析の展開）			第 20 回	心理アセスメントの方法	
	第 6 回	ユングの童話分析			第 21 回	言語によるアセスメント	
	第 7 回	臨床心理学の歴史（心理学の技法）			第 22 回	非言語によるアセスメント	
	第 8 回	乳児期の母子関係（フロイト）			第 23 回	心理テスト	
	第 9 回	乳児期の母子関係（メラニー・クライン）			第 24 回	アセスメントと 4 つの水準	
	第 10 回	乳児期の母子関係（ウィニコット）			第 25 回	精神分析の技法（自由連想法・抵抗分析）	
	第 11 回	幼児期前半の母子関係			第 26 回	精神分析の技法（転移・防衛機制）	
	第 12 回	幼児期後半の母子関係			第 27 回	催眠療法	
	第 13 回	児童期以降の発達			第 28 回	認知行動療法	
	第 14 回	前期の復習			第 29 回	リラクセーションとイメージ療法	
	第 15 回	まとめ			第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：1 年次の心理学関連科目の内容を思い出しておくこと。				復習：授業内容を振り返る		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	試験の返却を行う。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（90%）、授業態度（10%）						
教 科 書	なし						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	授業で話した話は全て試験に出る可能性がある。						

科目名	地域子育て支援論	単位数	2	担当教員	つちやゆう こしかわようこ 土屋由・越川葉子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		
授業の内容	現代社会において、子育て支援は重要な課題となっている。一方で、これらの取り組みが始まってからある程度の時間がたち、より地域に根差した新たな支援も考慮しなければならない。本講義では、学生が主体となって実際の支援活動を企画・運営することで「地域子育て支援」のあり方について学ぶ。				
到達目標	１．子育て支援の具体的方法について理解している。 ２．二歳・三歳児と保護者への関わり方を理解している。 ３．子育て支援の効果を理解している。 ４．本学の環境を踏まえた活動の立案を行い、受講生同士で協力し合いながら活動を運営することができる。				
授業計画	第1回	オリエンテーション	第16回	親子活動準備③—指導案の作成—	
	第2回	支援活動内容についての説明	第17回	親子活動準備④—教材準備—	
	第3回	親子活動内容についての検討①—過去の活動内容—	第18回	直前準備	
	第4回	親子活動内容についての検討②—活動のねらい—	第19回	親子活動①—自己紹介、室内遊び—	
	第5回	親子活動内容についての検討③—活動期間の検討—	第20回	親子活動②—制作活動—	
	第6回	親子活動内容についての検討④—主活動案の検討—	第21回	親子活動③—運動遊び—	
	第7回	親子活動内容についての検討⑤—主活動案の決定—	第22回	親子活動④—絵の具遊び—	
	第8回	親子活動内容についての検討⑥—活動担当決め—	第23回	親子活動⑤—制作活動、振り返り—	
	第9回	親子活動内容についての検討⑦—各回の検討—	第24回	活動振り返り1（1回につき3・4名ずつ）	
	第10回	親子活動内容についての検討⑧—各回の決定—	第25回	活動振り返り2（1回につき3・4名ずつ）	
	第11回	親子活動の広報に関する検討	第26回	活動振り返り3（1回につき3・4名ずつ）	
	第12回	ポスター、チラシの製作	第27回	活動振り返り4（1回につき3・4名ずつ）	
	第13回	ポスターの掲示、チラシの配布	第28回	活動振り返り5（1回につき3・4名ずつ）	
	第14回	親子活動準備①—模擬制作—	第29回	次年度に向けた意見交換	
	第15回	親子活動準備②—模擬活動—	第30回	まとめ	
授業に対する 予習・復習	予習：活動に向けた話し合いを受けて、教材の準備を行うこと。		復習：活動内容を振り返り、良かった点や改善点を各自でまとめること。		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・話し合いの内容および方向性について助言する。 ・活動の振り返りにおいて、活動内容および参加態度についてコメントする。				
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 授業態度（100％）				
教科書	なし				
参考文献	なし				
注意事項	・20名までの受講とする。 ・活動の実施時期・方法については、前年度までの取り組みを踏まえて授業時に検討する。				

科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ 論			単位数	2	担当教員	か が や たかふみ 加賀谷 崇文
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライアントの話しを如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライアントの悩みの聞き方を考えていく。 <u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u>						
到 達 目 標	1. カウンセリングの方法を理解している。 2. ピアヘルピングについて理解している。 3. カウンセリング的援助の実践を行う事ができる。						
授 業 計 画	第1回	カウンセリングの定義					
	第2回	カウンセリングの初期の流れ					
	第3回	実際のカウンセリング					
	第4回	構成的グループ・エンカウンター					
	第5回	ピアヘルピングの方法（信頼関係の構築）					
	第6回	ピアヘルピングの方法（問題の把握）					
	第7回	ピアヘルピングの方法（援助法の選択）					
	第8回	ピアヘルピングの方法（青年期の問題）					
	第9回	ピアヘルピングの方法（応用編）					
	第10回	ピアヘルピングの方法（ロールプレイ）					
	第11回	カウンセリングで起こりやすい問題点					
	第12回	様々な症例に対するカウンセリング					
	第13回	カウンセリングと保育					
	第14回	カウンセリングと子育て支援					
	第15回	まとめ					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：教科書を熟読する				復習：教科書を再度読む		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	評価基準をあげておく						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（90％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度（10％）						
教 科 書	『ピアヘルパー・ハンドブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社） 『ピアヘルパー・ワークブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社）						
参 考 文 献	なし						
注 意 事 項	聴くことについて学ぶ授業なので、授業内容もしっかりと聴くこと。						

科 目 名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	児童館は、子どもに健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉法による児童厚生施設である。そして、放課後児童クラブは、同法に基づき小学生のうち、保護者が昼間家庭にいないものに、適切な遊び及び生活の場を与え、健全な育成を図る事業である。授業では、児童館・放課後児童クラブの歴史、目的、役割、利用状況、現状・課題を学んでいく。また実習で活用できる遊び等も紹介する。					
到 達 目 標	1. 児童館・放課後児童クラブの機能や地域における役割を理解している。 2. 児童館・放課後児童クラブにおける子育て支援や児童の健全育成を理解している。 3. 児童館が小学生及び中・高生の居場所づくりなど、地域の核となる児童福祉施設として重要な役割を担っていることを理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	児童厚生員とその資格の説明				
	第 2 回	児童館の説明				
	第 3 回	現代の子どもたちの遊び環境				
	第 4 回	「健全育成」とは				
	第 5 回	児童館の起源、種別及び機能				
	第 6 回	小型児童館・児童センター・大型児童館の設置及び運営				
	第 7 回	児童館ガイドライン				
	第 8 回	児童館の課題と展望				
	第 9 回	放課後児童健全育成事業の概要と実態				
	第 10 回	放課後児童クラブの説明				
	第 11 回	放課後児童クラブの現状と課題				
	第 12 回	児童館の活動内容と事例				
	第 13 回	放課後児童クラブの活動内容と事例				
	第 14 回	地域で支える健全育成				
	第 15 回	これまでのまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業前に前回の授業の振り返りを各自で行い、シラバスを元に次回授業部分のテキストを読み、理解を深めること。				復習：配布した資料、教科書を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。	
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	
課題へのフィードバック	・講義の中で必要に応じて小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（50％）、課題（20％）、授業態度（30％）					
教 科 書	『健全育成論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。					

科 目 名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法		単位数	2	担当教員	いがき としろう 井垣 利朗
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動概要、行事の企画立案法、利用者への対応、地域とのかかわり等、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を学んでいく。また、実践的な指導スキルが身につくように、授業の中で DVD 映像と実習に活用できる遊びを紹介する。					
到 達 目 標	１．児童館・放課後児童クラブの機能と役割、活動の概要を提示することができる。 ２．地域の子育て支援のエキスパートとして、児童のソーシャルワークスキルを身につけている。 ３．子育て支援法、ボランティアの育成法等の実施方法を身につけている。 ４．現場における実践可能なプログラムの企画立案ができる。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション（児童館・放課後児童クラブの一日、年間の流れ）				
	第 2 回	児童館の概要（児童館の歴史と設置目的、法的根拠、児童館ガイドライン等）				
	第 3 回	子どもの発達と遊びの支援の実際				
	第 4 回	子どもの遊びを通じた健全育成				
	第 5 回	子どもの居場所づくりと保護者への子育ての拠点事業				
	第 6 回	ボランティアの育成と地域連携				
	第 7 回	放課後児童クラブの概要（法的根拠、活動内容、育成支援の内容、放課後児童クラブ運営指針等）				
	第 8 回	子育て子育てで支援を行う乳幼児活動（地域子育ての支援プログラム、支援法）				
	第 9 回	体験・自己実現を目指す小学生活動（仲間づくり、支援法）				
	第 10 回	地域社会と結びつける中高生活動（地域連携、子どもの意見を取り入れた活動）				
	第 11 回	子どものニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（個人ワーク、グループ演習）				
	第 12 回	グループ企画発表会と講評				
	第 13 回	児童館の職務と必要なスキルと子どもの接し方（ケースワーク、グループワーク）				
	第 14 回	児童館・放課後児童クラブの運営（倫理、安全管理、防犯防災対策等）				
	第 15 回	まとめ（児童館・放課後児童クラブに求められる社会的課題）				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：「放課後児童クラブ調査（第 7 回）」「イベント企画立案（第 11 回）」「イベント企画書（第 12 回）」「児童館の必要性（第 15 回）」提出			復習：配布資料を再読し、授業内容を復習する。「児童館調査（第 5 回）」提出		
	予習に要する学習時間：概ね 100 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 80 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	最終講義の中で、総評を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（１５％）、作品・発表（１５％）、実技（１５％）、授業態度（５５％）					
教 科 書	「なし」 毎回、資料を配布する。					
参 考 文 献	『児童館論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）、『健全育成論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団） 『児童館の機能と運営』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）					
注 意 事 項	・配布するすべての資料を毎回の授業に持参すること。 ・課題は、期限を厳守すること。 ・欠席回数が、全授業の 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象外となる。					

科 目 名	福 祉 施 設 の 現 状		単位数	2	担当教員	こむろ たいじ 小室 泰治
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	福祉施設の利用者は、社会的養護を必要とする子どもたちや障害を持った子どもたち（成人施設を含む）である。その利用者は施設でどのような生活をし、将来自立した生活を行うために保育士や職員はどのような支援を行っているのか、保育士の役割など事例を通して自立支援のあり方を理解し、課題を整理しながら実践の場で活用できるようにする。					
到 達 目 標	１．福祉施設の入退所に係る児童相談所や福祉事務所などの措置、支援について説明ができる。 ２．各福祉施設の支援内容について説明ができる。 ３．福祉施設職員として支援のあり方について説明ができる。					
授 業 計 画	第 1 回	社会的養護の必要な子どもの現状 福祉施設は各種ある。それぞれの施設はどのような役割を担っているかを学ぶ				
	第 2 回	福祉施設の入所から退所までの手続き 措置機関としての児童相談所、福祉事務所の役割について理解する				
	第 3 回	乳児院の現状と課題 乳児院の子どもたちの生活の現状と保育士の役割、愛着関係の形成について理解する				
	第 4 回	児童養護施設の現状と課題 児童養護施設での保育士の役割や被虐待児への支援、自立に向けた支援のあり方について考える				
	第 5 回	情緒障害児施設の現状と課題 情緒障害児施設での保育士の役割や家族支援のあり方について考える				
	第 6 回	児童自立支援施設の現状と課題 児童自立支援施設に入所する児童の事例から、非行と虐待の関係について検証する				
	第 7 回	母子生活支援施設の現状と課題 母子への支援はどのように行われるか、事例を通して保育士の役割を考える				
	第 8 回	障害者生活支援施設の現状と課題① 障害者総合福祉法及び障害者の自立と社会参加のついてどのような支援が行われているかを理解する				
	第 9 回	障害者生活支援施設の現状と課題② 自立に向けた福祉的就労と地域社会の資源の活用方法について考える				
	第 10 回	児童発達支援施設の現状と課題 施設内での訓練や保育士の役割を理解する				
	第 11 回	里親制度の現状と課題 被虐待児の増加と里親養育の意義について事例を通して考える				
	第 12 回	福祉施設の新しい動き 施設生活から地域生活重視へ グループホームやファミリーホームなど				
	第 13 回	福祉施設の倫理 児童養護施設や障害児施設での体罰事例を通して職員の倫理を考える				
	第 14 回	認可外保育施設の現状と課題 民間事業者参入に伴う認可外保育施設の増加と課題について考える				
	第 15 回	福祉施設のリスクマネジメント まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 施設の種別ごとにグループでレポートしてもらうので、日ごろからニュースや新聞報道に目を通して関心を持っておくこと。				復習： 内容・ポイントを整理する	
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。	
課題へのフィードバック	定期試験後解答を示し解説を行う					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（6 0 %）、レポート・課題（4 0 %）					
教 科 書	なし （適宜プリントを配布）					
参 考 文 献	『子どもたちの生活を支える社会的養護内容』（小野澤昇・田中利則・大塚良一 編著）					
注 意 事 項	１．授業中スマートホンなどはカバンの中に入れておくこと。 ２．レポートを発表してもらうので積極的に参加すること。					

科 目 名	地 域 福 祉		単位数	2	担当教員	あきやま ひろこ 秋 山 展子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	本講義では地域福祉の発展過程を踏まえながら、将来の展望を示し、社会福祉に必要な知識を学ぶことを目的としている。					
到 達 目 標	1．地域福祉の基本的な考え方とシステムを理解している。 2．行政組織と民間組織の役割を理解している。 3．現代における地域福祉の課題を理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	新しい社会福祉システム				
	第 2 回	地域福祉の基本的な考え方				
	第 3 回	地域福祉の主体と福祉教育				
	第 4 回	行政組織と民間組織の役割と実際				
	第 5 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割				
	第 6 回	住民の参加と方法				
	第 7 回	ソーシャルサポートネットワーク				
	第 8 回	地域における社会資源活用・調整・開発				
	第 9 回	地域における福祉ニーズの把握方法				
	第 10 回	地域トータルケアシステムの構築と実際				
	第 11 回	民生委員とは				
	第 12 回	地域における福祉サービスの実際				
	第 13 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方				
	第 14 回	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション				
	第 15 回	これまでのまとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業前に前回の授業の振り返りを各自で行い、シラバスを元に次回授業部分のテキストを読み、理解を深めること。			復習：配布した資料、教科書を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	・講義の中で必要に応じて小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（60％）、課題（10％）、授業態度（30％）					
教 科 書	『子育てとケアの原理』（高橋貴志監修、望月雅和編著、北樹出版）					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。					

科 目 名	保 育 施 設 経 営 論		単位数	2	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	講義		
授 業 の 内 容	保育所を経営するということは、保育実践による“価値”を生み出し続けることである。そのためには、経営の条件を知り、「何のために」「何を大事にして」「どうあるべきか」を考え尽くすことが経営者の義務であり、なすべきことである。本講義において、保育活動の本質を「経営品質」の視点から考察し、現場において活用できるように細分化する。また、保育所施設経営を左右する保育士の重要性に対する実感を本講義のねらいとしたい。					
到 達 目 標	１．保育者として立つ経営の倫理観を習得している。 ２．保育者として資質を向上させる視点を習得している。 ３．保育所施設経営の観点から、実践を磨いていく具体的な方法を習得している。					
授 業 計 画	第 1 回	保育所経営の条件				
	第 2 回	価値を生み出す保育所経営活動				
	第 3 回	保育所におけるリーダーシップ				
	第 4 回	保育所における社会的責任				
	第 5 回	保育業界市場の理解と対応				
	第 6 回	保育所戦略の策定と展開				
	第 7 回	保育士の能力向上				
	第 8 回	保育所の能力向上				
	第 9 回	保育現場という職場環境				
	第 10 回	保育価値創造のプロセス				
	第 11 回	情報マネジメント				
	第 12 回	保育所経営活動結果分析				
	第 13 回	人事・労務管理				
	第 14 回	施設・整備管理				
	第 15 回	まとめ				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：毎回の授業時に、講義内容を踏まえた予習課題を明示する。			復習：毎回の授業後に、講義内容の理解を図るための復習課題をおこなう。 (添削指導を行い必ず理解につなげ発展できるよう指導する。)		
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	課題（予習課題）に対するフィードバックは毎時間行い、レポート（復習課題）に対するフィードバックは翌週行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（５０％）、課題（５０％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	『社会福祉施設・事業者の為の経営ハンドブック』（東京都社会福祉協議会） 『日本経営品質賞アセスメント基準書』（日本経営品質委員会）、日本経営品質学会機関誌					
注 意 事 項						

科 目 名	児童文化（感受性開発を含む）		単位数	2	担当教員	あさぎ　　なおみ 浅木　　尚実
ナンバリングコード		0000000	授業形態	演習		
授 業 の 内 容	子どもの文化は、しあわせな子ども時代を実現できる学問であることを理解する。児童文化財（わらべうた、手遊び、絵本、おはなし、紙芝居、パネルシアター、エプロンシアター、おもちゃ等）全般に亘って、知識を深める。保育士、保護者、子どもが、相互に交流できる楽しいコミュニケーションの仕方を学ぶ。					
到 達 目 標	１．子どもの文化全般の知識を習得している。 ２．文化財の表現の仕方と実技力を習得している。 ３．楽しみながら、制作、実演し、自らの感性を高めることができる。					
授 業 計 画	第 1 回	児童文化の概念の成立と変遷			第 16 回	手作りおもちゃ制作②　制作する。
	第 2 回	子ども観の歴史			第 17 回	手作りおもちゃ制作①　デザインを考える。
	第 3 回	子どもの文化財の背景と特色 1：わらべうた・手遊び			第 18 回	手作りおもちゃ制作②　制作する。
	第 4 回	子どもの文化財のグループ演習①：わらべうた・手遊び			第 19 回	グループ発表：夏祭り
	第 5 回	子どもの文化財のグループ演習②：わらべうた・手遊び			第 20 回	子どもの文化財の背景と特色 6：季節の行事・遊び
	第 6 回	子どもの文化財の背景と特色 2：手袋人形			第 21 回	子どもの文化財のグループ演習①：季節の行事・遊び
	第 7 回	子どもの文化財のグループ演習①：ミトンぐまを作る。			第 22 回	子どもの文化財の背景と特色 7：パネルシアターとは何か？
	第 8 回	子どもの文化財のグループ演習②：ミトンぐまを演じる。			第 23 回	パネルシアター制作①： 型紙をとる。　　　デザインをする。
	第 9 回	子どもの文化財の背景と特色 3：絵本の歴史			第 24 回	パネルシアター又はエプロンシアター制作②　： P ペーパーに型どりする。パーツを作成する。
	第 10 回	子どもの文化財の背景と特色 4：絵本とは何か？			第 25 回	パネルシアター又はエプロンシアター制作③： 色を塗る。　　　エプロンの仕掛けを作成する。
	第 11 回	子どもの文化財の背景と特色 5：絵本の特色			第 26 回	パネルシアター又はエプロンシアター制作④ 脚本を作成する。
	第 12 回	子どもの文化財のグループ演習①：絵本を読む			第 27 回	発表　発表の仕方を学ぶ。
	第 13 回	子どもの文化財のグループ演習②：絵本の読み方			第 28 回	発表　発表する。
	第 14 回	発表　絵本の読み聞かせ実践①			第 29 回	発表　質疑応答。
	第 15 回	発表　絵本の読み聞かせ実践②			第 30 回	まとめ
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：授業の終わりに、次回の学習に関連した内容と予習すべき事項を示す。 発表内容をまとめ、発表資料及び手順の準備を行う。 制作作品の材料の準備をする。				復習：授業中に復習すべき重要事項を示す。 制作を補充する。	
予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。		
課題へのフィードバック	授業中に小テストを行い、試験後、解答の解説と振り返りを行う。 発表後に、各自振り返りシートに記入する。クラスにて発表内容の振り返りを行う。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（　60　％）、作品・発表（　30　％）、授業態度（　10　％）					
教 科 書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）					
参 考 文 献	その都度紹介する。					
注 意 事 項	児童文化に関する講義と演習をテーマごとに交互に行うため、準備、復習を行うこと。 制作に必要な材料を準備すること。ミトンぐまキット代として 1000 円を準備すること。 各自、発表の準備を行うこと。					

科 目 名	イ ン タ ー ン シ ッ プ			単位数	2	担当教員	はしもと ようこ 橋 本 洋子
ナンバリングコード		0000000	授業形態	実習			
授 業 の 内 容	インターンシップ（就業体験）は学外実習のひとつであり、様々な分野の企業等の就業体験を通して職業理解を深め、広い視野をもつことができる。この授業は長期休業期間等を利用して実施されるインターンシップ実習、および事前事後指導からなる。実務体験を通して、自身の職業適性、社会人に求められる基礎学力、キャリア形成を考える絶好の機会である。						
到 達 目 標	1．授業を通して社会人として必要なビジネスマナーを習得している。 2．就業体験を通して仕事への責任感を持つことができる。 3．就業体験を通して自己の課題に気づき自主的に行動することができる。						
授 業 計 画	第1回	ガイダンス① 地域保育学科におけるインターンシップ実習の意義、概要、今後のスケジュール					
	第2回	ガイダンス② インターンシップ実習報告会（前回実習参加者による体験発表）					
	第3回	インターンシップへの心構え、受入事業体の職種および業務内容の理解					
	第4回	実習申込み手続き					
	第5回	学内選考（書類・面談）					
	第6回	実習先事業体の決定					
	第7回	事前指導① インターンシップ参加目的と目標設定、必要な手続き等の説明					
	第8回	事前指導② 学外向け書類の作成および提出					
	第9回	事前指導③ 社会人としての基本マナー等					
	第10回	就業体験（現場での実務体験）事業体によって実習時期、期間が異なる					
	第11回						
	第12回						
	第13回	事後指導① 記録の提出、報告書の作成					
	第14回	事後指導② 面談、実習報告会の準備					
	第15回	事後指導③ インターンシップ実習報告会					
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：シラバスおよび授業内での指示にしたがい、事前にテキストに目を通しておく。				復習：指示された課題をすませておく。提出書類は期限を遵守すること。		
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。				復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。		
課題へのフィードバック	インターンシップの事前・事後指導および就業体験全般に対して講評を行う。						
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習（60％）、課題（20％）、授業態度（20％）						
教 科 書	『新編 ワークで学ぶ インターンシップ・リテラシー』（長谷川文代 編、西文社）						
参 考 文 献	必要に応じて紹介する。						
注 意 事 項	1．実習に必要な手続きおよび書類作成は授業内で行う。必ず出席すること。 2．事前・事後指導の無断欠席は派遣を中止する場合もある。 3．学外授業を実施する場合もあるので指示に従うこと。						

科 目 名	レ ク リ エ ー シ ョ ン 論		単位数	2	担当教員	し ん ど のぶゆき 新 戸 信 之
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義			
授 業 の 内 容	過去の経験により形成された「レクリエーション」の概念を検証するとともに、レクリエーション運動の歴史を紐解きながら、様々な領域・場面におけるレクリエーション活動の意義や効果・必要性について、企画方法・実技とも連動させ、体系的に学習する。					
到 達 目 標	１．レクリエーションの本質を理解している。 ２．レクリエーション支援の企画から事後評価に係る一連のプロセスについて理解している。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション 自由とレクリエーション				
	第 2 回	レクリエーションとは何か レクリエーション略史				
	第 3 回	レクリエーション支援の構造				
	第 4 回	領域別レクリエーション				
	第 5 回	ライフスタイルとレクリエーション				
	第 6 回	健康スポーツとレクリエーション				
	第 7 回	セラピューティックレクリエーション APIE プロセス				
	第 8 回	レクリエーションの価値とニーズ 財の分類				
	第 9 回	レクリエーション事業とは				
	第 10 回	レクリエーション事業計画				
	第 11 回	レクリエーション行動のメカニズム				
	第 12 回	コミュニケーションスキルとホスピタリティ				
	第 13 回	レクリエーションワーカーの資質 安全管理				
	第 14 回	支援プログラム案の作成方法				
	第 15 回	定期試験				
	第 16 回	まとめ、定期試験の解説				
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 各回の内容をキーワードに、書籍やネットサイトを検索し、予備知識を得る。			復習： 授業内容を振り返り、疑問点や理解しきれていない点を洗い出す。		
	予習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 9 0 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	定期試験の解説					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（8 0 %）、授業態度（2 0 %）					
教 科 書	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』（日本レクリエーション協会）					
参 考 文 献	『レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術』（日本レクリエーション協会） 『レクリエーション活動援助法』（福祉士資格講座編集委員会、中央法規）					
注 意 事 項	授業時間内の飲食とスマートフォンについては特に厳しく対処します。					

科 目 名	レ ク リ エ ー シ ョ ン 実 技		単 位 数	2	担当教員	し ん ど のぶゆき 新 戸 信 之
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実技			
授 業 の 内 容	前期は、様々なレクリエーション財を体験することにより、それぞれの持つおもしろさや効果を感じることを目的とし、後期は、日時・場所・対象など、支援現場に即した状況でロールプレイをすることにより、現場対応力を身につけることを目的とする。 1年を通して、レクリエーションを学んだ者のスペシャリティとなり得るスキルを習得することを目的とする。					
到 達 目 標	1．事前情報に即した支援プログラムを作成できる。 2．支援現場の状況に応じた対応ができる。					
授 業 計 画	第 1 回	オリエンテーション コミュニケーション・ワーク（個人→グループ）		第 16 回	レクリエーションプログラム案の作成①	
	第 2 回	動的グループ・ゲーム		第 17 回	レクリエーションプログラム案の作成②	
	第 3 回	静的グループ・ゲーム		第 18 回	支援プログラム評価の視点について 携帯メールによる他者評価の方法について	
	第 4 回	イニシアティブ・ゲーム		第 19 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表の準備・リハーサル	
	第 5 回	グループ・ワーク・トレーニング		第 20 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ①	
	第 6 回	レクリエーション・スポーツ① 「チャレンジ・ザ・ゲーム」		第 21 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ②	
	第 7 回	レクリエーション・スポーツ② 「ドッジビー」「アルティメット」		第 22 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ③	
	第 8 回	身近な物を利用して遊ぶ		第 23 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ④	
	第 9 回	知的レクリエーション財		第 24 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ⑤	
	第 10 回	スポーツ① 「バドミントン」		第 25 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ⑥	
	第 11 回	スポーツ② 「バレーボール」		第 26 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ⑦	
	第 12 回	創造的レクリエーション財（絵画）		第 27 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ⑧	
	第 13 回	創造的レクリエーション財（造形）		第 28 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ⑨	
	第 14 回	スマートフォンを利用して遊ぶ 「SNS フォトコンテスト」		第 29 回	ロールプレイによるレクリエーション支援発表：グループ⑩	
	第 15 回	スマートフォンを利用して遊ぶ 「フォトラリー」		第 30 回	まとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：後期の「ロールプレイによるレクリエーション支援発表」については、過去の他者評価を参考にして臨む。リハーサルは必須。			復習：後期の「ロールプレイによるレクリエーション支援発表」については、発表後、自己評価と他者評価を基に指導案を修正し、完成させる。		
	予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。			復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。		
課題へのフィードバック	後期の支援発表後にアドバイスをする。					
成 績 評 価	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート（１０％）、作品（１０％）、発表（５０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	なし					
参 考 文 献	なし					
注 意 事 項	携帯メールによる他者評価をレポートとする。					